

設置の趣旨等を記載した書類

資 料 目 次

資料	1-1	世界の鐘
資料	1-2	学校法人高知学園及び高知学園短期大学沿革
資料	1-3	最近10年間の就職実績
資料	1-4	高知の経済とマーケティング情報「ビジネス高知」
資料	1-5	さんSUN高知No.203
資料	1-6	日本一の健康長寿県構想 第3期Ver.2(抜粋)
資料	1-7	高知学園大学の新設に係る要望書・賛同書
資料	1-8	都道府県別1人当り県民所得
資料	1-9	名称変更に係る事前相談の結果について
資料	1-10	「健康教育演習Ⅰ」シラバス
資料	1-11	「健康教育演習Ⅱ」シラバス
資料	1-12	イキイキ健康フェア
資料	5-1	高知学園就業規則(抜粋)
資料	5-2	定年に関する規程 高知学園大学の教員採用及び定年に関する規程の適用について
資料	6-1	健康科学部管理栄養学科 カリキュラム・マップ
資料	6-2	健康科学部臨床検査学科 カリキュラム・マップ
資料	6-3	健康科学部管理栄養学科 時間割
資料	6-4	健康科学部臨床検査学科 時間割
資料	6-5	健康科学部管理栄養学科 履修モデル
資料	6-6	健康科学部臨床検査学科 履修モデル
資料	6-7	カウンセリング委員会 カード・相談申込書
資料	7-1	文部科学省「木の学校づくりー木造3階建て校舎の手引ー」
資料	7-2	機械器具、標本及び模型
資料	7-3	図書の整備計画及び購読雑誌、文献データベース一覧
資料	7-4	高知県図書館協会規約(会員一覧含む)
資料	9-1	専門科目と管理栄養士学校指定規則との対比表
資料	9-2	健康マスター検定要項
資料	9-3	教育課程と臨床検査技師学校指定規則との対比表
資料	9-4	健康食品管理士認定試験要項
資料	9-5	中級、上級バイオ技術者認定試験要項
資料	9-6	医療情報技師能力検定試験要項
資料	10-1	健康科学部管理栄養学科臨地実習一覧表
資料	10-2	健康科学部管理栄養学科臨地実習承諾書
資料	10-3	健康科学部管理栄養学科臨地実習要項
資料	10-4	飛翔式
資料	10-5	健康科学部管理栄養学科臨地実習巡回指導計画
資料	10-6	健康科学部臨床検査学科臨地実習一覧表
資料	10-7	健康科学部臨床検査学科臨地実習承諾書
資料	10-8	健康科学部臨床検査学科臨地実習の要項
資料	10-9	宣誓式
資料	10-10	健康科学部臨床検査学科臨地実習巡回指導計画
資料	12-1	高知学園大学自己点検評価委員会規程
資料	12-2	高知学園大学自己点検評価作業連絡会規程
資料	12-3	高知学園大学自己点検評価検討会議規程
資料	14-1	高知学園大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程
資料	14-2	高知学園大学スタッフ・ディベロップメント(SD)委員会規程
資料	15-1	高知学園大学就職委員会規程
資料	15-2	キャリア・ノート



建学の精神

高知学園のシンボル「世界の鐘」

この鐘の音のとどろくところ

永遠の真理と希望にかがやき

世界の平和と友愛にみつ



昭和 32 年 3 月、現在の場所（旭ヶ丘に高知学園が移転した時に、教育の象徴としてつねに精神的な拠り所となり、永久に心の中に生きるものをと考え

「世界の平和と友愛」

の願いを込めて、世界 25 カ国 85 校のハイスクールからその国の銅貨の寄贈を仰ぎ、それを鑄込んで出来たのが、この世界の鐘である。

平成 17 年 11 月には、世界 40 カ国から送られた銅貨をもって、初代の鐘の精神を受け継ぎ二代目の鐘が鑄造され、

「この鐘の音のとどろくところ永遠の真理と希望にかがやき世界の平和と友愛にみつ」と刻まれた鐘は、1 日に 2 回、澄んだ音色を響かせています。

学校法人高知学園及び高知学園短期大学沿革

明治32年	4月	江陽学舎として創立（創立者：信清権馬）
大正8年	4月	城東商業学校設立
昭和23年	3月	城東高等学校・城東中学校設立（現在の高等学校と中学校）
昭和27年	3月	学校法人城東学園に組織変更 城東学園附属幼稚園設立
昭和31年	5月	学校法人城東学園を学校法人高知学園に組織変更 城東高等学校を高知高等学校（普通科、商業科）に、城東中学校を高知中学校に、城東学園附属幼稚園を高知学園附属幼稚園に改称
昭和31年	12月	高知小学校創立
昭和35年	1月	高知学園高知工業高等学校を開校
昭和38年	3月	高知工業専門学校を開校（翌年国立高知工業高等専門学校に移管）
昭和42年	1月	高知学園短期大学（食物栄養科）設置認可
昭和42年	2月	高知学園短期大学に衛生技術科設置認可
昭和42年	3月	高知学園短期大学食物栄養科を栄養士養成課程として指定 高知学園短期大学食物栄養科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定。 中学校教諭二級普通免許（保健・家庭）
昭和42年	4月	高知学園短期大学衛生技術科を衛生検査技師養成学校として指定
昭和44年	2月	高知学園短期大学に幼児教育科設置認可 高知学園短期大学幼児教育科を保育士養成学校として指定 高知学園短期大学幼児教育科を幼稚園教諭二級普通免許を得させるための課程として認定
昭和45年	1月	高知学園短期大学に保健科設置認可
昭和45年	2月	高知学園短期大学保健科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定 中学校教諭二級普通免許(保健)、養護教諭二級普通免許
昭和45年	4月	高知学園短期大学保健科を歯科衛生士学校養成所指定規則第2条の規定に基づき歯科衛生士養成学校として指定
昭和46年	4月	高知学園短期大学衛生技術科を臨床検査技師学校養成所指定規則第2条の規定に基づき臨床検査技師養成学校として指定
昭和62年	12月	高知学園短期大学保健科に保健専攻、歯科衛生専攻設置
昭和63年	1月	高知学園短期大学保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を修得させるための課程として認定 中学校教諭二級普通免許(保健)、養護教諭二級普通免許
昭和63年	3月	高知学園短期大学保健科歯科衛生専攻を歯科衛生士学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき歯科衛生士学校として指定

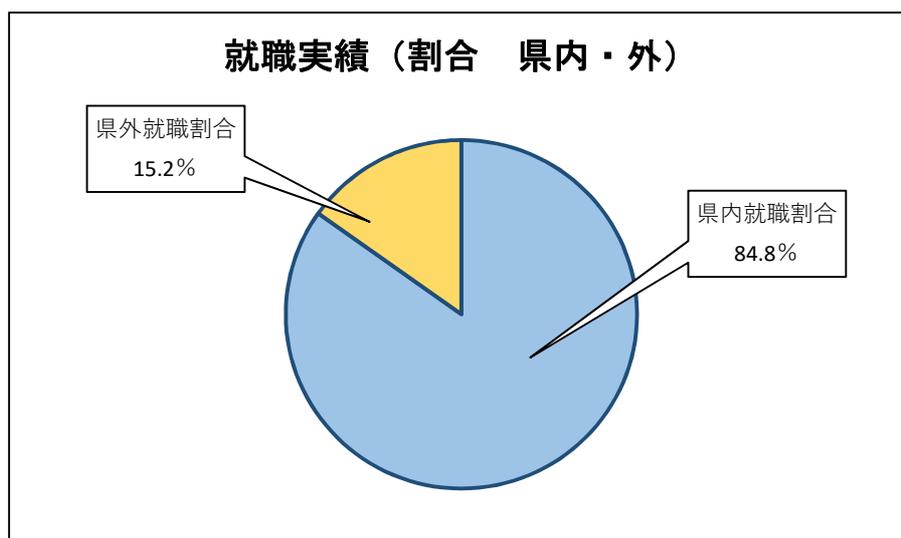
平成 2年 3月	高知学園短期大学食物栄養科、幼児教育科および保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定 食物栄養科：中学校教諭二種免許状（家庭） 幼児教育科：幼稚園教諭二種免許状 保健科保健専攻：中学校教諭二種免許状（保健）、 養護教諭二種免許状
平成 7年 4月	高知幼稚園を高知学園短期大学附属高知幼稚園と改称
平成12年 2月	高知学園短期大学幼児教育科および保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための、大学の正規の課程として認定 幼児教育科：幼稚園教諭二種免許状 保健科保健専攻保健コース：中学校教諭二種免許状(保健) 同科 同専攻養護コース：養護教諭二種免許状
平成13年 4月	高知学園短期大学専攻科応用生命科学専攻設置
平成17年 4月	高知学園短期大学食物栄養科を生活科学学科に、幼児教育科を幼児保育学科に科名変更するとともに、幼児保育学科の入学定員を50名から70名に増員
平成18年 3月	高知学園短期大学保健科保健専攻廃止
平成18年 4月	衛生技術科及び保健科を医療衛生学科に変更し、医療検査専攻と歯科衛生専攻に専攻分離 医療衛生学科歯科衛生専攻の修業年限を2年から3年に変更
平成18年 6月	高知学園短期大学の看護学科設置届出受理
平成18年 7月	高知学園短期大学の収容定員増認可 生活科学学科の入学定員を100名から80名に、幼児保育学科の入学定員を70名から80名に医療衛生学科歯科衛生専攻の入学定員を50名から40名に変更し、看護学科（入学定員60名）を設置することによる短期大学全体の収容定員増認可
平成18年10月	高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻、歯科衛生専攻を臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律第15条第1号、歯科衛生士法第12条第1号に定める学校として指定
平成19年10月	高知学園短期大学看護学科を保健師助産師看護師法施行令第12条の規定に基づき看護師学校等として指定
平成19年12月	高知学園短期大学看護学科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程として認定（養護教諭二種免許状）
平成20年 3月	高知学園短期大学衛生技術科及び保健科歯科衛生専攻を廃止
平成20年 4月	高知学園短期大学看護学科設置
平成23年 2月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻設置認定 (平成23年4月1日設置)

平成26年	9月	高知学園短期大学専攻科応用生命科学専攻を学士の学位に係る特例の適用認定（平成27年4月1日適用）
-------	----	--

平成29年	2月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を学士の学位に係る特例の適用認定（平成29年4月1日適用）
-------	----	---

最近10年間の就職実績（高知学園短期大学）

年度		生活科学 学科	幼児保育 学科	医療検査 専攻	歯科衛生 専攻	看護学科	応用生命 科学専攻	地域看護 学専攻	合計	高知県就 職割合
平成19年度	県内	63	65	18	1	0	6	-	153	87.4%
	県外	3	6	13	0	0	0	-	22	
平成20年度	県内	69	78	11	28	0	6	-	192	88.9%
	県外	4	2	10	6	0	2	-	24	
平成21年度	県内	51	59	20	27	0	4	-	161	95.3%
	県外	3	2	1	2	0	0	-	8	
平成22年度	県内	60	67	22	17	37	9	-	212	90.6%
	県外	6	5	3	0	8	0	-	22	
平成23年度	県内	51	75	18	33	29	5	14	225	84.6%
	県外	2	5	8	3	18	0	5	41	
平成24年度	県内	61	65	14	23	33	3	10	209	79.8%
	県外	3	5	11	5	15	2	12	53	
平成25年度	県内	62	78	12	30	41	3	7	233	82.0%
	県外	5	3	11	5	12	4	11	51	
平成26年度	県内	57	73	14	30	33	3	16	226	84.6%
	県外	8	4	5	9	9	2	4	41	
平成27年度	県内	47	75	17	13	34	7	15	208	80.6%
	県外	8	2	11	4	16	4	5	50	
平成28年度	県内	61	79	7	22	41	4	9	223	80.8%
	県外	11	3	9	0	12	5	13	53	
合計	県内	582	714	153	224	248	50	71	2042	84.8%
	県外	53	37	82	34	90	19	50	365	



1 設置の趣旨等を記載した書類

資料1-4 高知の経済とマーケティング情報「ビジネス高知」

2 出典

高知の経済とマーケティング情報「ビジネス高知」コラム

県外記者からの目線第21回：「高齢化・人口減先進県高知」の知恵を全国に
(2010年7月9日)

3 <https://www.asahi-area.com/bk/column/m21.htm>

1 設置の趣旨等を記載した書類

資料 1 - 5 さん SUN 高知 No.203

2 出典

高知県広報紙 さん SUN 高知 平成 24 年 (2012) 1 月号 No.203

3 <https://www.pref.kochi.lg.jp/~kouhou/sansun/H23/120102.htm>

日本一の健康長寿県構想

県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるために

第3期 (H28~H31) Ver. 2



● ● ● ● ●
第3期構想の視点と全体像…………… P 1

Ver. 2バージョンアップのポイント…………… P 3

5つの大目標…………… P 5

大目標Ⅰの取り組み…………… P15

特集①「高知家健康パスポート」事業 …… P19

大目標Ⅱの取り組み…………… P20

大目標Ⅲの取り組み…………… P28

特集②「子ども食堂」への支援…………… P32

特集③「高知版ネウボラ」の推進…………… P33

大目標Ⅳの取り組み…………… P34

大目標Ⅴの取り組み…………… P37

中山間対策の取り組み…………… P39

南海トラフ地震対策行動計画における
主な取り組み…………… P40

各種相談・お問い合わせ一覧…………… P41



平成29年5月 高知県



目指すのは、県民の誰もが住み慣れた地域で、 安心して暮らし続けることのできる「**日本一の健康長寿県**」です

目指す姿の実現に向けて

- 平成22年2月 保健・医療・福祉の各分野の課題を分析し、「**日本一の健康長寿県構想**」を策定
- 平成24年2月 中山間対策や南海トラフ地震対策、目指す姿の明確化などの6つの視点を盛り込んだ「**第2期構想**」を策定（第2期：平成24～27年度）
- 平成28年2月 本県が抱える根本的な課題を解決するために、5つの柱を設定した「**第3期構想**」を策定

■ ■ 第3期「日本一の健康長寿県構想」の視点 ■ ■

- ◆本県が抱える根本的な課題を解決するために、第3期構想では新たに**5つの柱**を設定し、より本格的な対策を推進します。

大目標Ⅰ 壮年期の死亡率の改善

全国に比べて高い壮年期世代の死亡率を改善します！

大目標Ⅱ 地域地域で安心して住み続けられる県づくり

必要な医療・介護サービスを受けられ、地域地域で安心して住み続けることのできる県づくりを進めます！

大目標Ⅲ 厳しい環境にある子どもたちへの支援

厳しい環境にある子どもたちの進学や就職などの希望を叶え、次代を担う子どもたちを守り育てる環境づくりを進めます！

大目標Ⅳ 少子化対策の抜本強化

「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の取り組みなどによって、少子化対策を官民協働の県民運動として展開します！

大目標Ⅴ 医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化

医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化を推進します！

- ◆4年後（平成31年度末）、10年後（平成37年度末）の目指す姿を明らかにし、県民と成功イメージを共有します。
- ◆県民ニーズへの対応やPDCAサイクルによる検証を通じて、個々の取り組みを毎年度バージョンアップします。

平成29年2月 これまでの成果と課題を検証し、**第3期「バージョン2」**へ改定しました。今後も、この構想に掲げる取り組みを着実に進めていきます。

日本一の健康長寿県構想を通じて目指す姿

I 壮年期の死亡率の改善

平成37年度末の目指す姿

健康管理に取り組む人が増え、壮年期の過剰死亡が改善されています。

健康教育の推進

- ・子どもの頃から健康的な生活習慣が定着する。

「ヘルシー・高知家・プロジェクト」の推進

- ・県民の健康意識が醸成され、健康的な保健行動が定着する。

がん予防の推進

- ・がん検診の意義・重要性が浸透し、利便性の向上により受診行動に結びつく。

血管病対策の推進

- ・血管病の早期発見・早期治療等により、重症化を予防する。



- ・自殺死亡率の高い中山間地域等で自殺者数が減少している。
- ・うつ病やアルコール健康障害の悩みなどへの相談支援体制が整っている。



II 地域地域で安心して住み続けられる県づくり

平成37年度末の目指す姿

県内どこに住んでいても必要な医療、介護サービスを受けられ、健やかに安心して暮らしています。



日々の暮らしを支える高知型福祉の仕組みづくり

- ・あったかふれあいセンターのサービス提供機能が充実・強化され、高知型福祉の拠点として整備されている。
- ・地域の実情に応じて、多様な介護予防や日常生活を支援するサービスの提供体制が整備され、在宅生活のQOL向上につながっている。
- ・地域における発達支援が必要な子どもたちへの支援体制が整備されている。
- ・障害のある人の一般就労への移行が促進されている。

病気になっても安心な地域での医療体制づくり

- ・救急医療の適正な受診が進むとともに、地域の二次救急医療機関の強化と、円滑な救急搬送が行われている。
- ・若手医師の減少や地域・診療科間での医師の偏在が緩和されるとともに、必要な看護職員が確保されている。

介護が必要になっても地域で暮らし続けられる仕組みづくり

- ・在宅医療や介護に関わる医療機関や介護サービス提供事業者が増え、在宅での療養者が増加している。

III 厳しい環境にある子どもたちへの支援

平成37年度末の目指す姿

次代を担う子どもたちを守り育てる環境が整っています。

子どもたちへの支援策の抜本強化 保護者等への支援策の抜本強化

- ・厳しい環境にある子どもたちの学びの場や居場所の充実、保護者等への就労支援の強化などにより、子どもたちの進学や就職の希望が叶うとともに、貧困の連鎖が解消に向かっている。
- ・無職の非行少年等の自立と就労支援に向けた取り組みなどにより、少年の非行率や再非行率などが減少している。

児童虐待防止対策の推進

- ・児童虐待などへの相談支援体制が抜本強化されるとともに、地域で要保護児童を見守る仕組みが定着している。



IV 少子化対策の抜本強化

平成37年度末の目指す姿

県民総ぐるみの少子化対策が進み、職場や地域で安心して子どもを産み育てることのできる環境が整っています。

「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の取り組みなどによって、少子化対策を官民協働の県民運動として展開

- ・支援を望むより多くの方の結婚、妊娠、出産、子育ての希望が、より早く叶えられている。
- ・理想とする子どもの人数の希望が、より叶えられている。



V 医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化

平成37年度末の目指す姿

医療や介護などのサービス需要に適應する人材が安定的に確保されるとともに、地域で雇用を創出する産業として育成・振興されています。

地域ニーズに応じた介護・障害福祉サービス量の確保

- ・住み慣れた地域で安心して生活するために必要な介護サービス・障害福祉サービスが確保されている。

福祉・介護職場で活躍する人材の安定確保とサービスの質の向上

- ・資格取得支援策の抜本強化や福祉人材センターのマッチング力の強化による新たな人材の参入が進んでいる。
- ・福祉研修センターの研修体制が充実・強化され、キャリアアップや復職支援等による人材の定着と参入の促進が図られている。
- ・福祉機器の導入促進等による職場環境の改善を通じて離職率が低下している。



I 壮年期の死亡率の改善

1 子どもの健康教育の推進 **拡充**

健康的な生活習慣の定着を図るため、子どもたちへの健康教育を充実するとともに地域の住民組織と連携して、家庭での実践や保護者などの意識向上につなげます。

- ・全ての小中高の授業で副読本を活用した健康教育を実施
- ・ヘルスメイトによる食育を通じた健康教育の実施校を拡充



2 「ヘルシー・高知家・プロジェクト」の推進 **拡充**

県民の健康意識の更なる醸成と健康的な保健行動を促進するため、「高知家健康パスポート事業」に新たにランクアップの仕組みを導入します。

- ・「健康パスポートII」の導入
- ・市町村や事業所の健康づくり事業での活用を促進



3 血管病（脳血管疾患、心疾患、糖尿病）対策の推進 **拡充**

血管病の重症化を防ぐため、治療が必要とされながら放置しているハイリスク者や治療を中断していた方が確実に医療機関を受診するよう、市町村の取り組みを支援します。

- ・対象者に治療の必要性を理解してもらうための受診勧奨リーフレットの作成
- ・受診勧奨を行う保健師等を対象にした研修の充実
- ・地域の病院等と連携した管理栄養士による栄養食事指導を推進

II 地域地域で安心して住み続けられる県づくり

1 あったかふれあいセンターの整備と機能強化 **拡充**

あったかふれあいセンターの基盤を活かして、それぞれの地域のニーズに対応した多様な福祉サービスの提供体制の構築を進めます。

- ・派遣する職種を拡充（リハビリテーション専門職等に加え、歯科衛生士、栄養士）することにより、地域の実情に応じた介護予防の取り組みを充実
- ・集いの場を活用した子育て支援サービス（子ども食堂、親子の集いの場など）や高齢者等のショートステイサービスの提供等の充実



2 入院から在宅等への円滑な移行の推進 **NEW**

在宅医療を推進するため、入院から転院、退院、在宅生活への円滑な移行に向けた切れ目のない支援体制を構築していきます。

- ・患者に応じた空き病床を幅広い候補から選択できる転院支援システムの構築
- ・広域的な退院調整ルール策定等への支援



3 訪問看護サービスの充実 **拡充**

中山間地域等にも訪問看護サービスが行き渡るよう、遠隔地への訪問に対する支援を充実します。

- ・不採算地域の訪問看護サービスへの支援の充実
- ・訪問看護師によるあったかふれあいセンター利用者への訪問看護事業の紹介や健康相談を実施
- ・訪問看護ステーションのサテライトの設置促進

4 医療的ケアの必要な子ども等とその家族への支援の強化 **拡充**

医療的ケアが必要な本人とそのご家族の負担を少しでも軽減するため、保育所等での受け入れ体制や家族支援を充実します。

- ・保育所等で医療的ケア児に対応するための支援制度の新設（加配看護師の経費、看護師が保育所等へ訪問する経費、医療機関へ受診する際の訪問看護師の付添等の経費への助成）
- ・重度障害児者の家族を対象としたピアカウンセラー養成研修の新設

バージョンアップのポイント

Ⅲ 厳しい環境にある子どもたちへの支援

1 「子ども食堂」への支援 **NEW**

食事の提供を通じて、子どもや保護者の居場所となり地域の見守りなどにつながる「子ども食堂」の取り組みを支援します。



- ・新規開設の仕方や運営方法を分かりやすく説明した手引書の作成・配布
- ・子ども食堂の開設や運営・拡充に関する経費の助成（子ども食堂を支援するための基金を新設し、広く寄附を募集）など

2 「高知版ネウボラ」の推進 **拡充**

子育て世代包括支援センターの設置や、主に0～2歳児の子育て家庭を対象とした子育ての不安の解消を図る交流の場の設置などを進め、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を強化します。

- ・子育て世代包括支援センターの設置推進
- ・地域子育て支援センターの新設と機能拡充への支援
- ・多機能型保育所等への支援
- ・あったかふれあいセンターの機能の充実



3 学校をプラットフォームとした支援策の充実・強化 **拡充**

就学前から高等学校までの子どもの成長段階に応じて、厳しい環境にある子ども達への支援を充実します。

- ・学校支援地域本部の設置促進と活動内容の充実
- ・放課後学習支援員の配置数の増

Ⅳ 少子化対策の抜本強化

1 「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」との官民協働の取り組みを推進 **拡充**

応援団の登録数の増加に向けた取り組みを拡大するとともに応援団と協働した取り組みを充実します。

- ・民間団体のネットワークを生かした応援団登録の勧誘
- ・応援団交流会の開催による情報共有の場づくり



2 マッチングシステムの拡充 **拡充**

出会いや結婚への支援を希望する独身者への出会いの機会を提供する「マッチングシステム」を拡充します。

- ・登録閲覧ブースの増設（高知センター：3→4）
- ・マッチングシステムへのビッグデータの分析手法の導入（個々の会員が実際にお相手を選んだ条件を統計化し、その分析結果を活用してお勧めのお相手をシステム側から紹介）



Ⅴ 医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化

1 働く上での不安等の解消 **拡充**

給与や有給休暇の取得、子育てとの両立といった、働く上での悩み・不安・不満を解消するための取り組みを強化します。

- ・処遇改善加算の取得を通じて介護職員の処遇を改善するため各事業所への支援を実施
- ・現任介護職員の働く上での悩みを解消するための相談窓口を設置
- ・有給休暇の取得に係る代替職員の派遣を実施



2 多様な働き方を可能とする職場づくり **NEW**

これまで介護職場で働くことが困難だった中高年齢者や主婦等の方の就労を促進するため、柔軟な働き方が可能な職場づくりを推進します。

- ・業務の「切り出し」・「再編成」を通じて、日中の決まった時間帯での勤務等を希望する中高年齢者や主婦等が、介護職場で働ける環境づくりを促進



3 人材確保の好循環の強化に向けた検討 **NEW**

介護サービスへのニーズが高まり続ける中、より安定的に介護人材を確保していくための方策について検討を進めます。

- ・「介護の仕事の魅力の向上」と「利用者のQOLの向上」の好循環をより強力に機能させるための新たな仕組みについて検討

大目標Ⅰ 壮年期の死亡率の改善

主な目標

男性の壮年期(40~64歳)死亡率：全国平均並み
 <現状>H27…本県：403.4、全国：365.8(37.6の差)
 (人口10万人対年齢調整死亡率)

現状

- 働き盛り世代の男性の死亡率が高い
- 本県の死亡原因のトップは「がん」
- 心疾患・脳血管疾患は、男性の死亡率が全国平均より高い

これまでの成果

- 壮年期世代(男性)の死亡率は、直近の5年間で全国との差が大きく縮小
- がん検診受診率(40~59歳) 肺がん(H21)43.4% → (H27)54.7% (H27) 胃40.2% 大腸42.5% 子宮頸 44.8% 乳48.9%
- 特定健診受診率(全体)…(H21)35.8% → (H26)44.7%
- 成人の1日野菜摂取量…(H23)277g → (H28)295g

課題

- がん検診、特定健診の受診率向上
- 食生活や運動習慣など、健康的な生活習慣の定着と、健康づくり意識の更なる醸成が必要
- 血管病のハイリスク者を確実に医療機関へつなぐ仕組みづくり

健康づくり 疾病予防

健康教育の推進

子どもの頃から健康的な生活習慣を身につけるため、学校・家庭・地域が連携した取り組みを推進

学校で

- 小・中・高校生を対象に副読本等を活用した健康教育の実施

家庭で

- ヘルスメイトによる食育を通じた健康教育

地域で

- 保育士・幼稚園教諭、市町村職員への研修

健康づくり がん予防の推進

がん検診の受診率向上

意義・重要性の周知

利用性の向上

- 市町村検診の広域化
- 複数の受診が可能なセット検診の促進
- 土・日検診実施医療機関の周知(乳・子宮頸がん)

健康づくり 早期発見 早期治療

特定健診の受診率向上

対象者への受診勧奨の徹底

重症化予防

- 未治療、治療中断者への対応強化

健康づくり 特定保健指導の強化

歯周病予防による全身疾患対策

妊婦への歯科健診による早期予防

特定健診の受診率向上

- 対象者への受診勧奨の徹底
- がん検診とのセット化による利便性の向上

健康づくり 特定保健指導の強化

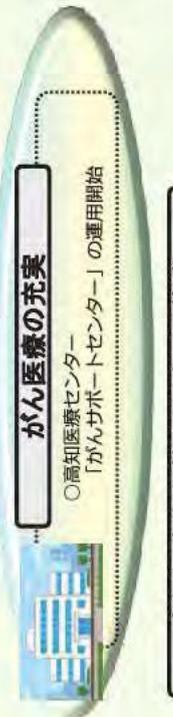
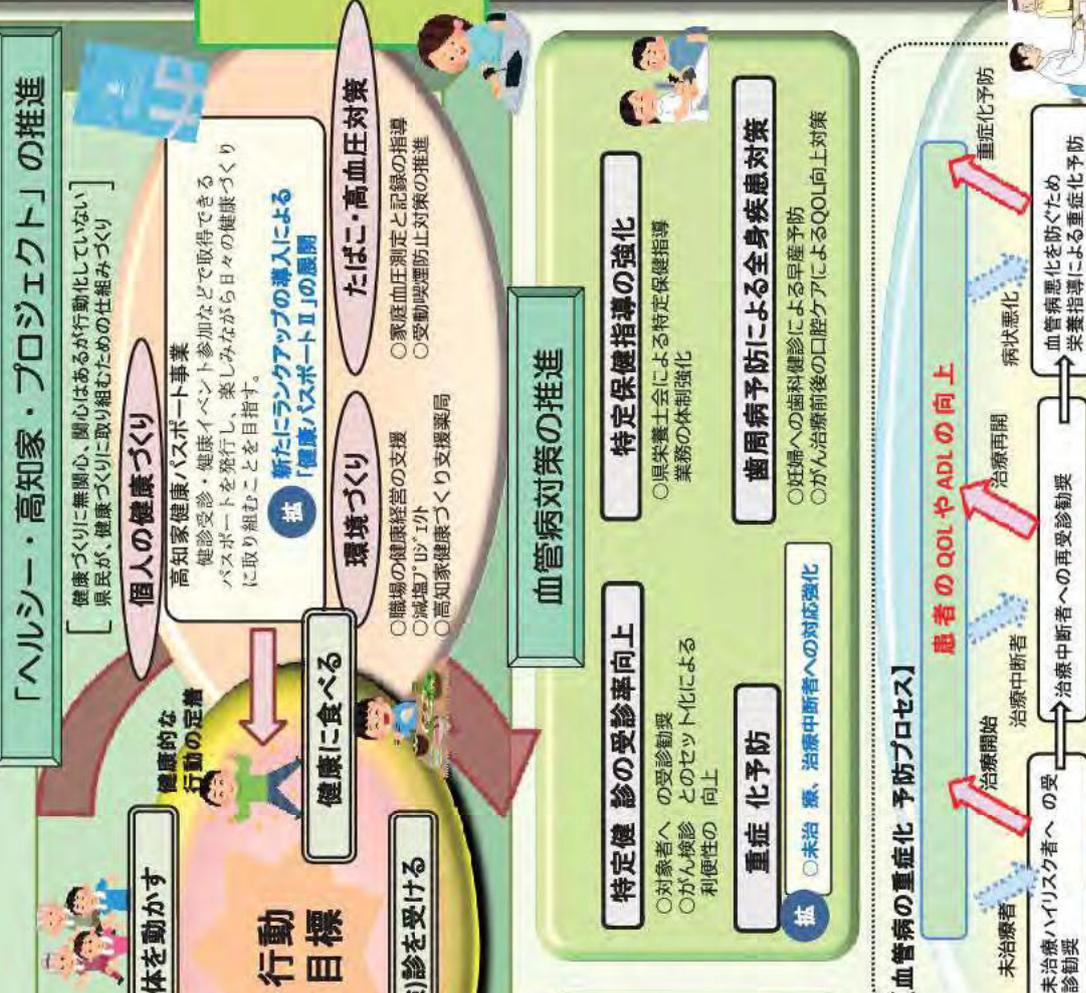
歯周病予防による全身疾患対策

妊婦への歯科健診による早期予防

歯周病予防による全身疾患対策

- 妊婦への歯科健診による早期予防
- がん治療前後の口腔ケアによるQOL向上対策

健康管理に取り組む人が増え、壮年期の過剰死亡が改善する！



高知県自殺対策行動計画の推進

大目標Ⅱ

地域地域で安心して住み続けられる県づくり

10年後の姿
(H37年度末)

県内どこに住んでいても必要な医療、介護サービスを受けられ、健やかに安心して暮らしています。

現状

- 人口の減少や高齢化が進み、単身や高齢者の世帯が増加
- あつたかふれあいセンターや地域福祉アクションプランなどを通じ、地域の見守りネットワークが広がりがつつある
- 都市部と中山間地域の医療提供体制には大きな差がある
- 病院からの退院支援に対する支援体制の強化が必要

これまでの成果

- あつたかふれあいセンターの整備 (H21年度) 22市町村、28か所 ⇒ (H28年度) 29市町村、44か所 + 206サテライト
- 中山間地域等への在宅介護、訪問看護サービス提供件数 (H23) 467人 ⇒ (H27) 677人
- 在宅介護の実利用回数を (H25) 3,979回 ⇒ (H28) 9,055回
- 県内初期研修医採用数 (H21) 36人 ⇒ (H29.4) 57人

課題

- ① 多様な介護予防や日常生活を支援するサービスの提供体制の整備によるQOLの向上
- ② あつたかふれあいセンターのサービス提供機能の充実・強化
- ③ 在宅医療を選択できる環境の整備
- ④ 円滑な在宅生活に向けた医療と介護の連携

拡 ○介護予防、日常生活支援サービスの充実・強化
○民生委員・児童委員等と連携した支え合いの強化

拡 元気で住み続けるための介護予防の仕組みづくり

あつたかふれあいセンターの整備と機能強化

拡 ○介護予防サービスの充実・強化
拡 ○それぞれの地域ニーズに対応した多様な福祉サービス提供体制の構築

拡 障害児を社会全体で見守り育てる地域づくり

- 未就学児の支援の専門的な養育機関の量的拡大
- 拡**・人材確保に向けた研修の実施等
- 拡**・民間事業者の新規開設を支援

拡 ○早期の発見・診断・対応につながる体制の整備
拡 ○若年性認知症に対する支援体制の整備

拡 認知症の高齢者等を支える地域づくり

日々の暮らしを支える高知型福祉の仕組みづくり

地域での在宅医療の推進

- 中山間地域で在宅医療が選択できる環境整備
- 拡**・訪問看護サービスへの支援
- 拡**・寄附講座による訪問看護師の育成
- 拡**・在宅歯科診療の推進
- 拡**・在宅歯科連携室のサテライトを幅多圏域に設置
- 訪問による脚業支援

地域での在宅医療の確保

- 若手医師・看護師等の県内定着促進
- ・奨学金の貸与
- ・資格取得等のキャリア形成支援
- 専門医の養成
- ・県中央部と中山間地域の病院で勤務しながら総合診療専門医などの資格を取得できる仕組みづくり

病気になるっても安心な地域での医療体制づくり

救急医療の提供

- 救急医療機関の強化と円滑な救急搬送

地域を支える医療従事者の確保

- 若手医師・看護師等の県内定着促進
- ・奨学金の貸与
- ・資格取得等のキャリア形成支援
- 専門医の養成
- ・県中央部と中山間地域の病院で勤務しながら総合診療専門医などの資格を取得できる仕組みづくり

介護等が必要になっても地域で暮らし続けられる仕組みづくり

地域ニーズに応じた介護サービス提供の体制づくり

施設サービス (特別養護老人ホーム・老人保健施設など)

介護が必要になっても地域で暮らし続けられる仕組みづくり

在宅サービス (ホームヘルパー・デイサービスなどの訪問・通所支援)

- 市町村レベルでの自給対策の計画策定への対応力の強化
- うつ病やアルコール依存症などの対応力の強化
- 医療的ケアの必要な子ども等とその家族への支援の強化
- 中山間地域での介護・障害福祉サービスの確保
- 新** ○第7期介護保険事業支援計画、第5期障害福祉計画の策定

障害の特性等に応じた切れ目のないサービス提供体制の整備

入院から在宅生活への円滑な移行に向けた医療と介護の連携

新 ○患者に適した空き病床を幅広く選抜できる「転院支援システム」の構築
拡 ○退院後の在宅生活に不可欠な情報を共有するため、福祉保健所圏域ごとに「退院調整ルール」を策定

急性期病院 回復期病院 退院調整ナースなど 退院調整の実施 入院 入院 ケガや病気

在宅

訪問看護
ケアマネジャー
訪問介護・リハ
地域包括支援センター
通所介護・リハ

退院

急性期病院 回復期病院 退院調整ナースなど 退院調整の実施 入院 入院 ケガや病気

大目標Ⅲ 「厳しい環境にある子どもたちへの支援」

現状

- 母子世帯の就労率：92%（正社員：56.7%）
- 〃 就労収入：210万円（父子世帯の64%）
- 児童虐待相談受付件数と対応件数が大幅に増加
・受付件数 H23年度:282件 → H27年度:515件
・対応件数 H23年度:116件 → H27年度:379件

これまでの成果

- 刑法犯少年の非行率 H23年:12.2% → H28年:4.2%
(全国ワースト1位) → H28年:37.3%
(全国ワースト5位)
- 刑法犯少年の再非行率 H23年:33.8% → H28年:37.3%
(全国ワースト8位)

課題

- ①就学前の子どもたちや保護者等への支援策の強化
- ②子どもたちの学びの場や居場所づくりなどを支援する取り組みの強化
- ③いじめ・児童虐待・少年非行の防止対策の強化
- ④保護者の自立に向けた就労支援策などの強化

主な目標

生活保護世帯等の子どもの中学校卒業後の進学率と就職率の合算値
県平均(99.0%)より低い状況を県平均レベルに改善 (H31年度末)
○H27年度 生活保護世帯：92.2% 児童養護施設：97.1% ひとり親世帯：97.7%

妊娠～乳幼児期

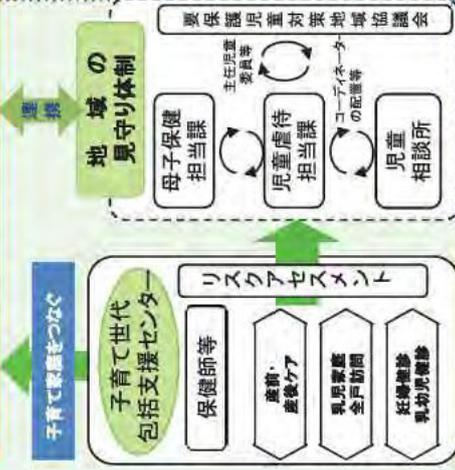
就学前教育の充実

- 子育て力向上への支援 保育料の軽減・無料化
- 加配保育士の配置拡充等 保育サービスの充実

地域ぐるみの子育て支援の推進
保護者の子育て力の向上
 地域連携による交流の場の提供と日常的な見守り
 地域子育て支援センター、多機能型保育事業所等

妊娠前から子育て期までの切れ目のない総合的な支援～「高知版ネウボラ」の推進～

子育て家庭をつなぐ
 子育て世代包括支援センター



小学校

社会的養護の充実

- 里親委託や養子縁組の推進
- 児童養護施設等における家庭的養護の推進
- 児童養護施設等の自立相談支援体制の強化

「子ども食堂」など居場所の確保・充実
 「子ども食堂」への支援
 ○子どもの居場所づくり学習支援

住まいへの支援
 ○生活困窮者への住居確保給付金
 ○ひとり親家庭等の果住入居の優遇措置

就業への支援
 ○ファミリー・サポート・センター事業の普及推進
 ○ひとり親等の資格取得・就労支援策の充実・強化
 ○生活困窮者等の就労訓練事業所の確保と就労支援

生活への支援
 ○児童扶養手当の給付
 ○教育費の確保と負担軽減
 ○生活扶助費・生活困窮者の家計相談支援

中学校

学校をプラットフォームとした支援策の充実・強化

- 学びの場づくり＝放課後等における学習支援の充実
- 放課後子ども総合プランの推進
- 放課後子ども総合プランの推進

見守り体制の充実＝地域で子どもたちを見守る体制づくりと専門機関等との連携強化
 ○学校支援地域本部(地域学校協働本部)の活動への支援
 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用

教育相談支援体制の抜本強化
 ○心の教育センターの体制強化

健康的な体づくり＝早期からの健康的な生活習慣づくり
 ○「よさこい健康プラン21」の推進、健康教育副読本等の活用

非行防止対策
 高知家の子ども見守りプランの推進



高等学校等

進学・就労等に向けた支援

- 進学・就労等に向けた支援
- 若者の学びなおしと自立支援
- 夢・志チャレンジ資金

地域における見守り活動の充実・強化

地域との連携強化
 学校支援地域本部(地域学校協働本部)
 学校支援ボランティア(地域住民等の参画)
 学校

進学・就労等に向けた支援
 ○若者の学びなおしと自立支援
 ○夢・志チャレンジ資金

「大人の貧困」と「子どもの貧困」の連鎖を断つ！

保護者等への支援策の抜本強化！

現状

- 平均初婚年齢 (H27：男性31.3歳・女性29.7歳)
- 生涯未婚率 (H22：男性22.1%・女性12.4%)
- 理想の子どもの人数と予定する子どもの人数とのかい離 (H27：理想2.45人・現実2.09人)

これまでの成果

- 「高知家の出会い・結婚・子育て応援コーナー」の相談実績 1,913件(結婚1,427件、子育て等486件)
- 県主催の出会いのイベント等による成婚報告数126組 (H29年3月末の累計)

課題

- ① 支援を望むより多くの方の「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望をより早くかなえる
- ② 理想とする子ども人数の希望をよりかなえる
- ③ 官民協働による県民運動としての展開

高知県は、ひとりひとりの生き方を尊重しながら、それぞれに希望に応じて「自分らしく」活躍することを応援しています。「結婚」などは、個人の自由であり、その他にも様々な生き方があるものと私たちが考えています。高知県は、それぞれに意思に基づいた生き方を応援することも、その一環として「出会い」や「結婚」への支援を希望する方々の応援をしています。

1. ライフステージの各段階に応じた取り組みの推進

◆ より多くの方の「出会い・結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望をより早く叶える！

① 官民協働による少子化対策の展開

- 証 ○「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の取り組みの推進
・ 応援団登録数の増加に向けた取り組みの拡大 (民間団体のネットワークを生かした応援団登録の勧誘、応援団 グループの配布等)
・ 応援団の取り組みの推進 (「応援団通信」等を通じた応援団への情報提供、応援団交流会の開催による情報 共有の場づくり、ワーク・ライフ・バランスの推進、子育て講座等への講師派遣 等)

② 結婚や子育てを支援する機運の醸成

- 証 ○少子化対策推進県民会議と連携した取り組み (企業との取り組み事例の紹介やフォーラムの開催 等)
○こうち子育て応援の店の推進 (協賛事業所の加入促進、事業所の店頭へのポスターの掲示等 による子育て家庭への 周知 等)

③ 結婚への支援を希望する独身者の実情に沿った総合的な支援

- 証 ○出会いや結婚への支援を希望する独身者への出会いの機会の提供 (マッチングシステムの拡充、県主催交 友会の開催等)
○出会いや結婚への支援を希望する独身者へのきめ細かな支援の充実
(「高知家の出会い・結婚・子育て応援コーナー」における情報提供・相談、支援への対応 (出会いや結婚への支援を希望する独身者を支援するボランティアの養成 等))

◆ 理想とする子ども人数の希望を叶える！

① 妊娠・出産・子育ての健康のための環境整備

- 証 ○安心して妊娠・出産できる環境整備 ○市町村における産前・産後ケアサービスの充実
○乳幼児健診の受診促進

② 子育て支援の推進

- 証 ○延長保育、病児保育、一時預かり事業の促進
○第3子以降3歳未満児の保育料の軽減(無料化)
○放課後の子ども居場所づくりと学びの場の充実
○地域の支え合いによる子育て支援の仕組みであるファミリー・サポート・センターの県内全域での普及に向けた支援の充実



高知県少子化対策推進県民会議において、進捗状況をPDCAサイクルにより管理！

総 会

結婚支援部会

子育て支援部会

WLB推進部会

広報啓発部会



官民協働



2. 「官民協働の県民運動」として展開！

「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の官民協働の取り組みの推進！

高知家の出会い・結婚・子育て応援団
にお願する取り組み(例)

(1) 結婚支援

- ◆県から提供される「県主催イベントやマッチングシステム等」結婚支援事業の紹介
- ◆県の補助金等を活用した地域の独身者向けの出会いイベントの開催

※結婚は、個人の自由であることを大前提に、応援団が自主的に、かつ、支援を希望する従業員や地域の独身者等を実施！
※個人の様々な生き方を尊重し、県から「性的少数者に関する啓発資料」等の掲示を依頼

(2) 子育て支援

- ◆県から提供される「子育て支援情報」の従業員等への紹介
- ◆従業員等への子育て支援への参加の呼びかけ(ファミリーサポートセンター提供会員、里親登録 等)

(3) ワーク・ライフ・バランスの推進

- ◆県から提供される事例等を参考にしたワーク・ライフ・バランスの取り組みの検討、実施
- ◆イクボス宣言によるワーク・ライフ・バランスの推進

民間企業等の皆様との協働による、ライフステージの各段階に応じたきめ細かな対策を実施！

大目標 V

医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化

現状と課題

- 県内の介護分野の求人数は増加しているものの、景気の回復とともに求職者数は減少傾向
(県内有効求職者数 H26.4月 → H29.1月 1,241人 → H29.1月 1,528人) (県内有効求職者数 H26.4月 → H29.1月 899人)
- 福祉人材センターのマッチング機能の充実・強化 (マッチング実績：H25年度 122人 → H28年度 350人)
- 介護福祉士養成校の入学者数 (H29年度 60人； 定員90人)

介護人材の供給推計
 ①供給推計 14,743人
 ②需要推計 15,644人
 ③不足見込 (①-②) ▲ 901人
 (平成37年時点)

1. 人材の定着促進・離職防止対策の充実！

(1) 職場環境の改善による魅力ある職場づくり！

- 並** ① 介護ロボットや福祉機器等の導入支援
 - ・介護職員の身体的負担を軽減するため、介護ロボットや福祉機器等の導入経費を助成
- 並** ② 育児短時間勤務、有給休暇に係る代替職員の派遣を実施
 - ・代替職員の派遣により、育児短時間勤務制度の活用や有給休暇の取得がしやすい職場づくりを推進
- 新** ③ 現任介護職員の相談窓口の設置
 - ・現任介護職員の働く上での悩みを解消し、離職を防ぐため、相談窓口を設置 など

現任職員 管理者等

(2) 処遇改善につながるキャリアアップ支援！

- 並** ① 福祉研修センターにおける小規模事業所向け研修の充実
 - ・小規模事業所の人材育成を支援するため、地域に出向いてのミニ研修の開催や土日、夜間、半日など開催日程の柔軟化を新たに実施
- 新** ② 介護職員の給与改善
 - ・各事業所に対し、処遇改善加算の仕組みの周知のための説明会の開催や、就業規則の見直し等に係る経費への補助などを新たに実施 など

現任職員

雇用とサービスの創出による産業化の推進！

職場イメージのアップを参入促進へとつなげる

人材の「量的・質的」確保の好循環を創出！

確保した人材のスキルアップへとつなげる

サービスの安定確保と質の向上！

2. 新たな人材の参入 促進策の充実！

(1) きめ細かな支援策による多様な人材の参入促進！

- 新** ① 多様な働き方を可能とする職場づくり
 - ・業務の「切り出し」・「再編成」を通じ、日中の決まった時間帯での勤務等を希望する中高年齢者や主婦等も介護現場で働きやすい環境づくりを促進
- ② 福祉人材センターと研修センター・ハローワーク等との連携強化
 - ・生活困窮者の就労訓練事業等との連携により、さらなる就業促進を図る など

離職者等

(2) 資格取得支援策の強化！

- ① 高校生就職支援事業
- ② 中山間地域等ホームヘルパー養成事業
 - ・人材の不足感がより強い中山間地域等の方や進路選択を考える高校生を対象に、介護資格の取得を支援
- ③ 介護福祉士等修学資金貸付事業
 - ・介護福祉士養成校入学者や実務者研修受講者への就学費用等の貸付を実施 など

学生等

3. 人材確保の好循環の強化に向けた検討！

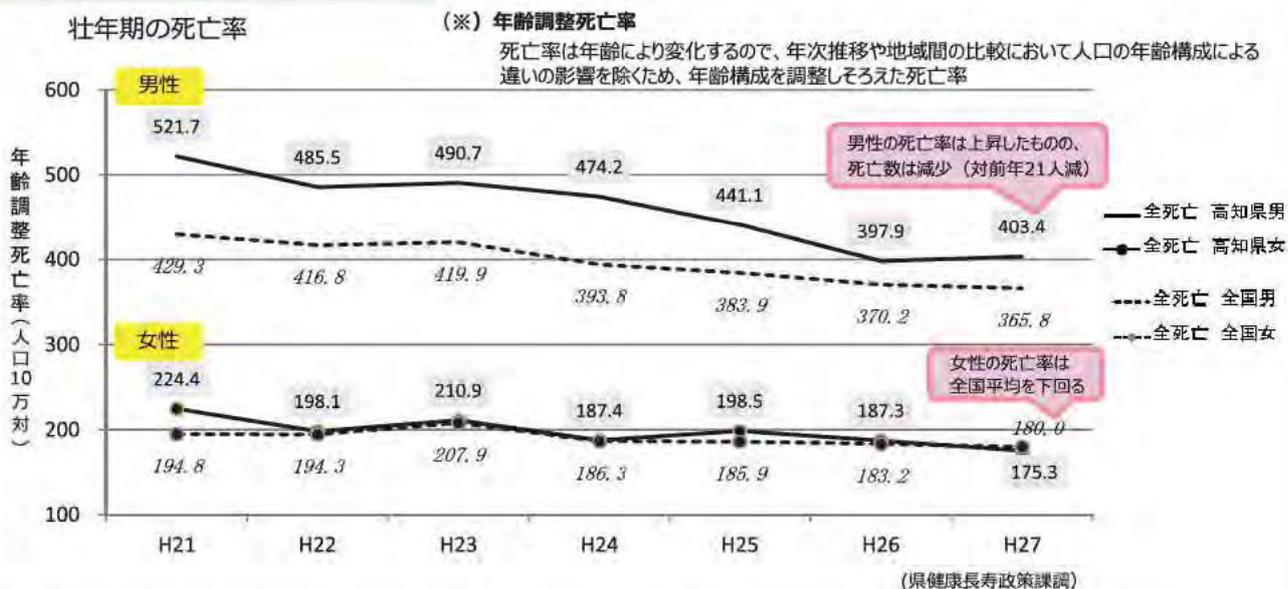
新 「介護の仕事の魅力の向上」と「利用者のQOLの向上」の好循環をより強力に機能させるための新たな仕組みについて検討

大目標 I

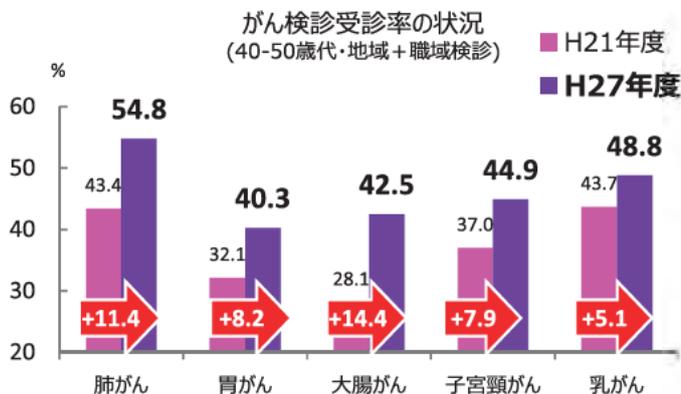
壮年期の死亡率の改善～働き盛りの健康づくり～

高血圧・特定健診 健康長寿政策課（よさこい健康プラン21推進室） ☎088-823-9675
 市町村国保の特定健診 国保指導課 ☎088-823-9646 がん検診 健康対策課 ☎088-823-9674
 高知家健康づくり支援薬局 医事業務課 ☎088-823-9749

これまでの取り組みや成果



- 男性の壮年期の死亡率は、全国との格差が構想策定当初（H21年）と比較して縮小し、改善傾向にあります。

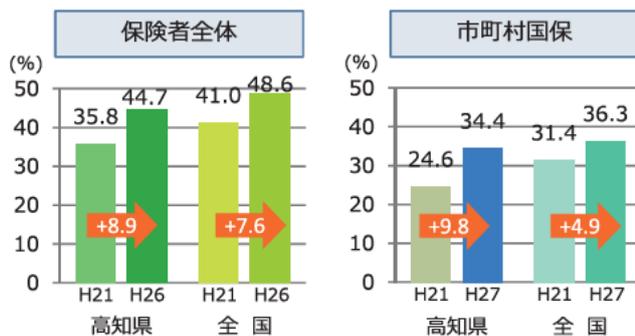


- がん検診受診率（40-50歳代全体:H27年度）はH21年度から5.1～14.4ポイント上昇しました。

- がん検診の意義・重要性の周知
検診対象者への個別通知と未受診者への再勧奨や、マスメディアを活用した受診勧奨を行いました。

- 利便性を考慮したがん検診の体制を構築しました。
 - ・一度に複数のがん検診が受診できるセット検診日を増やしました。
 - ・居住地以外の市町村でもがん検診が受診できる広域がん検診日を設けました。

特定健診受診率



- 特定健診受診率（市町村国保：H27年度）はH21年度から9.8ポイント上昇し、全国平均近くまで到達しました。

- 受診勧奨の強化
特定健診未受診者に対する保険者からの受診勧奨、健康づくり団体や高知家健康づくり支援薬局と連携した直接の声かけを行いました。

- 受診促進の啓発
健診の重要性と健診受診を呼び掛ける啓発を行いました。

現状

健康教育の推進

- 小・中学生の肥満傾向児の出現率は、全国と比べて高い状態が続いています。
- 保護者世代の生活習慣が影響を与えています。
- 小中高校生を対象とした健康教育教材を活用した健康教育が各学校で取り組まれています。

- ・健康的な生活習慣に関する知識の習得だけでなく、実践に繋げる取り組みの充実が必要です。
- ・子どもの生活習慣に影響する、保護者へのアプローチが必要です。

「ヘルシー・高知家・プロジェクト」の推進

【県民の健康づくりに対する意識】

- 県内働き盛り男性の死亡率は全国よりも高く、平均寿命・健康寿命ともに全国下位です。
- 運動習慣や野菜摂取といった保健行動の指標が、国が定めた目標値に達していません。
- 健康づくりの必要性を感じている人は約9割いますが、約4割は取り組んでいません。

- ・健康づくりに取り組むきっかけづくりが必要です。
- ・日常生活の中で、ヘルシーなライフスタイルを実現できる環境づくりが必要です。

運動習慣*	H23	H28	目標値
男性	25.6%	20.4%	36%
女性	23.1%	19.0%	33%

野菜摂取	H23	H28	目標値
成人	277g	295g	350g

*20~64歳 出典:高知県県民健康・栄養調査

P.19 特集①高知家健康パスポート事業

がん予防の推進

【がん検診の受診促進】

- 肺がん検診の受診率は目標の50%に到達しましたが、他の検診（胃・大腸・乳・子宮頸）の受診率は、上昇したものの、目標値には届いていません。

- ・検診対象者に検診の受診を継続して呼びかけていくことが必要です。

- がん検診を受けない理由の1位は「忙しい」2位は「面倒」となっています。

- ・利便性を考慮した検診体制が必要です。

- 未受診理由の3位は「必要な時は医療機関を受診」となっていますが、自覚症状が出てから受診してもがんは進行している可能性があります。

- ・検診の意義や重要性の周知が必要です。

血管病対策の推進

【特定健診受診率・特定保健指導実施率の向上対策】

- 市町村国保や被用者保険の被扶養者の受診率が低い状況です。

- ・更なる受診率の向上が必要です。

- 特定保健指導対象者の8割が指導につながっていません。

- ・特定健診後に確実につなげることが重要です。

【高血圧・喫煙対策の推進】

- 高血圧・喫煙は、脳血管疾患や心筋梗塞の重大な危険因子です。

リスク要因(男性)	喫煙	高血圧	高脂血症	高血糖	感染
脳血管疾患	9%	35%	2%	5%	—
心筋梗塞	2.6%	17%	1.3%	7%	—

(大阪府立健康科学センターのデータを引用)

高血圧という要因がなくなれば、脳血管疾患の発症が35%下がる！

- ・健診で高血圧や糖尿病等を把握し、喫煙も含めた生活習慣の改善が必要です。



目指す姿

平成31年度末の姿

- がん検診の意義・重要性が浸透し、利便性の向上により受診行動に結びついています。
- 血管病の早期発見・早期治療等により、重症化を予防できています。
- 子どもの頃から健康的な生活習慣が定着しています。
- 県民の健康意識が醸成され、健康的な保健行動が定着しています。

平成37年度末の姿

- 健康管理に取り組む人が増え、壮年期の過剰死亡が改善されています。

健康教育の推進

【子どもの頃からの健康的な生活習慣定着の推進】

■学校での健康教育の実施・教員の意識向上

- ・学校経営計画に「健康教育」を位置付けて、全ての小・中・高校において副読本を活用した健康教育を行います。

対象	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
狙い	保護者と児童がともに生活習慣リズムを向上	健康三原則の定着	生活習慣病予防とあわせた生活習慣定着	思春期における生活習慣の見直しと実践	社会に出る前の生活習慣の見直しと実践
内容	・早ね、早起き、朝ごはん・運動	・元気の源 大切な食事・丈夫な体をつくる運動・休養と運動・歯の健康	・高知県民の死亡原因・食事、運動の重要性・休養と睡眠・歯・口腔	・高知県民の健康の現状・健康管理・食事、運動・歯・口腔・たばこ・飲酒・ライフプラン	・高知県民の健康の現状・健康管理・妊娠・出産・たばこ・危険ドラッグ・ライフプラン



■地域の住民組織による健康教育と家庭への働きかけ

- ・各地域で活動するヘルスマイト※が、学校で子どもたちに健康教育を行い、子どもと保護者が家庭で一緒に取り組める健康づくりの方法を伝えます。

拡

※ヘルスマイト（食生活改善推進員）

食を通じた健康づくりをすすめるボランティアで、各地域で様々な食育活動に取り組む住民組織。



■子どもの頃からの歯と口の健康づくりの推進

- ・子どものむし歯の市町村格差を解消するため、保育所・幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等でのフッ化物洗口開始を支援します。

「ヘルシー・高知家・プロジェクト」の推進

■健康づくりの県民運動「ヘルシー・高知家・プロジェクト」

拡

高知家の一人ひとりがヘルシーなライフスタイルを描いて、実現できる環境を目指し、官民協働の県民運動を展開します。

【具体的な取組】

- ・県民の健康意識の更なる醸成と健康的な保健行動の定着化を促進するため、「高知家健康パスポート事業」に新たにランクアップの仕組みを導入します。

P.19 特集①高知家健康パスポート事業

- ・生活習慣病のリスクとなる喫煙や高血圧について、テレビCMなどで啓発を行います。
- ・保険者と連携して事業主や健康保険委員に対して研修や情報提供を行い、企業の健康経営を支援します。
- ・量販店等と連携して「減塩」など健康的な食事の啓発を行います。

■「高知家健康づくり支援薬局」を活用した県民の健康づくりの推進

- ・地域の薬局を「高知家健康づくり支援薬局」に認定しています。(H29年3月末現在：173薬局) 地域に密着した健康情報拠点として、住民の日ごろの健康づくりや医薬品の適正な使用に関する相談等に応じます。

- (たばこ対策) 喫煙者への禁煙指導や禁煙相談
- (高血圧対策) 家庭血圧の測定と記録の推奨
- (検診の勧奨) 特定健診やがん検診、乳幼児健診の受診勧奨
- (相談応需) 医薬品や健康に関する総合的な相談
- (関係機関の紹介) 相談内容に応じて医療機関などを紹介

- ・中山間地域を含めた地域の健康まつりなどにおける健康相談も実施します。



高知家みんなの健康意識の更なる醸成！

がん予防の推進

【がん検診の受診促進】

■ 検診対象者への受診勧奨と 未受診者への受診勧奨の徹底

- ・ 検診対象者に検診案内の郵送や、個別訪問によって受診を呼び掛けます。
- ・ 検診未受診者には、市町村からの電話や郵送、訪問などによって再度、受診を呼び掛けます。
- ・ 精密検査未受診者には、精密検査の受診を勧めます。
- ・ メディアを活用して、検診の意義・重要性を周知します。
- ・ 事業主から従業員や被扶養者に受診を勧めてもらいます。



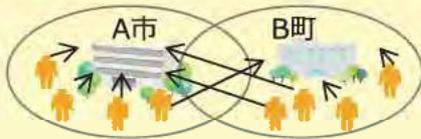
健康維新の志士
けん しん太郎くん



【利便性の向上】

■ 市町村検診の広域化

- ・ 居住以外の市町村でも受診ができる広域検診を実施します。
(複数のがん検診が一度に受診できます。)



■ 大腸がん検診の受診促進

- ・ 胸部検診単独実施事業所に市町村大腸がん検診をセットし、受診の機会を増やします。

■ セット検診日の拡大

- ・ 一度に複数のがん検診が受診できる検診日を増やします。

■ 乳がん・子宮頸がん検診の 医療機関検診の周知

- ・ 土曜や日曜に検診を実施している医療機関があることを県民の皆さんに周知します。

がん検診の申込みは、お住まいの市町村役場の検診担当課へお願いします。

がんに関する相談窓口 P41

【ウイルス性肝炎対策の推進】

■ 検診機会の提供

- ・ 職域の集団健診での肝炎検査の受診機会を提供します。

■ 治療への結びつけと標準治療の提供

- ・ 肝炎ウイルス検査で陽性となった方へのフォローアップを強化し、治療につなげます。
- ・ 定期検査や治療に係る費用を助成します。

肝疾患に関する相談窓口 P41

血管病対策の推進

【特定健診の受診率向上・特定保健指導の強化】

■ 特定健診の受診促進

- ・ 地域の健康づくり団体が連携して、対象者の方に身近な立場から受診を呼び掛けます。
- ・ かかりつけの医療機関や健康づくり支援薬局からも受診を呼び掛けます。

■ 特定保健指導実施体制の充実

- ・ 県栄養士会による特定保健指導の実施を県が支援し、特定保健指導の実施率向上を目指します。

【血管病の重症化予防】

■ 健診後に治療が必要な方への指導強化

- ・ 健診結果から要治療と判断されながら放置しているハイリスク者を把握し、医療機関への受診勧奨を行います。

■ 医療機関での治療を中断した方への指導強化

- ・ 糖尿病等の治療を中断した方を把握し、医療機関への再受診の勧奨を行います。



【働き盛りへの健康づくりの啓発】

■ 職場の健康づくり対策の推進と 家庭血圧の測定・記録の促進

- ・ 協会けんぽと連携し、事業主や健康保険委員に対して研修や情報提供を行い、職場での健康づくりを進めます。
- ・ 労働局や産業保健総合支援センターと連携し、働き盛り世代へ啓発を行います。
- ・ 医療機関、薬局等から高血圧患者に対し、家庭血圧測定と記録の指導を行います。

【歯周病予防による全身疾患対策】

■ がん医療連携の推進

- ・ 手術後の肺炎予防や、抗がん剤・放射線治療の副作用軽減を図るため、周術期の口腔ケアの体制づくりに取り組みます。

■ 妊婦の歯周病予防対策の推進

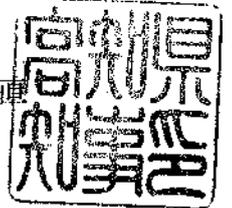
- ・ 歯周病は早産低出生体重児の出産リスクを高めることから、妊婦へ歯科検診の受診を呼びかけます。



30 高私第 262 号
平成 30 年 10 月 17 日

文部科学大臣 柴山 昌彦 様

高知県知事 尾崎 正道



高知学園大学（仮称）の新設に係る要望書

学校法人高知学園におかれましては、2020 年 4 月を目途に高知学園大学（仮称）を新設し、高知学園短期大学の生活科学学科を健康科学部管理栄養学科に、医療衛生学科医療検査専攻を健康科学部臨床検査学科として充実を図り発展させる計画を進めておられます。

高知学園短期大学は開学以来 51 年の歴史を有する短期大学として、高知県民に高等教育の就学機会を提供すると共に、「食・医療・教育」の分野で 16,000 人を超す有為な人材を輩出し、地域の子どもや高齢者の健康支援、幼児教育等、本県の振興に大きく貢献しておられます。

県では、平成 22 年 2 月に「日本一の健康長寿県構想」を策定し、保健・医療・福祉の分野において様々な施策を推進しており、その中において、「食や医療」の分野の専門的職業人の果たす役割は非常に大きく、これらの人材育成を高知学園短期大学が担っておられます。このたびの大学設置構想は、これまでの短期大学の教育方針及び内容をさらに発展させ、本県が抱える課題解決に、より一層大きな役割を果たしていただけるものと期待を高めているところでございます。

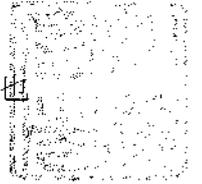
高知学園大学の新設計画においては、医療の高度化への対応をはじめ、チーム医療、地域医療についても深く学ぶことができることとしていることから、管理栄養士や臨床検査技師として、地域に貢献できる有意な人材を育成していただけるものと考えています。加えて、近い将来に発生が予測される南海トラフ地震発生時には、チーム医療や地域医療の取組がさらに重要となるため、こうした人材が、医療連携体制のもとで、それぞれの専門性を活かして活躍していただけるものと期待しているところです。

このように高知学園大学が果たす役割は、本県にとっては極めて重要なものであると考えており、今回の大学新設の実現に大きな期待を寄せているところです。

つきましては、学校法人高知学園から高知学園大学新設の認可申請がなされました際には、上記の事情をご賢察いただき、認可を賜りますよう要望申し上げます。

文部科学大臣 林 芳 正 様

高知市長 岡 崎 誠 也



高知学園大学（仮称）の新設に係る要望書

高知学園短期大学は、昭和 42 年 4 月の開学以降、51 年の歴史を刻み、1 万 6,000 人を超える有意な人材を輩出され、卒業生の 8 割を超える人材が高知県内で活躍されておりますとともに、本市におきましても、教育、福祉、医療分野での担い手として活躍されております。

この高知学園短期大学の設置法人である学校法人高知学園におきまして、2020 年 4 月を目途に（仮称）高知学園大学を新設し、高知学園短期大学の生活科学学科を健康科学部管理栄養学科に、医療衛生学科医療検査専攻を健康科学部臨床検査学科として充実発展させる計画を進めております。

さて、現在本市は、県内人口のおよそ 46%を占める県都として政治、経済はもとより、文化、教育においても高知県の中核を担い、発展を続けております。本年 3 月には、県内 33 市町村それぞれと地方自治法に基づく連携協約を締結して、県全域で「れんけいこうち広域都市圏」を形成し、また、高知県とも連携協約を締結して強力な後押しを受けながら、一丸となって圏域の活性化及び人口減少の克服に取り組んでいるところです。

このたびの学校法人高知学園における、（仮称）高知学園大学健康科学部管理栄養学科及び臨床検査学科の新設は、教育振興に寄与することは言うまでもなく、人口減少に歯止めをかける若者の地元定着率の向上や、高齢化に伴い今後さらに不足が予想される医療・福祉サービスの人材確保など、本市を含みます高知県全体の地域経済の活性化や医療・福祉の発展に大きく寄与されるものであると期待をしております。

つきましては、学校法人高知学園の（仮称）高知学園大学の設置認可申請に際しまして、特段のご配慮とご厚情を賜りますようお願いいたします。

30高栄発第33号

平成30年8月1日

学校法人高知学園

理事長 吉良 正人 様

公益社団法人高知県栄養士
会 長 森田



高知学園大学（仮称）の新設について（要望）

日ごろは、当会の活動に格別のご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴法人の高知学園短期大学は、50年の歴史の中で栄養士養成にご尽力され、「食・栄養」の専門的教養と実践力を備えた栄養士を数多く輩出しておられます。

このたび、貴法人が高知学園大学（仮称）を設立し、栄養士養成を発展させ、管理栄養士を養成するとの計画をお聞きました。

ご承知のとおり管理栄養士は、チーム医療や福祉、保健の分野での役割がクローズアップされてきております。また、高知県が推進している「日本一の健康長寿県構想」にもありますように、壮年期の生活習慣病予防や高齢期の低栄養予防、糖尿病の重症化予防などの栄養指導の場面においても或いは食育の場面においても、広範囲に知識、技能を生かすことが必要になります。

当会といたしましても、管理栄養士養成の重要性と必要性は十分に認識しており、高知学園大学（仮称）で管理栄養士の養成が可能となれば、県民の栄養改善や、県民の「健やかによりよく生きる」を応援する管理栄養士の充実が図られることになり、その実現に大いに期待しているところです。

賛 同 書

近年の保健医療を取り巻く環境は、医学・医療技術の進歩とともに、少子高齢化社会を迎え、急速に変化しています。

これに伴い、医療技術者に対するニーズは複雑化・多様化・高度化しており、これらに的確に対応し得る資質の高い、人間性豊かな「臨床能力」が備わった医療技術者の教育の充実が重要な課題となっています。

今般、従来から医療技術者教育に尽力されている高知学園短期大学が、四年制大学の設置を計画され、かかる教育の充実にさらに努力を傾注していただくことは真に喜ばしいことであります。

臨床検査技師の職務においても、職務領域の拡大や医療の高度化及びチーム医療や地域医療における新たな役割など、確かな理論と技術を備えた人格高潔で優秀な技術者の提供が強く望まれるところとなっており、今般こうした背景の中で、貴短期大学がより優れた医療技術者を輩出するため、四年制大学設置に向け尽力されていることは真に時宜を得たものと思慮いたします。

よって、保健・医療・福祉分野での包括的事業の担い手の一員となるにふさわしい医療技術者の教育機関として、地域社会の期待に応えられる人材育成に一層努力されることを要望するとともに、四年制大学を設置されることに賛同いたします。

平成 30 年 7 月 14 日

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事 会長 宮島 喜文

学校法人高知学園

理事長 吉良 正人 殿

高知学園短期大学

学 長 小島 一久 殿

平成30年 7月17日

学校法人高知学園
理事長 吉良 正人 様

高知県臨床検査技師会
会長 山中 茂雄



高知学園大学（仮称）の新設について（要望）

日頃より高知県臨床検査技師会の諸事業につきまして、連携・協力を賜り、厚く御礼申し上げます。貴法人の高知学園短期大学におかれましては、50年の歴史の中で臨床検査技師養成にご尽力いただき、高知県の「医療」の担い手の養成にご尽力いただいております。

このたび、貴法人が高知学園大学（仮称）を設立し、四年制大学として臨床検査技師を養成するとの計画をお聞きしました。ご承知のとおり臨床検査技師については、病院、検査センターでの業務以外にもチーム医療、地域医療の一員としての役割がクローズアップされてきております。また、今後求められてくる「臨床能力」の備わった医療技術者の養成には、四年制での教育が不可欠と考えております。

高知県臨床検査技師会におきましては、高知学園大学（仮称）の設置により本県の臨床検査技師養成の充実が図られることになり、その実現に大いに期待しているところです。

都道府県別 1人当り県民所得

都道府県	県民所得 (100万円)	総人口 (人)	1人当り 県民所得 (千円)	順位
東京都	72,688,710	13,515,271	5,378	1
愛知県	27,518,299	7,483,128	3,677	2
三重県	6,457,181	1,815,865	3,556	3
栃木県	6,872,344	1,974,255	3,481	4
富山県	3,596,584	1,066,328	3,373	5
静岡県	12,269,827	3,700,305	3,316	6
福井県	2,514,263	786,740	3,196	7
群馬県	6,205,652	1,973,115	3,145	8
大阪府	27,641,352	8,839,469	3,127	9
茨城県	8,980,510	2,916,976	3,079	10
広島県	8,742,802	2,843,990	3,074	11
滋賀県	4,320,007	1,412,916	3,058	12
宮城県	6,970,411	2,333,899	2,987	13
神奈川県	27,254,201	9,126,214	2,986	14
埼玉県	21,633,483	7,266,534	2,977	15
石川県	3,403,380	1,154,008	2,949	16
京都府	7,680,492	2,610,353	2,942	17
福島県	5,629,997	1,914,039	2,941	18
長野県	6,143,054	2,098,804	2,927	19
香川県	2,855,237	976,263	2,925	20
徳島県	2,207,868	755,733	2,921	21
千葉県	18,168,065	6,222,666	2,920	22
山梨県	2,325,256	834,930	2,785	23
新潟県	6,400,738	2,304,264	2,778	24
山口県	3,896,488	1,404,729	2,774	25
岩手県	3,532,157	1,279,594	2,760	26
岐阜県	5,598,504	2,031,903	2,755	27
兵庫県	15,234,455	5,534,800	2,752	28
岡山県	5,273,475	1,921,525	2,744	29
和歌山県	2,638,067	963,579	2,738	30
福岡県	13,895,379	5,101,556	2,724	31
山形県	3,008,692	1,123,891	2,677	32
島根県	1,837,941	694,352	2,647	33
大分県	3,054,492	1,166,338	2,619	34
北海道	13,935,514	5,381,733	2,589	35
愛媛県	3,511,338	1,385,262	2,535	36
高知県	1,843,975	728,276	2,532	37
奈良県	3,402,184	1,364,316	2,494	38
青森県	3,220,986	1,308,265	2,462	39
熊本県	4,354,199	1,786,170	2,438	40
秋田県	2,475,450	1,023,119	2,420	41
佐賀県	2,008,377	832,832	2,412	42
長崎県	3,288,075	1,377,187	2,388	43
鹿児島県	3,929,696	1,648,177	2,384	44
宮崎県	2,555,790	1,104,069	2,315	45
鳥取県	1,289,726	573,441	2,249	46
沖縄県	3,104,409	1,433,566	2,166	47

内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部「平成27年度県民経済計算について
2 県民所得」より作成

名称変更に係る事前相談の結果について

【名称変更の概要】

- 高知学園短期大学

(変更前)		(変更後)
医療衛生学科 歯科衛生専攻	→	歯科衛生学科

- 名称変更の時期 : 平成 32 年 4 月 1 日

【事前相談の結果】

「名称変更」の手続で可能

【附帯事項】

(遵守事項)

特になし。

(助言事項)

特になし。

授業科目	健康教育演習 I	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	生活科学学科、幼児保育学科、医療衛生学科、看護学科 2年 前期		
担当教員	吉村斉、下元智世、竹村正、武市和彦・村上雅尚、大野由香・中石裕子、坂本まゆみ・野村加代・和食沙紀、中野 靖子		
授業の目的	人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。		
到達目標	子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。		
授業の計画 画面 各回 2時間	1	オリエンテーション 子ども理解と子どもへの対応①（幼児保育学科：吉村） 幼児の発達特性と健康指導案の作成	
	2	子ども理解と子どもへの対応②（幼児保育学科：竹村） 子どもの理解と音楽表現	
	3	口腔内の健康①（医療衛生学科医療検査専攻：武市・村上） RDテスト 活用の意義	
	4	口腔内の健康②（医療衛生学科医療検査専攻：武市・村上） RDテスト まとめ	
	5	子ども期（幼児）のおやつ①（生活科学学科：下元） その必要性和与え方について 意義	
	6	子ども期（幼児）のおやつ②（生活科学学科：下元） その必要性和与え方について まとめ	
	7	歯みがきの方法①意義（医療衛生学科歯科衛生専攻：大野・中石・坂本・野村・和食）	
	8	歯みがきの方法②まとめ（医療衛生学科歯科衛生専攻：大野・中石・坂本・野村・和食）	
	9	生活習慣としての衛生管理①（看護学科：中野） 手洗い指導：指導案のたて方	
	10	生活習慣としての衛生管理②（看護学科：中野） 手洗い指導の実際	
	11	食・教育・医療から総合的にとらえる歯みがき指導（吉村）	
	12	学外実践1（吉村・下元・竹村・武市・村上・大野・中石・坂本・野村・和食・中野） 歯っぴいスマイルフェアでの実践から振り返る課題	
	13	歯っぴいスマイルフェアでの実践から振り返る課題のまとめ	
	14	学外実践2（吉村・下元・竹村・武市・村上・大野・中石・坂本・野村・和食・中野） 高知学園短期大学附属高知幼稚園における連携活動 内容 ①子ども期（幼児期）のおやつ（生活科学学科） ②あそびを中心にした基本的生活習慣の指導（幼児保育学科） ③子どものメタボ検査：身長と体重測定（医療衛生学科医療検査専攻）	
	15	④歯磨き指導（医療衛生学科歯科衛生専攻） ⑤手洗い指導（看護学科） 実践の成果と課題の考察	
授業形態	オムニバス。学内外での演習と学外実践活動を行う。		
テキスト	プリント等を配布		
参考文献	随時紹介		
評価方法・基準	各テーマに基づく授業への取り組み15%、レポートを75%（各学科・専攻担当分で18点）、実践での取組・レポート等10%（10点）。学習した内容を自分が所属する学科・専攻の専門分野でどのように活用することができるかを説明する。各学科・各専攻担当教員が説明することでフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：自分が所属する学科・専攻における専門性の活用方法を調べる。 復習：他の専門性を自分の専門性への活用方法を整理し、実践できるようにする。対象に応じたプレゼンテーションを行うための方法や注意点について学習しておく（予習・復習合計1時間）。		
フォロー	各学科・各専攻の担当教員を参照すること。		
履修上の注意事項	日程については掲示でお知らせします。		

授 業 科 目	健康教育演習Ⅱ	授業の方法・単位	演習・1単位	
開講学科等	生活科学学科、幼児保育学科、医療衛生学科、看護学科 2年 後期			
担 当 教 員	吉村 斉、下元智世、竹村正、高岡榮二・森田尚亨・中村泰子、大野由香・坂本まゆみ・中石裕子・野村加代・内田智子、今村優子			
授業の目的	人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。			
到達目標	高齢者の健康で心豊かな生活について、各専門性と連携しながら、実践活動を通し地域貢献の意義を理解し、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。			
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	オリエンテーション 発達心理学からみた高齢者の特徴（吉村）		
	2	高齢者の理解と音楽の効果（竹村）		
	3	高齢者の臨床検査値（高岡）		
	4	骨密度の測定法と生理検査における高齢者への対応（森田・中村）		
	5	口腔体操（口腔機能向上）の目的と効果（大野・中石・坂本・野村・内田）		
	6	口腔体操の方法と媒体作成（大野・中石・坂本・野村・内田）		
	7	高齢者の体の変化と疾患（今村）		
	8	高齢者が安全に日常生活を送るための方法（今村）		
	9	高齢者の日常生活（下元）		
	10	高齢者に適した食事（下元）		
	11	学外における実践 施設（デイケア施設）訪問における取組の計画		
	12	取組の実践 ①高齢者のための歌とあそび 取組の実践 ②疾病予防のための食事	(幼児保育学科) (生活科学学科)	
	13	取組の実践 ③骨粗しょう症とは 取組の実践 ④骨密度測定補助	(医療衛生学科医療検査専攻) (医療衛生学科医療検査専攻)	
	14	取組の実践 ⑤口腔体操 取組の実践 ⑥食事摂取時の姿勢と注意事項	(医療衛生学科歯科衛生専攻) (看護学科)	
	15	活動の成果と課題のまとめ		
授業形態	オムニバス。学内外での演習と学外実践活動を行う。			
テキスト	プリント等を配布			
参考文献	随時紹介			
評価方法・基準	各テーマに基づく授業への取り組み15%、レポートを75%（各学科・専攻担当分で18点）、実践での取組・レポート等10%（10点）。学習した内容を自分が所属する学科・専攻の専門分野でどのように活用することができるかを説明する。各学科・各専攻担当教員が説明することでフィードバックを行う。			
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：自分が所属する学科・専攻における専門性の活用方法を調べる。 復習：他の専門性を自分の専門性への活用方法を整理し、実践できるようにする。対象に応じたプレゼンテーションを行うための方法や注意点について学習しておく（予習・復習合計1時間）。			
オフィスアワー	各学科・各専攻の担当教員を参照すること。			
履修上の注意事項	日程については掲示でお知らせします。			

社会に
いちばん近い
大学。

65歳以上の
方対象

ふたふた 健康フェス in 学短

日時 2月28日(日) 13:00~15:00

場所 高知学園短期大学 7号館1階

本学は昭和42年の開学以来、16,000名余の卒業生が巣立ち、その9割が県内の各施設、企業に専門職として就職し、「社会にいちばん近い大学」として高知県の「食・教育・医療」を支える有為な人材を輩出し続ける高等教育機関としての役割を果たしています。

本学は昭和50年頃から、現在の歯科衛生専攻が歯科保健活動をスタートし、現在は今学科で健康教育に取り組んでいます。このような歴史の中で、近隣地域の方々に本学の活動の一端を紹介し、ふれあいを深めていただければと思っています。どうぞお気軽にお立ち寄りくださいませ。

学校法人 高知学園
高知学園短期大学

■生活科学学科 ■幼児保育学科 ■医療衛生学科 医療検査専攻 ■医療衛生学科 歯科衛生専攻 ■看護学科
●専攻科応用生命科学専攻 ■専攻科地域看護学専攻

お問い合わせは学生支援課まで TEL 088-840-1664

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

<http://www.kochi-gc.ac.jp/>

高知学園短期大学

検索



参加無料・お気軽にご参加ください!

健康長寿県高知と一緒に手伝い



生活科学
学科

毎日のお食事でチェック!

- 食事バランスチェック
- おやつ試食
 - ・豆乳プリン黒蜜かけ
 - ・抹茶の和のクッキー
 - ・ほうじ茶

あなたの骨は
大丈夫?



医療検査
専攻

● 骨密度測定

リラックスしましょう~



看護学科

- 血圧測定
- ハンドマッサージ
- 転倒防止講座
- 体操とおはなし

お孫さんたちと
楽しく遊べます!

幼児保育
学科



● 歌

- ・見上げてごらん夜の星を
- ・赤とんぼ
- ・しゃぼん玉
- ・春かきた
- ・ひなまつり
- ・ふるさと(手話)
- ・まつげんサンバ

● 手遊び

- 春)せっせっせー
- 夏)三ツ矢サイダー
- 秋)やきいも
- 冬)サンタさん

● 絵本

健康はお口から!



歯科衛生
専攻

- 健口体操
- 顔じゃんけん

いきいき健康フェア

学校法人 高知学園
高知学園短期大学

お問い合わせは学生支援課まで

TEL 088-840-1664

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)



当日は
ピンクののぼりが
目印です



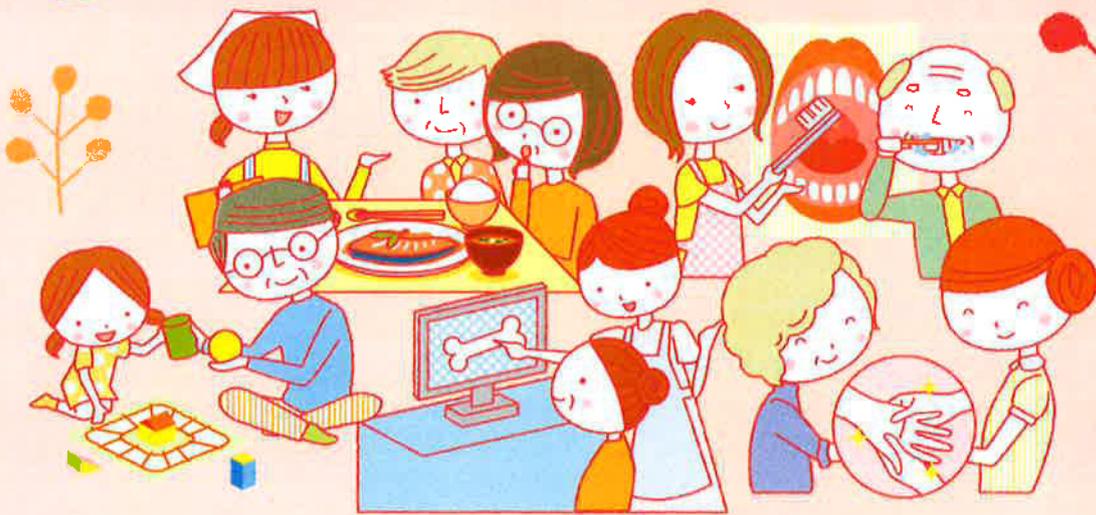
食・育・医 健康フェス

対象 = 65歳以上

2017 in 学短

日時 **2月26日(日)** 受付 11:00~
11:30~14:30

場所 **高知学園短期大学 7号館1階**



本学は昭和42年の開学以来、16,000名余の卒業生が巣立ち、その9割が県内の各施設、企業に専門職として就職し、「社会にいちばん近い大学」として高知県の「食・教育・医療」を支える有為な人材を輩出し続ける高等教育機関としての役割を果たしています。

本学は昭和50年頃から、現在の歯科衛生専攻が歯科保健活動をスタートし、現在は全学科で健康教育に取り組んでいます。このような歴史の中で、近隣地域の方々に本学の活動の一端を紹介し、ふれあいを深めていただければと思っています。どうぞお気軽にお立ち寄りくださいませ。



高知学園短期大学は
創立50周年を迎えました。

学校法人 高知学園
高知学園短期大学

■生活科学学科 ■幼児保育学科 ■医療衛生学科 医療検査専攻 ■医療衛生学科 歯科衛生専攻 ■看護学科
■専攻科応用生命科学専攻 ■専攻科地域看護学専攻

お問い合わせは学生支援課まで **TEL 088-840-1664**

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

<http://www.kochi-gc.ac.jp/>

高知学園短期大学 検索

参加無料・お気軽にご参加ください!

健康長寿県高知を一緒にお手伝い 対象=65歳以上

健康フェア 2017

生活科学学科

①食事の提供と説明

「ガクタン特製栄養バランスカレーセット」
(高知県の野菜使用)300円でご提供
・カレーライス
・野菜サラダ
・豆乳プリン黒蜜かけ

②栄養相談

栄養チェックと
食事バランスチェック!



医療衛生学科

歯科衛生専攻

①ゲームで健口ゲット

双六ゲーム(さいころを振って出た目に従って升目にある駒を進めて、体を動かしながら書かれた内容を楽し行うゲームです)

お孫さんたちと遊んだり、一緒に歌ったりできます



幼児保育学科

①簡単なダンスと歌で健康増進!

- みんなの歌
「春がきた」「ふるさと」
- 楽しいダンス
「Festival girl!」
- 音楽人形劇
「三太郎劇場」
- 楽しいダンス
「シュガーソングとビターステップ」
- 合唱
「心の瞳」



医療衛生学科

医療検査専攻

専攻科 応用生命科学専攻

- ①骨密度測定
- ②気をつけよう!
「健康食品」

学生や教員、健康食品管理士らによる健康食品に関する豆知識とミニ講座を行います

- ①血圧測定
- ②アロマハンドマッサージ
- ③ミニ健康講座

看護学科

専攻科 地域看護学専攻

「誤嚥にご注意願います」と題打って、誤嚥性肺炎を予防するミニ講座を行います



当日はピンクののぼりが目印です

食、教育、医療。

高知学園短期大学は「食」「教育」「医療」の分野で幅広く社会への興味を持ち、地域社会で活躍することを目標に学び成長していくことを目指しています。

学校法人 高知学園

高知学園短期大学

お問い合わせは TEL 088-840-1664

学生支援課まで 〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

2017

ふたふた 健康フェス

対象
65歳以上



日時

5月14日(日)

受付 11:30 ~
12:00 ~ 15:00
食事提供時間 12:00 ~ 13:30

場所

高知学園短期大学 7号館1階



参加無料
食事は300円



学校法人 高知学園

高知学園短期大学

お問い合わせは学生支援課まで TEL 088-840-1664 <http://www.kochi-gc.ac.jp/>
〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

高知学園短期大学 校章

高知学園短期大学は
創立50周年を迎えました。



参加無料・お気軽にご参加ください!

健康長寿県高知を一緒にお手伝い 対象=65歳以上

生活科学学科

◆食事の提供と説明

ガクタン特製やさしちらし寿司セット
 ●山菜ちらし ●やしん ●菜の花の刺身 ●抹茶あんこクリーム添え
 (300円でご提供)
 ※食事提供時間(12:00~13:30)

◆健康講話と栄養相談

栄養相談と食事バランスチェック!
 ①12時30分~ ③13時30分~
 ②13時~ ④14時~



看護学科 専攻科地域看護学専攻



- ◆ 血圧測定
- ◆ 健康相談

幼児保育学科

◆歌と手遊び

お孫さんや小さいお子さまたちと一緒に楽しめますよ!カンタンな手遊びも交えながら楽しく歌ってみませんか?



医療衛生学科 歯科衛生専攻

◆すごろくゲーム

全身を使ったリフレッシュゲームです。遊びながら体力アップとなります。



◆お口の体操

口を動かすことにより、口の周りの老化防止と機能アップを図ります。



医療衛生学科 医療検査専攻 専攻科応用生命科学専攻

◆骨密度測定

◆骨と健康食品

骨粗鬆症の豆知識と骨を丈夫に保つ健康食品のおはなし等
 ・骨粗鬆症とは
 ・骨の疾患と臨床検査
 ・骨と健康食品



本学は昭和42年の開学以来、15,500名余の卒業生が巣立ち、その9割が県内の各施設、企業に専門職として就職し、「社会にいちばん近い大学」として高知県の「食・教育・医療」を支える有為な人材を輩出し続ける高等教育機関としての役割を果たしています。

本学は昭和50年頃から、現在の歯科衛生専攻が歯科保健活動をスタートし、現在は今学科で健康教育に取り組んでいます。このような歴史の中で、近隣地域の方々に本学の活動の一端を紹介し、ふれあいを深めていただければと思っています。どうぞお気軽にお立ち寄りくださいませ。

- 生活科学学科
- 幼児保育学科
- 医療衛生学科 医療検査専攻
- 医療衛生学科 歯科衛生専攻
- 看護学科
- 専攻科応用生命科学専攻
- 専攻科地域看護学専攻



食、教育、医療。

高知学園短期大学は「食」「教育」「医療」の分野で幅広く社会への興味を持ち、地域社会で活躍することを目標に学び成長していくことを目指しています。

学校法人 高知学園

高知学園短期大学

お問い合わせは **TEL 088-840-1664**

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)



高知学園就業規則（抜粋）

（適用範囲）

第2条 この規則は、学園に常時勤務する職員に適用する。ただし、本部長、学長、校長、園長については第4条及び第9条の規定を適用する。

（任命権者）

第4条 職員の任命その他の進退は、理事長（以下「任命権者」という。）がこれを行う。

（退職）

第9条 職員は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該各号に掲げる日をもって退職する。

- （1）雇用期間に定めがあり、その期間が満了したとき。
- （2）休職期間が満了し復職されなかったとき。
- （3）定年に達したとき。
- （4）死亡したとき。

2 定年に関する規程は、別に定める。

附則

第1条 この規則は、昭和46年11月5日から適用する。

（施行期日）

1 この規程の一部改正は、平成28年1月28日から施行する。

定年に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、高知学園就業規則第9条第2項の規定に基づき職員の定年に関する事項を規定する。

(定年及び期日)

第2条 職員の定年は満62歳(高知学園大学(以下「大学」という。)、高知リハビリテーション専門職大学(以下「専門職大学」という。)、高知学園短期大学(以下「短期大学」という。)及び高知リハビリテーション学院(以下「リハビリテーション学院」という。)の教育職員にあっては65歳)とし、定年に達した日の属する会計年度の末日をもって、当該職員の定年退職の期日とする。

2 前項の規定にかかわらず、高知学園以外を定年(勸奨退職を含む。以下同じ。)又は定年に近接した年齢で退職し、初任給決定につきそのことを考慮して採用された職員の定年は、満65歳とする。ただし、特に必要があると認めた職員並びに大学、専門職大学、短期大学及びリハビリテーション学院の教育職員にあっては、満68歳とする。

3 本部長、学長、校長、園長、学院長並びに大学、専門職大学、短期大学及びリハビリテーション学院の教育職員で特に必要があると認めた職員については、前2項の定年を延長することができる。

4 前3項の規定にかかわらず、大学及び専門職大学の教育職員は開学から完成年度までの4年間は定年を超えて雇用することができる。

第3条 削除

第4条 削除

附 則

第1条 この規程は、昭和46年11月5日から適用する。

第2条 この規程の一部改正については、昭和53年4月1日から適用する。

第3条 この規程の一部改正については、昭和54年6月6日から適用する。

第4条 この規程の一部改正については、昭和55年4月1日から適用する。

第5条 この規程の一部改正については、平成4年4月1日以降採用された教育職に適用する。

附 則 (平成4年6月27日理事会決議)

(施行期日)

1 この規程の一部改正については、平成4年6月27日から施行する。

(経過規程)

2 現に、施行日に在職する職員については、この規程により採用されたものとみなす。

附 則（平成 14 年 12 月 16 日第 4 回理事会決議）

（施行期日）

1 この規程の一部改正については、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 短期大学及びリハビリテーション学院の教育職員で平成 16 年 3 月 31 日に定年となる者は満 68 歳、平成 17 年 3 月 31 日に定年となる者は満 67 歳、平成 18 年 3 月 31 日に定年となる者は満 66 歳、平成 19 年 3 月 31 日に定年となる者は満 65 歳とする。

附 則（平成 19 年 3 月 14 日第 6 回理事会決議）

（施行期日）

この規程の一部改正は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（第 2 条第 1 項改正、第 4 条第 2 項削除）

附 則（平成 24 年 3 月 14 日第 4 回理事会議決）

（施行期日）

この規程の一部改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 月 日第 回理事会議決）

（施行期日）

この規程の一部改正は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 年 月 日第 回理事会議決）

（施行期日）

この規程の一部改正は、平成 32 年 4 月 1 日から施行する。

30 高学園 第 93 号

平成 30 年 10 月 15 日

高知学園短期大学

学長 小島 一久 様

学校法人 高知学園

理事長 吉良 正人



高知学園大学の教員採用及び定年に関する規程の適用について

平成 32 年 4 月開学予定の高知学園大学の教員として、別添の別紙 1 (管理栄養学科)、別紙 2 (臨床検査学科) の者を専任教員として採用することを承諾します。

また、定年を超過している教員については、定年に関する規程により完成年度まで雇用を延長することとします。

管理栄養学科では、食と栄養の分野から健康で豊かな生活に貢献するため、①食と栄養の重要性を考えながら、学習に計画的かつ熱心に取り組むこと、②学習内容を活用して実践すること、③食と栄養及び健康に強い関心を持ち、最新の食・栄養に関わる理論と技術を学び続けること、④仲間とともに自己成長を目指すことが求められること。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して、以下の準備ができていない人を入学者として求めている。

カリキュラムポリシー

管理栄養学科は、学生が健康科学部ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

ディプロマポリシー

管理栄養学科は、食と栄養を通して人々の健康に貢献するために、医療や社会の様々なニーズに対応できる、次の能力を獲得した者に学士（栄養学）の学位を授与する。

食と栄養に関する分野に必要な基礎学力を持ち、謙虚な気持ちで学習に取り組む人。

食に関わる健康の問題解決を図るための教養教育と専門教育の教育課程を編成する。食と栄養に関する知識と技術を修得し、管理栄養士の社会的な役割を理解するとともに、その知識と技術を活用する応用力・実践力を養う教育を実施する。

キャリア形成に対する意識を持ち、食と栄養に関する分野で社会貢献を目指す人。

健康に関する問題に食と栄養の側面から気づき、その原因を探求して適切な判断と問題解決を図る活動を取り入れた教育課程を編成する。自ら計画を立てて学習に取り組むようアクティブ・ラーニング等、学生の主体性を育み表現力や傾聴力などを養う教育を実施する。

将来への目的意識が高く、健康で豊かな生活を心がけ実践している人。

多様な専門職者と協働することができるように、各種専門職の特徴や役割を理解し、他の専門分野の学生と協働しながら、総合的に健康を学ぶ教育課程を編成する。

多様な人々と協力しながら、主体的に学ぶために必要なコミュニケーション能力を有する人。

チーム医療で必要となる医療職種間の業務の違いや、多様な専門分野の役割を理解するとともに、管理栄養士の医療における役割や立場を理解し、他者と協働するための教育を実施する。学科を越えた共通科目による他職種間連携のフィールドワーク等を取り入れた実践的教育を実施する。

教育課程									
1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎化学 有機化学 生物学概論 数学概論 物理学概論	生化学Ⅰ（機能） 生化学Ⅱ（代謝） 人体の構造学 救急救命法 管理栄養士導入教育論	生化学実験 人体の構造学実習 人体の機能学 疾病論Ⅰ（総論） 医療リスクマネジメント	生化学実験 人体の機能学実習 疾病論Ⅱ（各論）	運動生理学	運動生理学実習				
食品学Ⅰ（総論） 調理科学 調理学実習Ⅰ（基礎）	健康栄養学 食品衛生学 食品学Ⅱ（各論） 食品学実験 調理学実習Ⅱ（応用） 基礎栄養学	公衆衛生学Ⅰ（総論） 食品衛生学実験 応用栄養学Ⅰ（栄養管理） 応用栄養学Ⅱ（母性・成長期） 給食経営管理論Ⅰ（総論） 基礎栄養学実験	公衆衛生学Ⅱ（各論） 臨床栄養学Ⅰ（総論） 応用栄養学Ⅲ（成人・高齢期） 応用栄養学実習 給食経営管理論Ⅱ（各論） 栄養教育論Ⅰ（基礎） 公衆栄養学Ⅰ（総論）	公衆衛生学実習 臨床栄養学Ⅱ（管理・評価） 臨床栄養学Ⅲ（栄養食事療法） 臨床栄養学実習Ⅰ（基礎） 栄養教育論Ⅱ（応用） 栄養教育論実習 公衆栄養学Ⅱ（各論） 給食経営管理実習Ⅰ（基礎） 給食経営管理実習Ⅱ（応用）	食品加工学実習				
国際文化人間論 健康科学 生活と環境 日本語文章表現 日本語口頭表現 英語文章表現	経営学基礎 統計学 社会福祉論 英語読解 日常英会話 中国語の基礎	マーケティング論 日本語読解 中国語会話							
情報機器の活用と発信 平和と友愛論 日本国憲法	社会とメディア 災害と生活	情報機器とプレゼンテーション 情報倫理							
心理学 社会学 土佐の歴史 土佐の食文化 美術の世界 運動と健康 生涯スポーツ実技 家庭科教育法Ⅰ 教育原理 キャリアデザインⅠ（基礎）	ヒューマンコミュニケーション チーム医療概論 被服学 家庭看護学 教育課程総論 生徒指導の理論と方法 学校栄養教育論Ⅰ	家族関係学 被服製作実習 住居学（製図を含む） 保育学 家庭科教育法Ⅱ 道徳教育の指導法 教育の方法及び技術 学校栄養教育論Ⅱ	家庭電気・家庭機械 家庭情報処理 教育相談 教育心理学 発達心理学 特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法 進路指導及びキャリア教育の理論と方法 キャリアデザインⅡ（応用）	教育実習Ⅰ 教育実習事前事後指導 栄養教育実習 栄養教育実習事前事後指導	特別支援教育入門	教育実習Ⅱ	就職実践演習Ⅰ 就職実践演習Ⅱ		

人々の健康的な生活に貢献する地域医療や在宅医療、災害医療等の栄養管理を実践するため、科学的根拠に基づいた高度な専門的知識及び技術を身につけた者。

人々の食生活や食習慣に関する課題の改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力を身につけた者。

人々の健康的な生活を目指し、専門職としての責任感と倫理観を身につけ、他者の立場を理解し協働できる者。

保健、医療、福祉等において多様な職種や人々と協働し、管理栄養士として中核的役割を果たすために学び続ける力を身につけた者。

教養・基礎科目
専門導入科目
専門基礎科目
専門科目
家庭科専門科目
栄養教諭専門・教職専門科目
※枠内の文字色について
黒字は必修科目 赤字は選択科目
※科目枠外の塗りつぶしについて
配当年次の変更 新しく追加した科目 必修・選択の変更

アドミッションポリシー

臨床検査学科では、学生が生命の仕組みと疾病の成り立ち及び予防について習得し、現代医療に貢献するため、①臨床検査が果たす役割を考えながら、計画的かつ意欲的に学ぶこと、②臨床検査に関する知識を適切に活用して実践するための技術を学び続けること、③健康維持と増進に有益な臨床検査に関する最新の知識を学び続けること、④多様な人々と協働し、自らの役割を果たすことが求められる。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して、以下の準備ができていない人を入学者として求めている。

カリキュラムポリシー

臨床検査学科は、学生が健康科学部ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得することによって、現代医療に貢献できる臨床検査技師を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

人々の健康を支えるための学習に必要な基礎学力を有し、学習意欲を継続できる人。

保健医療に貢献する人材として、広い視野をもち専門性と責任感を有し問題解決を図ることができるために、教養教育と専門教育を編成する。人体の理解を柱に専門知識や技術の基盤を身につけ、実践力や応用力を養う教育を実施する。

人体の仕組みと働きに強い関心を持ち、生命に関わる分野で社会貢献を目指す人。

医療人として自己の役割を認識し、更なる成長を果たすため、グループ活動他アクティブ・ラーニングを取り入れるなど、他者との相互理解を深め、目標を立てて主体的に学ぶ教育を実施する。

人々が健康に生活できるための知識や技術を学ぶことに強い意志を持つ人。

医療人としての研究的視点を獲得するため、卒業研究やその発表等を通して、創造性、主体性、表現力及び倫理観を育む教育を実施する。

思いやりと協調性を有し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる人。

チーム医療で必要となる医療職種間の業務の違いや多様な専門分野の役割を理解するとともに、臨床検査技師の医療における役割や立場を理解し、他者と協働するための教育を実施する。学科を越えた共通科目による他職種間連携のフィールドワークなどを取り入れた実践的教育を実施する。

ディプロマポリシー

臨床検査学科は、豊かな教養と人間性を備え、高度化・多様化する現代医療に貢献するために、本学科の教育と学習を通じて生命の仕組みと疾病の成り立ち及び予防に関する以下の能力を獲得した者に学士（臨床検査学）の学位を授与する。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
化学概論 生化学Ⅰ(物質生化学)	生化学Ⅱ(代謝生化学) 生化学実習	臨床化学Ⅰ(基礎)	臨床化学Ⅱ(臨床応用)	臨床化学実習			
生物学概論 生理学 解剖学	生理機能検査Ⅰ(基礎) 解剖学実習 病理学総論	生理機能検査Ⅱ(臨床) 画像検査学 病理学各論	生理機能検査学実習 画像検査学実習	病理検査学 病理検査学実習 細胞検査学 血液検査Ⅱ(検査とデータ解析) 免疫検査学実習 輸血・移植検査学実習	臨床化学実習	画像検査学特論	
数学概論 物理学概論	血液学 微生物学	血液検査Ⅰ(疾患と検査) 免疫学 微生物検査学 医動物学 遺伝学	血液検査学実習 免疫検査学 輸血・移植検査学 微生物検査学実習 遺伝子・染色体検査学 細胞分子生物学	病理解析学 健康食品総論 薬理学 検査管理学実習	検査管理学特論	病態解析学特論	
臨床検査学基礎実習 医学概論	臨床検査総論 臨床医学総論	臨床検査総論実習 臨床医学各論	放射線同位元素検査学 臨床検査医学	検査管理学演習 臨地実習前総合演習	検査管理学特論	生殖医療概論	
健康科学 生活と環境 運動と健康 生涯スポーツ実技	社会福祉論 災害と生活 救急救命法			医療安全管理学演習	臨地実習	健康栄養学概論	卒業研究
平和と友愛論 国際文化人間論 日本国憲法	経営学基礎		関係法規	生命倫理学			総合臨床検査セミナー
情報機器の活用と発信	統計学	情報機器とプレゼンテーション	情報倫理 医療統計学	医療情報学		医療情報学演習 医療検査情報システム論	
英語文章表現	英語プレゼンテーション 日常英会話 中国語の基礎	英語読解 中国語会話		医学英語演習		医学英語特論	
心理学 社会学 美術の世界 土佐の歴史 土佐の食文化	ヒューマンコミュニケーション チーム医療概論 社会とメディア	マーケティング論		地域包括ケアシステム論		地域医療概論	
日本語文章表現 日本語口頭表現		日本語読解					
キャリアデザインⅠ(基礎)				キャリアデザインⅡ(応用)			

教養・基礎科目
専門基礎科目
専門科目
※枠内の文字色について
黒字は必修科目 赤字は選択科目
※科目枠外の塗りつぶしについて
新しく追加した科目
必修・選択の変更

地域医療や在宅医療さらに災害医療などの幅広い分野で貢献するために、人体の健康状態を解析できる臨床検査の知識や技術を備えた者。

生命を守るために、臨床検査分野の課題を探求し、問題解決する実践力を身につけた者。

地域医療の発展のために必要な研究的視点を持ち、責任感と倫理感を身につけた者。

地域や医療の組織の中で臨床検査技師の役割を果たすために、コミュニケーション能力と多様な人々と協働し学び続ける力を身につけた者。

時間割

健康科学部 管理栄養学科

時間割

健康科学部 管理栄養学科 1年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	生物学概論 (村上)811	◎平和と友愛論 (浜田)711 土佐の歴史 (宅間)811	◎調理学実習 I (基礎) A組 (彼末) 調理学実習室	◎英語文章表現 B組 (太田)531	家庭科教育法 I (川口)821	◎有機化学 (鈴木)711
2限	教職及び教育の 制度・経営論 (永野)532	◎健康科学(津野) 711		◎食品学 I (総論) (宮本)811	◎土佐の食文化 (三谷)711	
3限	家庭科教育法 I (川口)531	物理学概論 (岩崎)811	情報機器の 活用と発信 B組 (来栖)PC2	◎英語文章表現 A組 (太田)532	◎調理学実習 I (基礎) B組 (彼末) 調理学実習室	◎キャリアデザイン I (基礎) (二宮)533
4限	心理学(吉村)811 生涯スポーツ実技 (山本)運動場	日本語口頭表現 (松木)811 ◎日本語文章表現 (戸田)711	◎調理科学 (次田)811	情報機器の 活用と発信 A組 (来栖)PC2		◎社会学(遠山)811 教育原理(中村)531
5限	美術の世界 (都築)811 国際文化人間論 (近森)811	数学概論(池)532 生活と環境(木下)811	◎基礎化学 (鈴木)811	日本国憲法 (渡邊富)711	◎運動と健康 (山本)533	

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中	
1限	◎食品学実験 A組 (宮本) 食品学 実験実習室	◎調理学実習 II (応用) B組 (彼末) 調理学 実習室	◎管理栄養士導入教育論 (安房田、渡邊慶、古屋)711 ◎健康栄養学 (安房田)711	◎人体の構造学 (田口)811	英語読解 (太田)532	ヒューマン コミュニケーション (二宮)811	救急救命法(小野川、中村) 7号館2F大講義室 (演習1単位)30H 3/8-3/12
2限		◎基礎栄養学 (安房田)711	◎社会福祉論 (岡村)711	統計学(三船)811 教育課程総論 (宮崎大、田邊)531	◎チーム医療概論 (山中、松浦、渡邊慶、矢野、小野川、森田、坂本、松崎茂、宮崎、福井、竹崎、光岡)533	◎チーム医療概論 (山中、松浦、渡邊慶、矢野、小野川、森田、坂本、松崎茂、宮崎、福井、竹崎、光岡)533	家庭看護学 (池添)532 集中(講義2単位)30H 3/1-3/5
3限	◎調理学実習 II (応用) A組 (彼末) 調理学 実習室	◎食品学実験 B組 (宮本) 食品学 実験実習室	◎家庭経営学 (家庭経済学を含む) (井本)531	◎日常英会話 B組 (7エビアン)811	◎日常英会話 A組 (7エビアン)811		
4限		◎経営学基礎(生島)811 被服学(川口)532	◎生化学 I (機能) (鈴木)711	生徒指導の理論と方法 (吉村)811	◎生化学 II (代謝) (鈴木)831		
5限	学校栄養教育論 I (下元)531	中国語の基礎 (前田)811	災害と生活 (島田)533	◎食品学 II (各論) (宮本)811	◎食品衛生学 (中野政)811		

は教養・基礎科目

は専門導入・専門基礎・専門科目

は家庭科専門科目

は栄養教諭専門・教職専門科目

前半
後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「◎」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは臨床検査学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 管理栄養学科 2年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中			
1限	◎人体の構造学実習 A組 (田口) 形態系実習室		◎生化学実験 B組 (鈴木) 化学系実験室	◎食品衛生学実験 A組(中野政) 食品学実験実習室	◎基礎栄養学実験 B組 (安房田) 化学系実習室	◎情報機器とプレゼンテーション B組 (来栖)PC1	◎基礎栄養学実験 A組 (安房田) 化学系実習室	◎食品衛生学実験 B組(中野政) 食品学実験実習室	家族関係学 (森田美)532 集中(講義2単位)30H 8/9~8/13
2限	中国語会話 B組 (前田) 531	中国語会話 A組 (前田) 531			◎疾病論 I (総論) (松浦)821				被服製作実習 (川口)被服実習室 集中(実習1単位)45H 8/2~8/6
3限	◎人体の構造学実習 B組 (田口) 形態系実習室	◎人体の機能学 (田口)821	マーケティング論 (永島)711 道徳教育の指導法 (田邊)821	学校栄養教育論 II (下元)821	◎生化学実験 A組 (鈴木) 化学系実験室				住居学(製図を含む) (西島)531 集中(講義2単位)30H 8/16~8/20
4限	◎情報機器とプレゼンテーション A組 (来栖)PC1	日本語読解 (戸田)821 ◎医療リスクマネジメント (福井、小野、林)821	◎公衆衛生学 I (総論) (是永)711	保育学 (田村)532					
5限	◎応用栄養学 I (栄養管理) (古屋)533	◎給食経営管理論 I (総論) (沼田)821	◎応用栄養学 II (母性・成長期) (古屋)711	家庭科教育法 II (川口)532	教育の方法及び技術 (濱田)PC2				

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中	
1限	情報倫理 (来栖)PC1	教育心理学 (吉村)532	◎人体の機能学実習 A組 (市川) 生理系実習室	◎応用栄養学実習 B組 (古屋) 調理学実習室	発達心理学 (吉村)531	教育相談 (中野靖)531	
2限	◎公衆衛生学 II (各論) (是永)711	◎臨床栄養学 I (総論) (松村)821			◎給食経営管理論 II (各論) (沼田)711	進路指導及びキャリア教育の理論と方法 (小島)531	
3限	◎応用栄養学 III (成人・高齢期) (古屋)711	◎疾病論 II (各論) (松浦)821	◎応用栄養学実習 A組 (古屋) 調理学実習室	◎人体の機能学実習 B組 (市川) 生理系実習室	総合的な学習の時間の指導法(山下、宮崎)532 特別活動の指導法 (宮崎)532	キャリアデザイン II (応用) (小島)711	
4限	◎栄養教育論 I (基礎) (荒木)711	◎公衆栄養学 I (総論) (竹市)821			家庭科教育法 II (川口)532	英語プレゼンテーション A組 (太田)821	
5限		家庭電気・家庭機械 (吉松)532	家庭情報処理 (来栖)PC1		英語プレゼンテーション B組 (太田)821		

は教養・基礎科目

は専門導入・専門基礎・専門科目

は家庭科専門科目

は栄養教諭専門・教職専門科目

前半
後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「◎」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは臨床検査学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 管理栄養学科 3年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中		
1限	◎公衆衛生学実習 A組 (是永) 生理系実習室	◎栄養教育論実習 B組 (荒木) 栄養教育実習室	◎臨床栄養学実習 I (基礎)A組 (渡邊慶) 臨床栄養実習室	◎給食経営管理実習 I (基礎) B組(沼田) 給食管理実習室	◎給食経営管理実習 II (応用) B組(沼田) 給食管理実習室	◎栄養教育論 II (応用) (荒木)811	◎給食経営管理実習 II (応用) A組(沼田) 給食管理実習室	◎臨地実習 I (給食の運営) (沼田)学外 別途(実習1単位)45H 8/22~8/29,9/5~9/9
2限					◎地域包括ケアシステム論 (森下)711		栄養教育実習 (田邊、戸田)学外 別途(実習1単位)45H 9/12~9/16	
3限	◎臨床栄養学Ⅲ (栄養食事療法) (渡邊慶)831	◎給食経営管理実習 I (基礎) A組(沼田) 給食管理実習室	◎臨床栄養学実習 I (基礎)B組 (渡邊慶) 臨床栄養実習室	栄養教育実習 事前事後指導 (田邊、戸田)532	◎臨床栄養学Ⅱ (管理・評価) (松村)711	教育実習 事前事後指導 (日比野)531	教育実習Ⅰ (日比野)学外 別途(実習2単位)90H 9/12~9/27	
4限			医学英語演習 (フェビアン)532	◎公衆栄養学Ⅱ (各論) (竹市)711	◎栄養教育論実習 A組(荒木) 栄養教育実習室	◎公衆衛生学実習 B組 (是永) 生理系実習室	栄養教育実習事前事後指導 別途 15H 8/1~8/5,9/29~9/30	
5限		◎運動生理学 (駒井)533	◎生命倫理学 (高橋)831	◎臨地実習 事前・事後指導 (渡邊、竹市、沼田)811			教育実習事前事後指導 (日比野)531 別途 15H 8/1~8/5,9/29~9/30	

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中	
1限		特別支援教育入門 (松本、今井、岡村)531	◎運動生理学実習 A組 (駒井) 多目的教室	◎臨床栄養学実習 II (応用)B組 (渡邊慶) 臨床栄養実習室	◎地域公衆栄養学実習 B組(竹市) PC1	◎食品加工学実習 B組(吉尾) 食品学実験実習室	◎臨地実習Ⅱ (給食経営管理論) (沼田)学外 別途(実習1単位)45H 2/13~2/20,2/27~3/6
2限	◎病棟栄養管理学 (宮澤)831	◎口腔ケアと栄養管理 (坂本、渡邊慶)533					◎臨地実習Ⅲ (臨床栄養学) (渡邊慶)学外 別途(実習1単位)45H 2/27~3/14
3限		◎がんと栄養療法 (利光、渡邊慶)533	◎臨床栄養学実習 II (応用)A組 (渡邊慶) 臨床栄養実習室	◎運動生理学実習 B組 (駒井) 多目的教室	◎地域公衆栄養学実習 A組(竹市) PC1	◎食品加工学実習 A組(吉尾) 食品学実験実習室	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学) (渡邊慶)学外 別途(実習1単位)45H 3/7~3/23
4限							臨地実習Ⅴ(公衆栄養学) (竹市)学外 別途(実習1単位)45H 3/7~3/14
5限							◎臨地実習事前・事後指導 (渡邊慶、竹市、沼田)831 別途15H 3/27~3/31

□ は教養・基礎科目

■ は専門導入・専門基礎・専門科目

■ は家庭科専門科目

■ は栄養教諭専門・教職専門科目

前半 後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「○」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは臨床検査学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 管理栄養学科 4年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限		卒業研究 (松浦、安房田、渡邊慶、田口、宮本、古屋、竹市、鈴木、荒木、沼田)	◎地域医療概論 <small>(安岡、渡邊慶、松浦、高岡、富永、鈴木、古屋、安房田、中村、小野川、沼田、是永、森田、武市、森下、淺羽) 711</small>			教育実習Ⅱ (日比野)学外 別途(実習2単位)90H 9/11~9/22
2限			医学英語特論 (松崎茂)811	◎栄養教育論Ⅲ(実践) (荒木)532		
3限						
4限						
5限						

後期

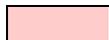
	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限		卒業研究 (松浦、安房田、渡邊慶、田口、宮本、古屋、竹市、鈴木、荒木、沼田)			教職実践演習 (中・高) (日比野)532	
2限			管理栄養士総合演習 <small>(松浦、安房田、田口、荒木、古屋、鈴木、宮本、渡邊慶、沼田、駒井、是永、竹市、次田)831</small>	管理栄養士総合演習 <small>(松浦、安房田、田口、荒木、古屋、鈴木、宮本、渡邊慶、沼田、駒井、是永、竹市、次田)831</small>		
3限					教職実践演習 (栄養教諭) (中野靖、下元)532	
4限						
5限						



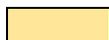
は教養・基礎科目



は専門導入・専門基礎・専門科目



は家庭科専門科目



は栄養教諭専門・教職専門科目



前半 後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「◎」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは臨床検査学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 臨床検査学科

時間割

健康科学部 臨床検査学科 1年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	◎生物学概論 (村上)811	◎平和と友愛論 (浜田)711 土佐の歴史 (宅間)811	◎解剖学 (田口)811	◎化学概論 (鈴木)711		
2限	◎英語文章 表現 A組 (太田)811	◎健康科学(津野) 711	◎情報機器 の活用と発 信 A組 (来栖)PC2	◎英語文章 表現 B組 (太田)341	◎情報機器 の活用と発 信 B組 (来栖)PC2	土佐の食文化 (三谷)711
3限	◎生理学 (今井)811	◎物理学概論 (岩崎)811	◎臨床検査学基礎 実習(山中、松崎茂、小 野川、三木、福永、松崎 梢、岩本) 化学系実習室	◎医学概論 (松浦)811	◎キャリアデザイン I(基礎) (二宮)533	
4限	心理学(吉村)811 生涯スポーツ実技 (山本)運動場	日本語口頭表現 (松木)811 ◎日本語文章表現 (戸田)711		◎生化学 I (物質生化学) (富永)811	社会学 (遠山)811	
5限	美術の世界 (都築房)811 国際文化人間論 (近森)811	数学概論(池)532 生活と環境(木下)811		◎日本国憲法 (渡邊富)711	◎運動と健康 (山本)533	

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限		◎血液学 (高岡)811		◎微生物学 (松崎茂)811	ヒューマン コミュニケーション (二宮)811	救急救命法(小野川、中村) 7号館2F大講義室 (演習1単位)30H 3/8-3/12
2限	◎病理学総論 (三木)811	◎生理機能検査学 I (基礎) (今井、中村)811	社会福祉論 (岡村)711	統計学 (三船)811	◎チーム医療概論 (山中、松浦、渡邊慶、矢野、小野 川、森田、坂本、松崎茂、宮崎、福 井、竹崎、光岡)533	
3限	◎臨床検査総論 (奥宮、森本)811	社会とメディア (隅田)811	◎日常英会 話B組 (フェビアン) 811	◎解剖学実習 (田口、三木、高橋) 形態系実習室	生化学実習 (富永、福永、岩本) 化学系実習室	
4限	◎臨床医学総論 (松浦)811	経営学基礎 (生島)811	◎生化学 II (代謝生化学) (富永)811			
5限	英語プレゼンテーション (太田)811	中国語の基礎 (前田)811	◎災害と生活 (島田)533		◎日常英会 話 A組 (フェビアン) 532	

□ は教養・基礎科目

■ は専門基礎・専門科目

◊ 前半
◊ 後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「○」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは管理栄養学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 臨床検査学科 2年

前期

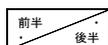
	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	◎検査管理総論 (山中)821	◎臨床化学 I (基礎) (奥宮、富永)821	◎画像検査学 (森田、中村)821	◎臨床検査総論実習 (森本、武市、是永、岩本) 化学系実習室	英語読解 (太田)821	
2限	病理学各論 (三木)821	◎免疫学 (佐藤、武市)821	◎臨床医学各論 (松浦)821		◎生理機能検査学 II (臨床) (今井、中村)821	
3限	◎血液検査学 I (疾患と検査) (高岡)821	遺伝学 (松崎茂)531	<u>マーケティング論</u> (永島)711	医療工学実習 (森田、松崎梢、今井) 生理系実習室	◎微生物検査学 (森本)821	
4限	◎医療工学概論 (森田)821	日本語読解 (戸田)821	中国語会話 (前田)821		情報機器と プレゼンテーション (来栖)PC2	
5限			◎公衆衛生学 (森山、小野川) 821	◎医動物学 (是永) 821		

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中	
1限	細胞分子生物学 (村上)532	◎微生物検査学実習 (松崎茂、森本、村上) 生体防御系実習室	◎輸血・移植検査学 (佐藤)821	◎放射性同位元素検 査学 (森田)821	◎臨床化学 II (臨床応用) (奥宮、富永)821		
2限	◎免疫検査学 (佐藤、武市)821		医療統計学 (小野川)821	臨床検査医学 (松浦)821	情報倫理 (来栖)PC1		
3限	◎生理機能検査学実習 (今井、中村、松崎梢) 生理系実習室	公衆衛生学実習 (是永、小野川、森山) 生理系実習室	遺伝子・染色体検査学 (奥宮)821		◎生理機能検査学実習 (今井、中村、松崎梢) 生理系実習室		◎血液検査学実習 (高岡、武市、佐藤) 形態系実習室
4限			◎微生物検査学実習 (松崎茂、森本、村上) 生体防御系実習室	◎画像検査学実習 (今井、森田、中村) 生理系実習室			
5限							

 は教養・基礎科目

 は専門基礎・専門科目

 前半
後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「○」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは管理栄養学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 臨床検査学科 3年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	臨地実習前総合演習 <small>(山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、高橋、福永、岩本) 831</small>	臨地実習前総合演習 <small>(山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、高橋、福永、岩本) 831</small>	医療情報学 (久原)PC1	薬理学 (小野川)831	医学英語演習 (7Eビアン)532	遺伝子・染色体検査学実習 (奥宮、高岡、田口、村上、福永) 生体防御系実習室 (実習1単位)45H 8/18-8/26
2限			生命倫理学 (高橋)831	◎地域包括ケアシステム論 (森下)711	◎病理検査学 (三木)811	
3限	◎臨床化学実習 (奥宮、富永、山中) 化学系実習室	健康食品総論 (小野川)831	血液検査学Ⅱ (機器とデータ解析) (高岡、佐藤)831	◎病理検査学実習 (三木、高橋、武市) 形態系実習室	◎免疫検査学実習 (佐藤、武市、片岡) 生体防御系実習室	
4限		キャリアデザインⅡ (応用) (小島)831	細胞検査学 (三木)831			
5限		検査管理学演習 (山中)831	◎医療安全管理学演習 (山中、森本、奥谷)532			

後期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	◎臨地実習 (学外) <small>(山中、今井、高岡、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、武市、中村、小野川、村上、三木、片岡)</small>	◎臨地実習 (学外) <small>(山中、今井、高岡、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、武市、中村、小野川、村上、三木、片岡)</small>	◎臨地実習 (学外) <small>(山中、今井、高岡、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、武市、中村、小野川、村上、三木、片岡)</small>	◎臨地実習 (学外) <small>(山中、今井、高岡、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、武市、中村、小野川、村上、三木、片岡)</small>	登校日 (臨地実習まとめ)	◎臨地実習(学外) <small>(山中、今井、高岡、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、奥宮、森本、森田、武市、中村、小野川、村上、三木、片岡)</small> (実習7単位)315H
2限						10/3-10/14 実習準備期間
3限						10/17-1/26 実習期間
4限						
5限						

は教養・基礎科目

は専門基礎・専門科目

前半
後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「◎」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは管理栄養学科と同時開講科目

時間割

健康科学部 臨床検査学科 4年

前期

	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	◎卒業研究 (高岡、富永、今井、是永、松崎茂、佐藤、奥宮、森本、山中、森田、三木、村上、小野川、武市、中村、片岡)	◎卒業研究 (高岡、富永、今井、是永、松崎茂、佐藤、奥宮、森本、山中、森田、三木、村上、小野川、武市、中村、片岡)	◎地域医療概論 (安岡、渡邊慶、松浦、高岡、富永、鈴木、古屋、安房田、中村、小野川、沼田、是永、森田、武市、森下、浅羽) 711		病態解析学特論 (松浦)831	◎地域医療概論 (安岡、渡邊慶、松浦、高岡、富永、鈴木、古屋、安房田、中村、小野川、沼田、是永、森田、武市、森下、浅羽) 別途14H 9/19-9/29
2限			医療情報学演習 (久原)PC1	◎機器分析学 (片岡)533		
3限			医療検査情報システム論 (久原)PC1	健康栄養学概論 (安房田)831	◎検査管理学特論 (山中)811	
4限				医学英語特論 (村上)831	生殖医療概論 (津田、泉谷、谷口、都築た) 821	
5限				画像検査学特論 (森田、中村)831		

後期

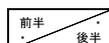
	月	火	水	木	金	別途計画・集中
1限	◎卒業研究 (高岡、富永、今井、是永、松崎茂、佐藤、奥宮、森本、山中、森田、三木、村上、小野川、武市、中村、片岡)	総合臨床検査学 (山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査学 (山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査学 (山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査学 (山中、高岡、今井、松崎茂、是永、富永、佐藤、奥宮、森本、森田、村上、三木、武市、中村、小野川、岩本、松崎桐) 831	
2限						
3限		総合臨床検査セミナー (奥宮、山中、森本、是永、松崎茂、松浦、三木、今井、森田、中村、富永、高岡、村上、佐藤、武市、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査セミナー (奥宮、山中、森本、是永、松崎茂、松浦、三木、今井、森田、中村、富永、高岡、村上、佐藤、武市、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査セミナー (奥宮、山中、森本、是永、松崎茂、松浦、三木、今井、森田、中村、富永、高岡、村上、佐藤、武市、小野川、岩本、松崎桐) 831	総合臨床検査セミナー (奥宮、山中、森本、是永、松崎茂、松浦、三木、今井、森田、中村、富永、高岡、村上、佐藤、武市、小野川、岩本、松崎桐) 831	
4限						
5限						



は教養・基礎科目



は専門基礎・専門科目



前半
後半

※科目名の先頭に「◎」ありは必修科目、「◎」なしは選択科目

※科目名にアンダーラインは管理栄養学科と同時開講科目

履修モデル

健康科学部管理栄養学科

履修モデル(管理栄養士国家試験受験資格)

科目	単位数	1年次				2年次				3年次				4年次				備考		
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
基礎栄養学	基礎栄養学	2			○															
基礎栄養学	基礎栄養学実験	1																		
	応用栄養学 I (栄養管理)	2						○												
	応用栄養学 II (母性・成長期)	2						○												
	応用栄養学 III (成人・高齢期)	2							○											
	応用栄養学実習	1							○											
栄養教育論	栄養教育論 I (基礎)	2							○											
	栄養教育論 II (応用)	2								○										
	栄養教育論 III (実践)	2									○									
	栄養教育論実習	1										○								
臨床栄養学	臨床栄養学 I (総論)	2							○											
	臨床栄養学 II (管理・評価)	2								○										
	臨床栄養学 III (栄養食事療法)	2									○									
	臨床栄養学実習 I (基礎)	1										○								
	臨床栄養学実習 II (応用)	1											○							
	病棟栄養管理学	2												○						
	口腔ケアと栄養管理	1													○					
公衆栄養学	がんと栄養療法	1																		
	公衆栄養学 I (総論)	2							○											
	公衆栄養学 II (各論)	2									○									
	地域公衆栄養学実習	1										○								
給食経営管理論	給食経営管理論 I (総論)	2						○												
	給食経営管理論 II (各論)	2							○											
	給食経営管理実習 I (基礎)	1										○								
	給食経営管理実習 II (応用)	1											○							
総合演習	臨地実習事前・事後指導	1												通年科目 ○						
	管理栄養士総合演習	2	2																△	
臨地実習	臨地実習 I (給食の運営)	1											○							
	臨地実習 II (給食経営管理論)	1												○						
	臨地実習 III (臨床栄養学)	1													○					
	臨地実習 IV (臨床栄養学)	1														△*				
	臨地実習 V (公衆栄養学)	1														△*				
発展科目	卒業研究	4																	通年科目 △	
小計		44	8	0	-	2	-	7	-	11	-	13	-	9	-	2	-	0	-	45単位以上
家庭科専門科目	家庭経営学(家庭経済学を含む)	2				○														
	家族関係学	2							△											
	被服学	2					△													
	被服製作実習	1							△											
	住居学(製図を含む)	2							△											
	保育学	2							△											
	家庭看護学	2					△													
	家庭電気・家庭機械	2											△							
	家庭情報処理	1												△						
	家庭科教育法 I	4				△														
	家庭科教育法 II	4														通年科目 △				
小計		2	22	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	2単位以上
栄養教育論専門科目	学校栄養教育論 I	2						△												
	学校栄養教育論 II	2							△											
小計		0	4	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	

単位数合計	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
	106	76	16	-	22	-	18	-	16	-	20	-	11	-	3	-	0	-	106	18以上

卒業要件単位数 124単位以上

履修モデル(栄養教諭一種免許状)

	科目	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		備考										
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		必修	選択								
専門科目	基礎栄養学	2			○							必修科目44単位と 選択科目(△)から 1単位以上修得 ※臨地実習Ⅳ(臨床 栄養学)と臨地実習 Ⅴ(公衆栄養学)の いずれか選択必修										
	基礎栄養学実験	1				○																
	応用栄養学Ⅰ(栄養管理)	2				○																
	応用栄養学Ⅱ(母性・成長期)	2				○																
	応用栄養学Ⅲ(成人・高齢期)	2					○															
	応用栄養学実習	1					○															
	栄養教育論Ⅰ(基礎)	2					○															
	栄養教育論Ⅱ(応用)	2						○														
	栄養教育論Ⅲ(実践)	2							○													
	栄養教育論実習	1							○													
	臨床栄養学Ⅰ(総論)	2					○															
	臨床栄養学Ⅱ(管理・評価)	2						○														
	臨床栄養学Ⅲ(栄養食事療法)	2						○														
	臨床栄養学実習Ⅰ(基礎)	1						○														
	臨床栄養学実習Ⅱ(応用)	1							○													
	病棟栄養管理学	2							○													
	口腔ケアと栄養管理	1							○													
	がんと栄養療法	1							○													
	公衆栄養学Ⅰ(総論)	2					○															
	公衆栄養学Ⅱ(各論)	2						○														
	地域公衆栄養学実習	1							○													
	給食経営管理論Ⅰ(総論)	2				○																
	給食経営管理論Ⅱ(各論)	2					○															
	給食経営管理実習Ⅰ(基礎)	1						○														
	給食経営管理実習Ⅱ(応用)	1						○														
	総合演習	1							○													
	管理栄養士総合演習	2								○												
	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	1							○													
	臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	1							○													
	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	1							○													
	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	1								△※												
	臨地実習Ⅴ(公衆栄養学)	1								△※												
	発展科目	卒業研究	4								○											
	小計		44	8	0	-	2	-	7	-	11		-	13	-	9	-	2	-	0	-	45単位以上
	家庭科専門科目	家庭経営学(家庭経済学を含む)	2				○															必修科目2単位 以上修得
		家族関係学	2							△												
被服学		2					△															
被服製作実習		1							△													
住居学(製図を含む)		2							△													
保育学		2							△													
家庭看護学		2					△															
家庭電気・家庭機械		2										△										
家庭情報処理		1										△										
家庭科教育法Ⅰ		4				△																
家庭科教育法Ⅱ		4										△										
小計		2	22	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	2単位以上		
栄養教諭専門科目	学校栄養教育論Ⅰ	2						△														
	学校栄養教育論Ⅱ	2							△													
小計		0	4	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	4単位		
教職専門科目	教育原理	2			△															中・高 家庭科 教諭のみ 栄養教諭のみ		
	教職及び教育の制度・経営論	2			△																	
	教育心理学	2								△												
	発達心理学	2								△												
	特別支援教育入門	1											△									
	教育課程総論	2				△																
	道徳教育の指導法	2						△														
	総合的な学習の時間の指導法	1									△											
	特別活動の指導法	1									△											
	教育の方法及び技術	1							△													
	生徒指導の理論と方法	2				△																
	教育相談	2									△											
	進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2									△											
	教育実習Ⅰ	2																				
	教育実習Ⅱ	2																				
	教育実習事前事後指導	1																				
	教職実践演習(中・高 家庭科)	2																				
	栄養教育実習	1										△										
	栄養教育実習事前事後指導	1										△										
	教職実践演習(栄養教諭)	2																	△			
小計		0	33	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	26単位		

単位数合計	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
	106	109	16	-	22	-	18	-	16	-	20	-	11	-	3	-	0	-	106	18以上

卒業要件単位数	154単位以上
---------	---------

履修モデル(中・高等学校教諭一種免許状(家庭))

	科目	単位数		1年次				2年次				3年次				4年次				備考		
		必修	選択	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
教養・基礎科目	生命倫理学	2											○								必修科目17単位と 選択科目(△)から 17単位以上修得 ※ 「日本国憲法」 「生涯スポーツ実技」 は必修 「情報機器の活用と 発信」 「情報倫理」 のいずれか選択必修	
	心理学		2		△																	
	人間と文化の探求 平和と友愛論	1		○																		
	美術の世界		1		△																	
	国際文化人間論		1		△																	
	現代社会の探求	社会学		2		△																
		日本国憲法		2		△*																
		社会福祉論		2			○															
		社会とメディア		2				△														
		経営学基礎		2				△														
		マーケティング論		2					△													
		ヒューマンコミュニケーション		2					△													
	自然科学の探求	基礎化学		2		○																
		有機化学		2		○																
		生物学概論		2			△															
		物理学概論		2			△															
		数学概論		2			△															
	地域と環境の探求	健康科学		1		○																
		生活と環境		2			△															
		災害と生活		2				△														
		土佐の歴史		1			△															
		土佐の食文化		1		○																
	日本語科目	日本語文章表現		1		○																
		日本語口頭表現		1			△															
		日本語読解		1							△											
	外国語科目	英語文章表現		1		○																
		英語読解		1				△														
		日常英会話		1			○															
		英語プレゼンテーション		1								△										
		中国語の基礎		1				△														
	情報科目	情報機器の活用と発信		1			△*															
		情報機器とプレゼンテーション		1					○													
		情報倫理		1								△*										
	キャリア形成科目	キャリアデザインI(基礎)		1		○																
		キャリアデザインII(応用)		1									△									
	スポーツと健康の探求	運動と健康		1		○																
		生涯スポーツ実技		1			△*															
	小計		17	39	11	-	3	-	1	-	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-		34単位以上
	専門導入科目	管理栄養士導入教育論		1				○														
		健康栄養学		1				○														
チーム医療概論			1				○															
地域医療概論			1												○							
救急救命法			1					△														
医療リスクマネジメント			1						○													
医学英語演習			1										△									
医学英語特論			1													△						
小計		5	3	0	-	3	-	1	-	0	-	0	-	0	-	1	-	0	-	5単位以上		
専門基礎科目	公衆衛生学Ⅰ(総論)		2					○														
	公衆衛生学Ⅱ(各論)		2						○													
	公衆衛生学実習		1									○										
	地域包括ケアシステム論		2									○										
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ(機能)		2				○														
		生化学Ⅱ(代謝)		2				○														
		生化学実験		1					○													
		人体の構造学		2				○														
		人体の機能学		2					○													
		人体の構造学実習		1						○												
		人体の機能学実習		1							○											
		疾病論Ⅰ(総論)		2					○													
		疾病論Ⅱ(各論)		2						○												
		運動生理学		2									○									
	食べ物と健康	運動生理学実習		1									○									
		食品学Ⅰ(総論)		2				○														
		食品学Ⅱ(各論)		2					○													
		食品学実験		1					○													
		食品衛生学		2					○													
		食品衛生学実験		1						○												
		食品加工学実習		1									○									
		調理科学		2				○														
調理学実習Ⅰ(基礎)		1				○																
調理学実習Ⅱ(応用)		1						○														
小計		38	0	5	-	12	-	9	-	5	-	5	-	2	-	0	-	0	-	38単位		

履修モデル(中・高等学校教諭一種免許状(家庭))

	科目	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		備考							
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		必修	選択					
専門科目	基礎栄養学	2			○							必修科目44単位と 選択科目(△)から 1単位以上修得 ※臨地実習Ⅳ(臨床 栄養学)と臨地実習 Ⅴ(公衆栄養学)の いずれか選択必修							
	基礎栄養学実験	1				○													
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ(栄養管理)	2			○													
		応用栄養学Ⅱ(母性・成長期)	2			○													
		応用栄養学Ⅲ(成人・高齢期)	2				○												
	栄養教育論	応用栄養学実習	1				○												
		栄養教育論Ⅰ(基礎)	2					○											
		栄養教育論Ⅱ(応用)	2						○										
		栄養教育論Ⅲ(実践)	2							○									
	臨床栄養学	栄養教育論実習	1						○										
		臨床栄養学Ⅰ(総論)	2					○											
		臨床栄養学Ⅱ(管理・評価)	2						○										
		臨床栄養学Ⅲ(栄養食事療法)	2						○										
		臨床栄養学実習Ⅰ(基礎)	1						○										
		臨床栄養学実習Ⅱ(応用)	1							○									
		病棟栄養管理学	2							○									
	公衆栄養学	口腔ケアと栄養管理	1							○									
		がんと栄養療法	1							○									
		公衆栄養学Ⅰ(総論)	2					○											
	給食経営管理論	公衆栄養学Ⅱ(各論)	2						○										
		地域公衆栄養学実習	1							○									
		給食経営管理論Ⅰ(総論)	2				○												
		給食経営管理論Ⅱ(各論)	2					○											
	総合演習	給食経営管理実習Ⅰ(基礎)	1						○										
		給食経営管理実習Ⅱ(応用)	1						○										
	臨地実習	臨地実習事前・事後指導	1						通年科目 ○										
管理栄養士総合演習		2									△								
臨地実習Ⅰ(給食の運営)		1						○											
臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)		1							○										
臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)		1							○										
発展科目	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	1								△※									
	臨地実習Ⅴ(公衆栄養学)	1								△※									
卒業研究	4									通年科目 △									
小計	44	8	0	-	2	-	7	-	11	-	13	-	9	-	2	-	0	-	45単位以上
家庭科専門科目	家庭経営学(家庭経済学を含む)	2			○														必修科目2単位と 選択科目(△)を 22単位修得
	家族関係学	2						△											
	被服学	2				△													
	被服製作実習	1						△											
	住居学(製図を含む)	2						△											
	保育学	2						△											
	家庭看護学	2				△													
	家庭電気・家庭機械	2									△								
	家庭情報処理	1									△								
	家庭科教育法Ⅰ	4			△														
	家庭科教育法Ⅱ	4							通年科目 △										
小計	2	22	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	24単位
栄養教諭専門科目	学校栄養教育論Ⅰ	2					△												
	学校栄養教育論Ⅱ	2						△											
小計	0	4	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
教職専門科目	教育原理	2			△														中・高 家庭科 教諭のみ 栄養教諭のみ
	教職及び教育の制度・経営論	2			△														
	教育心理学	2							△										
	発達心理学	2							△										
	特別支援教育入門	1											△						
	教育課程総論	2				△													
	道徳教育の指導法	2						△											
	総合的な学習の時間の指導法	1								△									
	特別活動の指導法	1								△									
	教育の方法及び技術	1							△										
	生徒指導の理論と方法	2				△													
	教育相談	2									△								
	進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2									△								
	教育実習Ⅰ	2							△										
	教育実習Ⅱ	2							△										
	教育実習事前事後指導	1							△										
	教職実践演習(中・高 家庭科)	2																△	
栄養教育実習	1																		
栄養教育実習事前事後指導	1																		
教職実践演習(栄養教諭)	2																		
小計	0	33	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	29単位

単位数合計	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
	106	109	16	-	22	-	18	-	16	-	20	-	11	-	3	-	0	-	106	40以上

卒業要件単位数	175単位以上
---------	---------

履修モデル

健康科学部臨床検査学科

履修モデル(臨床検査技師国家試験受験資格)

	科目	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		備考								
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		必修	選択						
教養・基礎科目	人間と文化の探求	生命倫理学	2							○										
	心理学	2		△																
	平和と友愛論	1		○																
	美術の世界	1		△																
	国際文化人間論	1		△																
	現代社会の探求	社会学	2		△															
	日本国憲法	2		○																
	社会福祉論	2			△															
	社会とメディア	2			△															
	経営学基礎	2			△															
	マーケティング論	2				△														
	ヒューマンコミュニケーション	2				△														
	自然科学の探求	化学概論	2		○															
	生物学概論	2		○																
	物理学概論	2		○																
	数学概論	2			△															
	統計学	2				△														
	地域と環境の探求	健康科学	1		○															
	生活と環境	2			△															
	災害と生活	2				○														
	土佐の歴史	1			△															
	土佐の食文化	1			△															
	日本語科目	日本語文章表現	1		○															
	日本語口頭表現	1			△															
	日本語読解	1					△													
	外国語科目	英語文章表現	1		○															
	英語読解	1					△													
日常英会話	1				○															
英語プレゼンテーション	1					△														
中国語の基礎	1				△															
中国語会話	1					△														
情報科目	情報機器の活用と発信	1		○																
情報機器とプレゼンテーション	1					△														
情報倫理	1						△													
キャリア形成科目	キャリアデザインⅠ(基礎)	1		○																
キャリアデザインⅡ(応用)	1							△												
スポーツと健康の探求	運動と健康	1		○																
生涯スポーツ実技	1			△																
小計		20	34	15	-	3	-	0	-	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-	28単位以上
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学	2		○															
	解剖学実習	1			○															
	生理学	2		○																
	生化学Ⅰ(物質生化学)	2		○																
	生化学Ⅱ(代謝生化学)	1				○														
	生化学実習	1					△													
	細胞分子生物学	2							△											
	健康食品総論	2								△										
	医学検査の基礎とその関連	遺伝学	2					△												
	病理学総論	2				○														
	病理学各論	1						△												
	微生物学	2				○														
	血液学	2				○														
	免疫学	2						○												
	薬理学	2								△										
	医学英語演習	1									△									
	医学英語特論	1										△								
	保健医療福祉と医学検査	医学概論	1		○															
	チーム医療概論	1				○														
	地域医療概論	1									○									
	公衆衛生学	2					○													
	公衆衛生学実習	1							△											
	地域包括ケアシステム論	2								○										
	関係法規	1							○											
	医療統計学	1									△									
	健康栄養学概論	1										△								
	医療工学及び情報科学	医療工学概論	2				○													
医療工学実習	1						△													
医療情報学	2								○											
医療情報学演習	1										△									
医療検査情報システム論	2										△									
小計		28	19	7	-	9	-	6	-	1	-	4	-	0	-	1	-	0	-	32単位以上

履修モデル(臨床検査技師国家試験受験資格)

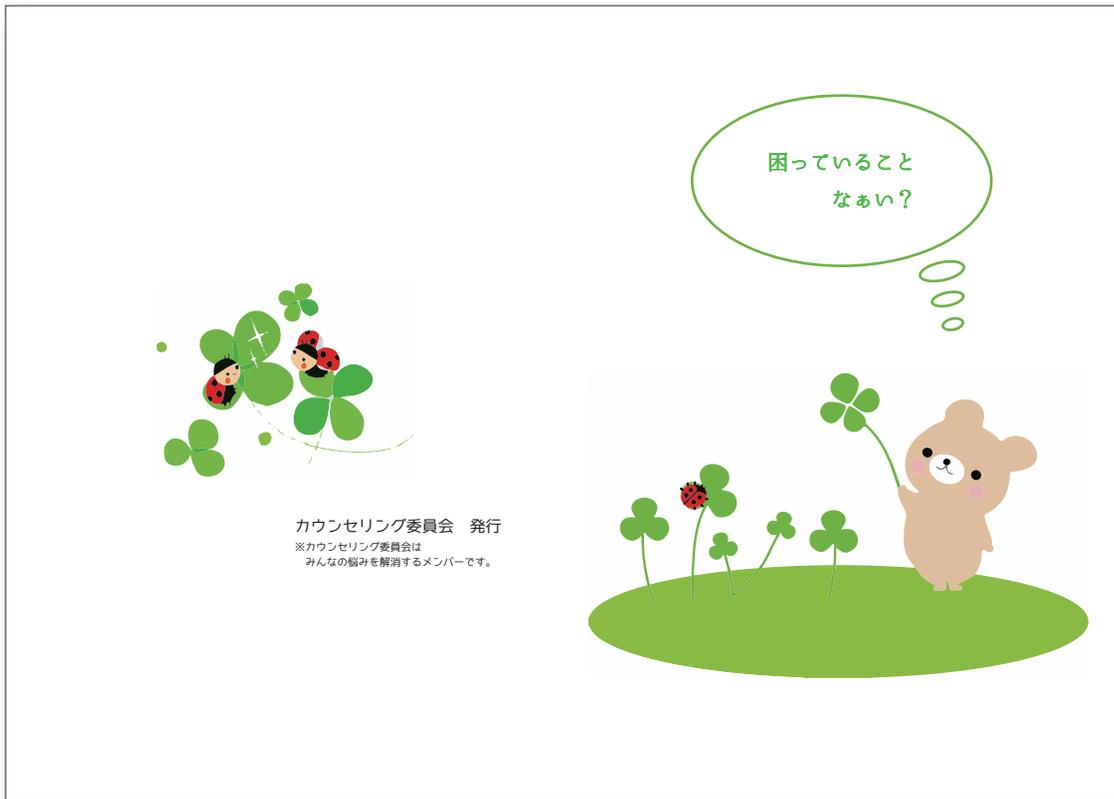
	科目	単位数		1年次				2年次				3年次				4年次				備考	
		必修	選択	前期		後期															
				必修	選択	必修	選択														
専門科目	臨床病態学					○			○												
	臨床医学各論	2						○													
	臨床検査医学	2							○												
	病態解析学特論		2															△			
	総合臨床検査学		4																		△
	形態検査学																				
	医動物学	1						○													
	病理検査学	2									○										
	病理検査学実習	2									○										
	血液検査学Ⅰ(疾患と検査)	2							○												
	血液検査学Ⅱ(機器とデータ解析)		1										△								
	血液検査学実習	2								○											
	細胞検査学	1											△								
	生殖医療概論	2																△			
	生物化学分析検査学																				
	臨床検査学基礎実習	1		○																	
	臨床検査総論	2				○															
	臨床検査総論実習	1					○														
	臨床化学Ⅰ(基礎)	2					○														
	臨床化学Ⅱ(臨床応用)	1							○												
	臨床化学実習	2									○										
	放射性同位元素検査学	2								○											
	微生物検査学	2						○													
	微生物検査学実習	2								○											
	免疫検査学	2								○											
	免疫検査学実習	1									○										
	輸血・移植検査学	2								○											
	輸血・移植検査学実習	1									○										
	遺伝子・染色体検査学		2									△									
	遺伝子・染色体検査学実習		1										△								
	救急救命法		1																		
	生理機能検査学Ⅰ(基礎)	2				○															
	生理機能検査学Ⅱ(臨床)	1					○														
	生理機能検査学実習	2								○											
	画像検査学	2						○													
	画像検査学実習	2								○											
	画像検査学特論		1																△		
	検査総合管理学																				
	検査管理総論	2						○													
	検査管理学演習	1									○										
検査管理学特論	2																○				
機器分析学	2																○				
総合臨床検査セミナー		4																		△	
医療安全管理学												○									
医療安全管理学演習	1																				
臨地実習			4										△								
臨地実習前総合演習																					
臨地実習	7												○								
卒業研究	卒業研究	4																		○	
小計		64	23	1	-	6	-	15	-	17	-	10	-	7	-	4	-	4	-	70単位以上	

必修科目64単位と
選択科目(△)から
6単位以上修得

単位数合計	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
	112	76	23	-	18	-	21	-	18	-	16	-	7	-	5	-	4	-	112	18以上

卒業要件単位数	130単位以上
---------	---------

表



裏

学生のみなさんへ

毎日の大学生活において、
(授業や実習、人間関係など)

悩んでいること、
困っていること、
何でも相談してみませんか。

学生支援課や保健室・キャリアセンターの
スタッフがお話を伺います。
状況によって、精神・心理の専門教員が
対応することもできます。

申込用紙はトイレや保健室前にあります。

相談したいときは

- ♡ 申込用紙に必要事項を記入し、
保健室前のポストに投函する、または電話にて
相談の申し込みをしてください。
- ☎ 保健室 088-840-1121 (内線 379)
学生支援課 088-840-1664
- ♡ 原則予約制ですので、希望日の2日前までに申し
込んでください。
- ♡ どこに、誰に、相談すれば良いのか戸惑った場合
でも気軽に申し込んでください。学生支援課を
訪ねても構いません。
- ♡ 来室しにくい時は家族や友人と一緒にでも結構です。

個人情報の保護について

- ♡ 相談に関する来室や、相談内容は固く守られま
す。安心して来室してください。

予約時間

- ♡ 月～金 9:00～16:00
但し、祝祭日、年末年始などの大学一斉休業日
を除きます。

申込書

表



裏

学科・専攻：生活科学学科・幼児保育学科・医療検査専攻・歯科衛生専攻・看護学科
応用生命科学専攻・地域看護学専攻

1年・2年・3年

氏名：

電話番号：

※日時の調整をして連絡をしますので、必ず電話番号は記入してくださいね。

希望日時：第1希望日 月 日（ ）： ～
第2希望日 月 日（ ）： ～

先に伝えておきたいことがあれば記入してください。



1 設置の趣旨等を記載した書類

資料7-1 文部科学省「木の学校づくりー木造3階建て校舎の手引ー」

2 出典

文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課

3

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/mokuzou/__icsFiles/afieldfile/2018/04/12/1369464_01.pdf

名称
位相差顕微鏡装置
実体顕微鏡
生物顕微鏡
顕微鏡テレビ装置一式
倒立型顕微鏡
オリンパス実習用顕微鏡
生物顕微鏡
顕微鏡
顕微鏡
食品模型
腎臓病食品交換模型
食品模型(フトモデル補充用)
人体トルソ模型
薬品戸棚
温蔵庫
薬品戸棚
食器戸棚
食器棚
食器戸棚
食器乾燥棚
殺菌線消毒保管庫
スチール書庫
調理実習台
保冷庫
食器消毒保管庫
殺菌線消毒保管庫
食器戸棚
ヤミ殺菌消毒庫
冷凍庫
三菱冷凍冷蔵庫
冷蔵庫
保管庫一式
冷凍冷蔵庫
冷凍ショーケース
壁面戸棚
器具殺菌庫
包丁・まな板殺菌庫
冷蔵庫
冷蔵庫470L
スライド扉冷蔵ショーケース
業務用冷蔵庫
冷凍冷蔵庫
業務用冷蔵庫
三菱冷蔵庫
学生用調理実習台
搾汁器
遠心沈澱器
アケ定温電気乾燥器
化学天秤
脂肪定量装置
純水装置
化学天秤
村上直示天秤
電子オープンNB6601
サーミスター温度計
分光光度計
電子オープン
オートクレーブ

名称
液晶プロジェクター
書画カメラ他情報機器一式
冷蔵庫
電気冷蔵庫
冷蔵庫
薬用冷蔵ショーケース
水切台
移動台
食器消毒保管庫
冷蔵庫
移動台
実習台
ガステーブル
水切台
移動台
調理台
実験台
大型パーソナル冷蔵庫
薬品保冷庫
冷蔵庫
日立 冷凍冷蔵庫
実習台
実験台ガス配管工事
実験流し台排水配管工事
実験台電気設備
ガスレンジ
表面温度計
ガスコンロ台
透視台
電気定温乾燥器
フリッカー値測定器
洗濯機
PHメーター
サーミスター温度計
粘度計
ガス炊飯器
糖度計
ロータリーエバポレーター
フリッカー値測定器
手織機
ディスプレイ
上皿天秤
カートリッジ純水装置
ヤマト薄層クロマトグラフィー
化学天秤
直示天秤
ガス自動式炊飯器
フライヤー
湯茶専用器
糖尿病食構成模型
塩分濃度計
日立高速冷却遠心機
アングルロータ
電気乾燥機
リンナイ自動炊飯器
直示分析天秤
自動蒸留水製造装置
角型重量式フラクションコレクター

名称
調理用3点式熱電温度計
純水装置
瞬間湯沸器
標準色票
インキュベーター
ラボサーモ
ホシロム分光光度計
直示天秤
ガス湯沸器
分光光度計
卓上遠心機
PHメーター
ケンウッドミキサー
日立ダブルビーム分光光度計
PHメーター
サーミスタ温度計
食塩濃度計
島津電子上皿天秤
ミハルス2ペリスホルプHP-1
マルチフォー等電点電気泳動装置
理研式微量水分計
ビスコテスタ
クロライドメーター
電子天秤
ハンドシーマー
サンヨー恒温乾燥器
全自動製氷機
水分活性測定器
電子上皿天秤
島津ロートセル式電子秤
塩分濃度計
サンプルシッパ(普及形)
ハイ熱風乾燥器
イワキPHメーター
リンナイ給湯器
全自動製氷機
水分活性測定器モデル5803
ヤガミ赤外線水分計
電磁波式塩分測定器
自動ハンド消毒器
ガス回転釜
CO2インキュベーター式
インテリシエントHPLCポンプ
メディカルフリーザー
ガス回転釜1式
ガス湯沸器1式
ミノルタα7700i
オートクレーブ
殺菌灯消毒器
ケンミックスアイコウ
蒸し器セット
クロマトグラフィーシステム一式
デジタル糖度計
デジタル塩分計
シングルビーム分光光度計
ヤエガキ式自動醗酵機
紫外可視分光光度計
エアロバイク、プリンター

名称
クリーニングチャンバー
イワキPHメーター
ステンレスワゴン
金研食塩濃度計
卓上野菜調理機
三菱スチームオープンレンジ
水圧式洗米器
トミ高圧滅菌器
低温循環恒温槽
島津フリッカー測定器
三菱衣類乾燥機
可視紫外測定装置
電気フライヤー
ガス回転釜
テイルティングパン
パンラック
コンベクションオープン
野菜調理機
水圧洗米器
ガス立体炊飯器
ガス遮断システム
サンプリングチューブ
PHメーター
積水パイオインピメーター
日立分光蛍光光度計
食器洗い乾燥器
コンパクト食器洗い乾燥器
三菱オープンレンジ
製氷機
殺菌灯消毒器
ミキサモジュール
純水製造装置
製氷機
電動ミートチョッパー一式
ソーセージフィーラー一式
ニチワ電機・電磁フライヤー
ライフコーダ
燻製機
PHメータF-51S
恒温振盪水槽
急速冷却機
食育SATシステム一式
真空包装機
スチームコンベクションオープン
キッチンエイドミキサー
砕氷機
食育SATシステム
真空包装機
食育SATシステム
超低温フリーザー
純水製造装置
分光光度計
製氷機
食器洗浄器
業務用電気オープン
冷温蔵配膳車

機械器具、標本及び模型

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分				設置場所		機器	メーカー	型式	台数
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物	階				
共通する機械器具	遠心機	6	○					化学系実習室	卓上小型遠心機	KUBOTA	2010	3	
								化学系実習室	卓上小型遠心機	KUBOTA	2420	1	
								形態系実習室	卓上遠心機	TONY	L006-SP	1	
								生体防汚系実習室	卓上小型遠心機	KUBOTA	2010	2	
								生体防汚系実習室	卓上小型遠心機	KUBOTA	2020	2	
								生体防汚系実習室	卓上遠心機	TONY	L006	1	
								生体防汚系実習室	卓上遠心機	KUBOTA	1720	1	
								ハイオ実験実習室	卓上遠心機	KUBOTA	KH-70	1	
								ハイオ実験実習室	遠心機	KUBOTA	1720	1	
								細胞培養室	テーブルトップ遠心機	KUBOTA	4000	2	
								P2実験室	卓上遠心機	KUBOTA	5200	1	
								化学系実習室	テーブルトップマイクログルチン遠心機	KUBOTA	5500	1	
								化学系実習室	テーブルトップマイクログルチン遠心機	KUBOTA	5922	1	
								形態系実習室	ユニバーサル冷却遠心機	KUBOTA	5922	1	
								生体防汚系実習室	ユニバーサル冷却遠心機	VISION	VS-15000CFN1	1	
								ハイオ実験実習室	マイクログルチン遠心機	KUBOTA	3740	1	
								化学系実習室	ノンフロン冷蔵庫	三菱	RW-CU33N-C	2	
								化学系実習室	バーノンナル冷蔵庫	ハナニック	NR-B144W	1	
								化学系実習室	薬用冷蔵ショーケース	PHC	MPR-313-PJ	1	
								形態系実習室	冷蔵冷蔵庫	SHARP	SJ-288	1	
								形態系実習室	薬用冷蔵ショーケース	PHC	MPR-313-PJ	1	
								生体防汚系実習室	冷蔵冷蔵庫	東芝	GR43B	1	
								生体防汚系実習室	冷蔵冷蔵庫	SHARP	S43R	1	
								生体防汚系実習室	冷蔵冷蔵庫	HITACHI	RZ5V	1	
生体防汚系実習室	冷蔵冷蔵庫	Mitsubishi	MR-V25M	1									
生体防汚系実習室	薬用冷蔵ショーケース	SANYO	MPR-312D	1									
生体防汚系実習室	薬用冷蔵ショーケース	SANYO	MPR-312D	1									
生体防汚系実習室	薬用冷蔵ショーケース	PHC	MPR-313-PJ	1									
ハイオ実験実習室	冷蔵冷蔵庫	HITACHI		1									
ハイオ実験実習室	冷蔵冷蔵庫	AUDA		1									
ハイオ実験実習室	冷蔵冷蔵庫	Mitsubishi	MR-VE37R	1									
細胞培養室	冷蔵冷蔵庫	SHARP	S4-47S	1									
化学系実習室	ハイオメディカルフリーザー	PHC	MPF-237	1									
化学系実習室	超低温フリーザー	PHC	MPF-28V1	1									
形態系実習室	低温槽	朝日ライフサイエンス	ALS-657F	1									
生体防汚系実習室	ハイオメディカルフリーザー	SANYO	MPF235	2									
生体防汚系実習室	超低温フリーザー	SANYO	MPF192	1									
生体防汚系実習室	超低温フリーザー	PHC	MPF-28V1	1									
生体防汚系実習室	超低温フリーザー	SANYO	MPF-28V-1	1									
洗浄室	ハイオメディカルフリーザー	SANYO	MPF235	1									

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分				設置場所		機器	メーカー	型式	台数
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物	階				
共通する機器設備器具	恒温装置	4	○					8	1	INCUBATOR	SANYO	MIR-152	1
					○			8	1	卓上型恒温装置	タイテック	パーソナル11・EMセット	1
								8	2	形態系実習室	ヤマト科学	10400	1
						○		8	2	形態系実習室	タイテック	パーソナル11・SDMセット	1
					8	3	生体防汚系実習室		YAMATO	BF500	1		
					8	3	生体防汚系実習室		タハイ	ESPEC	1		
				○	8	3	生体防汚系実習室		サーモフインジャー or PHC	10S100 or MIR-H263	1		
					8	3	細胞培養室		PHC	MOO-170A1COW-PJ	2		
				○	8	3	P2実験室		PHC	MOO-170A1COW-PJ	1		
			2	○	8	1	化学系実習室		AS ONE	DS-S、DS-4D	1		
					8	3	生体防汚系実習室		DALTON		1		
			1	○	8	1	化学系実習室		ミリポア	ELIX-3	1		
					8	2	形態系実習室			MS200	1		
					8	3	生体防汚系実習室			RF240WA	1		
					8	2	洗浄室			M111-Q Integral MT 3S/ハイオタイプ	1		
			4	○	8	1	化学系実習室			CA5481II	1		
					8	2	洗浄室			UT-55	1		
			1		2	4	生理系実習室			7612	1		
			適当数	○	8	2	形態系実習室				45		
					8	2	形態系実習室			HI02	30		
				8	3	細胞培養室				2			
				8	3	P2実験室				1			
		1	○	8	2	暗室				1			
		適当数		8	2	形態系実習室				10			
				8	2	形態系実習室				30			
				2	4	生理系実習室				8			
				2	4	生理系実習室				3			
		4	○	8	1	化学系実習室				1			
				8	1	化学系実習室				2			
				8	2	形態系実習室				2			
				8	3	生体防汚系実習室				1			
				8	3	生体防汚系実習室				1			
				8	3	生体防汚系実習室				1			
		適当数		8	1	化学系実習室				適当数			
				8	2	形態系実習室				適当数			
				8	3	生体防汚系実習室				適当数			
		4	○	8	1	化学系実習室				1			
				8	1	化学系実習室				5			
				8	2	形態系実習室				1			
				8	3	生体防汚系実習室				1			

共通する機器設備器具

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分			設置場所		機器	メーカー	型式	台数
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物				
失理工学機械器具	微量分注装置(マイクロピペット)	適当数	○				8	1	GILSON pipetman P200(1B)、P1000(3)、EXCELripette8000(可変式)(16)			適当数
	天びん(電子天びんも含む)	6	○				8	3	マイクrobeット	Nichiryo	00-MPP-2	10
			○				8	3	pipetman P10(2)、P20(2)、P200(1)、P1000(1)	GILSON		適当数
			○				8	1	分析精密電子天秤	METTLER TOLEDO	AG204	2
			○				8	1	電子天びん	SHIMADZU	TX223N	1
			○				8	1	分析天びん	ザルトリウス	ENTRIS241-IS	4
			○				8	2	電子天びん	A&D	FA-200	3
	フロンクエター(スライト、OHP、ビデオ方式を含む)	2	○				8	2	電子天びん	A&D	HF-300	3
			○				8	2	電子天びん	A&D	EK-6006	3
			○				8	2	分析天びん	ザルトリウス	ENTRIS241-IS	1
○						8	2	上皿天びん	ザルトリウス	ENTRIS2021-IS	1	
保健医療福祉と医学検査	ガス検知装置	1	○			2	4	自動ガス採取装置		ガステック)	1	
	乗塵計	1	○			2	4	ガス採取装置		キタガワ	7	
	騒音計	1	○			2	4	デジタル粉塵計		薬田科学	1	
	照度計	1	○			2	4	デジタル騒音計		AS ONE	1	
	水質検査装置	1	○			2	4	デジタル照度計		TENMARS	1	
	電気回路実験装置	1	○			2	4	溶存酸素計		AS ONE	1	
	医療検査	増幅電子実験装置	1	○			2	4	脈流安定化電源装置		A&D	2
		増幅電子実験装置	1	○			2	4	キットで測ぼう電子回路基礎編v.2		アドウィン	10
				○			2	4	デジタルオシロスコープ		テクシオ・テクノロジ	2
		医用増幅装置(ポリグラフも可)	1	○			2	4	キットで測ぼう電子回路オペアンプ入門		アドウィン	10
基礎医学	電気回路試験機器(テスト)	4	○			2	4	脚液計EEG-1714(日本光電)で代用			2	
			○			2	4	デジタルマルチメーター		テクシオ・テクノロジ	6	
	パーソナルコンピュータ	二人以上	○			5	4	デジタルマルチメーター		A&D	4	
			○			5	4	パーソナルコンピュータ		テクシオ・テクノロジ	57	
	双眼鏡	二人以上	○			8	2	顕微鏡保管室		OLYMPUS	CX23LED-L2	45
			○			8	2	顕微鏡保管室		OLYMPUS	CX21	5
			○			8	2	顕微鏡保管室		OLYMPUS	OH30	5
			○			8	2	顕微鏡保管室		OLYMPUS	CX23LED-L2	20
	形態検査	形態検査	○			8	2	顕微鏡保管室		OLYMPUS	CX23LED-L2	20
			○			8	2	形態観察室		OLYMPUS	CX31	1
形態検査	形態観察室	○			8	2	形態観察室		OLYMPUS	BG50	1	

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分				設置場所			機器	メーカー	型式	台数
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物	階	実習室				
生物化学 分子生物学 薬学	分光光度計	6	○					8	1	化学系実習室	紫外線可視分光光度計	SHIMADZU	UVmini	1
			○					8	1	化学系実習室	レンオビーム分光光度計	HITACHI	UI500	1
	酵素反応速度装置	1	○		○		8	1	化学系実習室	紫外可視分光光度計	SHIMADZU	UV-1280	4	
				○			8	1	化学系実習室	二波長分光光度計	HITACHI	200-20	1	
	電気泳動装置	4	○				8	1	化学系実習室	紫外可視分光光度計	SHIMADZU	UV-1280(恒溫補付)	4	
				○			8	1	化学系実習室	Mupid			10	
				○			8	3	生体防御系実習室	クロスハワー1000	AITO		1	
				○			8	3	生体防御系実習室	既存：1.電気泳動用パワーサブライ(EQ250-90)ライフサイエンスインターナショナルジャパン【新2】		ライフサイエンスインターナショナルジャパン	EQ250-90	1
	自動速度計(デンストメーター)	1	○				8	1	化学系実習室	Quick Scan デンストメーター	HELENA		1	
	血圧計	2	○		○		8	2	形態系実習室	アナロイド式(ノンレズ水銀)			3	
				○			8	2	形態系実習室	水銀レス血圧計	AS ONE	KLW-380 II (卓上型)(精カフ仕様)	15	
	聴診器	2	○				2	4	生理系実習室	痲痺予定			3	
				○			8	2	形態系実習室	マイスコナーシングステート	松 吉 医 科 学	MY-NS00108	6	
				○			2	4	生理系実習室	多項目自動血球計数装置	sysmex	XP-100	9	
	自動血球計数装置	1	○				8	2	形態系実習室	ヒルケルチュルル計数器	AS ONE	810020241	40	
	血球計算器具	適当数			○		8	2	形態系実習室	フックスローゼンタル計算器	AS ONE	8100210	30	
					○		8	2	形態系実習室	加藤一福式			35	
	凝縮計	1	○				8	2	形態系実習室	デイスベット			5	
	赤沈測定装置	1	○				8	2	形態系実習室	ヘマトクリット遠心機	KUBOTA	3100	4	
	ヘマトクリット用遠心機	2	○				8	2	形態系実習室	ヘマトクリット遠心機	KUBOTA	3220	1	
						○	2	形態系実習室	ヘマトクリット遠心機			2		
*血液ガス分析装置	1													
*ガスクロマトグラフ	1													
*特殊分光光度計(紫外、赤外等)	1													
*放射性同位元素計測装置	1													
*自動生化学分析装置	1	○				8	1	化学系実習室	クリニカルアナライザー	HITACHI	IM40	1		
*血液凝固機能検査装置	1				○	8	2	形態系実習室	半自動血液凝固測定装置	Systemx	CA-101	2		
*電解質測定装置(炎光光度計を含む)	1													
*血小板凝集測定装置	1													
遺伝子増幅用恒溫槽	1	○				8	1	化学系実習室	PCR Thermal Cycler	TAKARA	P-2000	1		
			○			8	3	生体防御系実習室	既存：1.リアルタイムPCR	BioRad	MJ Mini Opticon	1		
			○			8	3	バイオ実験実習室	PCR Thermal Cycler	TAKARA	TP2000	1		
				○		8	3	バイオ実験実習室	QuantStudio 3		QS3-96S-TIP	1		
核酸抽出装置	1		○			8	3	バイオ実験実習室	超微量分光光度計	サーモフィッシュャーサイエントیفイック	ND-ONE-W	1		
			○			8	3	バイオ実験実習室	ゲル撮影装置	日本ジエネテイクス	FAS-V	1		
*凍凍圧計	1					○	3	バイオ実験実習室	SeqStudio Genetic Analyzer	サーモフィッシュャーサイエントیفイック	SEQ-CP-D	1		

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分				設置場所		機器	メーカー	型式	台数	
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物	階					
病 院 生 体 防 御 検 査 学 専 門 分 野	高圧蒸気滅菌器	2	○					8	1	化学系実習室	ラボオートクレーブ	SANYO	MLS-2420	1
			○					8	2	形態系実習室	小型オートクレーブ	TOWY	SS240	1
			○					8	2	形態系実習室	オートクレーブ	湯山	YS-A-C107J	1
			○					8	3	形態系実習室	オートクレーブ	湯山	YS-A-C107J	1
			○					8	3	生体防御系実習室	オートクレーブ	湯山	YS-A-C107J	1
			○					8	3	生体防御系実習室	オートクレーブ	湯山	YS-A-C107J	1
			○					8	2	洗滌室	オートクレーブ	TOWY	LBS-325	1
			○					8	3	P2実験室	オートクレーブ	TOWY	LBS-325	1
		乾燥滅菌器	1	○				8	3	生体防御系実習室	乾燥器	東京理化器械	WF0-601SD	1
		煮沸消毒器	2	○				8	2	洗滌室	乾燥滅菌器	SANYO	MOV-112S	1
				○				8	1	化学系実習室	煮沸滅菌器	TRADE MARK	18-8	1
				○				8	1	化学系実習室	煮沸滅菌器	HNU JAPAN	18-8	1
		ふろ器	2	○				8	3	生体防御系実習室	ふろ器	MEIDA FUSA	E-3 6712	1
				○				8	3	生体防御系実習室	ふろ器	東研	16-100AD	1
				○				8	3	生体防御系実習室	ふろ器	NIPPON MED	AWL-180V	1
				○				8	3	生体防御系実習室	ふろ器	SANYO	DOC-1	2
		集落計算器	2	○				8	3	生体防御系実習室	Colony counter	井内盛栄堂		1
		嫌気性培養器	2	○				8	3	生体防御系実習室	タッパー			2
				○				8	3	生体防御系実習室	嫌気培養器	スキヤマガン	角型ジャー標準型	1
				○				8	3	生体防御系実習室	sterilcup and steriloop	Millipore		2
		細菌培養装置	1	○				8	3	生体防御系実習室	バイオハザード対策用キャビネット	PHC	MHE-S1301A2	2
				○				8	3	生体防御系実習室	バイオクリューベンチ	PHC	MOV-B131F	2
				○				8	3	細菌培養室	バイオクリューベンチ	PHC	MHE-S1301A2	1
				○				8	3	P2実験室	バイオハザード対策用キャビネット	AS ONE	POI-101C	1
	低温恒温器	1	○				8	3	生体防御系実習室	クーリングキューベータ	LSN	SLC-25A	1	
			○				8	3	生体防御系実習室	低温恒温器			1	
	血液型判定用加温観察箱	4	○						ハラフィン伸張器で代用					
	水平振とう器	4	○				8	1	化学系実習室	ROTARY SHAKER	TALVO	R-IImini	1	
			○				8	3	生体防御系実習室	KR-100A (PPRカード専用)	SANKO		1	
			○				8	3	生体防御系実習室	水平回転振とう機	KAYAGAKI WORKS		2	
			○				8	3	生体防御系実習室	中型振とう機	タイテック	MR-30	1	
			○				8	3	生体防御系実習室	小型恒温振とう培養機	タイテック	BR-23FP・MR	1	
	マイクロタイター一式	適当数	○				8	3	生体防御系実習室	ディスクディスプレイセンサー	白水	SN DISC「丸型」	2	
	*薬剤感受性測定装置	1	○				8	3	生体防御系実習室					
	*自動菌種同定装置	1	○				8	3	生体防御系実習室					
	マイクロプレート用リーダー	1	○				8	1	化学系実習室	RAINBOW THERMO	TECAN		1	
	マイクロプレート用ウォッシャー	1	○				8	3	生体防御系実習室	吸光マイクロプロプレートリーダー	サーモフィッシュヤーサイエントیفイック	Multiskan GO	1	
	*自動血球洗浄器	1	○				8	3	生体防御系実習室	high tech lab			4	
	*フローサイトメーター	1	○				8	3	生体防御系実習室	免疫血液学用流心機	KUBOTA	KA200	5	
			○				8	3	バイオ実験実習室	フローサイトメーター BD Accuri C6 Plus	日本BD	BD Accuri C6 Plus	1	

教育分野	品名	数量	既存	新規購入予定分				設置場所			機器	メーカー	型式	台数
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	建物	階	室				
生理機能検査学 専門分野	心電計	4	○					2	4	生理系実習室	日本光電工業	Cardiofax C	3	
			○					2	4	生理系実習室	フクダ電子	FO4731	1	
			○					2	4	生理系実習室	フクダ電子	FD44520	1	
	心電・心音・脈波計	1			○		2	4	生理系実習室	オムロンヘルスケア	BP-2038PEIII	1		
	脳波計	1	○				2	4	生理系実習室	日本光電工業	EE61218	1		
			○				2	4	生理系実習室	日本光電工業	EE61714	1		
			○				2	4	生理系実習室	日本光電工業	EE65514	1		
	超音波検査装置	2	○				2	4	生理系実習室	東芝(現 Canon)	Kar16100	1		
			○				2	4	生理系実習室	日立	EIB-6000	1		
			○				2	4	生理系実習室	日立	ECHOPAL II	2		
			○				2	4	生理系実習室	Canon	Kar16100	1		
	呼吸機能検査装置	2	○			○	2	4	生理系実習室	MICRO SPIRO	HI-201 H4	4		
					○		2	4	生理系実習室	電子スバイロメーター	HI-502	1		
						○	2	4	生理系実習室	オートスバイロメーター	S-21	1		
	* 筋電計	1	○				2	4	生理系実習室	筋電図・誘発電位検査装置	MEB-9402	1		
* 聴力検査装置	1	○				2	4	生理系実習室	オーディオメータ	YAGMI	1			
* 眼底写真撮影装置	1				○	2	4	生理系実習室	オーディオメータ	AA-77A	1			
* 誘発電位検査装置	1	○				2	4	生理系実習室	筋電図・誘発電位検査装置	MEB-9402	1			
* 熱画像検査装置	1	○				2	4	生理系実習室	誘発電位検査装置	MEB-5584	1			
* 核磁気共鳴画像検査装置	1													
* 眼振電図計加装置	1													
* 重心動揺計加装置	1													
* 経皮的血液ガス分圧測定装置	1													
病理組織学的標本及び機型	適当数			○		8	2	形態系実習室	ヒトの組織学~ラージセットI	日本3Bサイエンス	WI3409	1		
				○		8	2	形態系実習室	ヒトの組織学~ラージセットII	日本4Bサイエンス	WI3410	1		
				○		8	2	形態系実習室	ヒトの病理学~基本セット	日本5Bサイエンス	WI3411	1		
寄生虫・原虫・衛生動物の標本の機型	適当数					8	2	形態系実習室				適当数		
人体機型	1	○				8	2	形態系実習室	トルソ人体機型	坂本モデル	男性	1		
						8	2	形態系実習室	トルソ人体機型	坂本モデル	女性	1		
人体骨格機型	1	○				8	2	形態系実習室	スタンダード型骨格モデル	3Bサイエンス		1		
人体内蔵機型一式(鼻・口腔・咽喉部、下部消化管を含む)	1			○		2	4	生理系実習室	鼻腔・咽喉試心液採取モデル	京都科学	MM45	1		
				○		2	4	生理系実習室	鼻腔・咽喉試心液採取モデル	京都科学	MM45	1		
				○		2	4	生理系実習室	爪白細胞採取モデル	京都科学	MM46	1		
				○		2	4	生理系実習室	糞便採取モデル	京都科学	MM47	1		
採血静注機型(電動式・シミュレータ)	適当数			○		8	1	化学系実習室	採血・静注シミュレータ	京都科学	シンジョーII	5		
				○		8	1	化学系実習室	採血・静注シミュレータ	京都科学	シンジョーII	1		
その他						8	3	生体防御系実習室	脱水機	HOSHIZAKI		1		
その他						8	2	洗淨室	フレックアイスマーカー	HOSHIZAKI		1		

区分	開設前年度 (平成 31 年度)	第 1 年次 (平成 32 年度)	第 2 年次 (平成 33 年度)	第 3 年次 (平成 34 年度)	第 4 年次 (平成 35 年度)
一般図書	100	100	100	100	100
	人文科学系 (哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系 (社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系 (化学、生物学、物理学、数学等) 語学 (日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学				
専門図書	650	100	100	100	100
社会・環境健康	50	10	10	10	10
	公衆衛生学 <u>地域包括ケアシステム</u>	公衆衛生学 地域包括ケアシステム	<u>地域包括ケアシステム</u> 公衆衛生学	公衆衛生学 地域包括ケアシステム	公衆衛生学 地域包括ケアシステム
人体の構造	50	10	10	10	10
	生化学 人体の構造学 人体の機能学 疾病論 運動生理学	生化学 人体の機能学 疾病論 人体の構造学 運動生理学	運動生理学 生化学 人体の構造学 人体の機能学 疾病論	生化学 人体の構造学 人体の機能学 疾病論 運動生理学	生化学 人体の構造学 人体の機能学 疾病論 運動生理学
食べ物と健康	80	10	10	10	10
	食品学 食品衛生学 調理科学 食品加工学	食品学 食品衛生学 調理科学 食品加工学	食品加工学 食品衛生学 食品学 調理科学	食品学 食品衛生学 調理科学 食品加工学	食品学 食品衛生学 調理科学 食品加工学
基礎栄養学	80	10	10	10	10
	基礎栄養学	基礎栄養学	基礎栄養学	基礎栄養学	基礎栄養学
応用栄養学	80	10	10	10	10
	応用栄養学	応用栄養学	応用栄養学	応用栄養学	応用栄養学
栄養教育論	50	10	10	10	10
	栄養教育論	栄養教育論	栄養教育論	栄養教育論	栄養教育論
臨床栄養学	50	10	10	10	10
	臨床栄養学	臨床栄養学	臨床栄養学	臨床栄養学	臨床栄養学
公衆栄養学	80	10	10	10	10
	公衆栄養学	公衆栄養学	公衆栄養学	公衆栄養学	公衆栄養学
給食経営管理	80	10	10	10	10
	給食経営管理論	給食経営管理論	給食経営管理論	給食経営管理論	給食経営管理論

区分	開設前年度 (平成 31 年度)	第 1 年次 (平成 32 年度)	第 2 年次 (平成 33 年度)	第 3 年次 (平成 34 年度)	第 4 年次 (平成 35 年度)
臨地実習他	50	10	10	10	10
	臨地実習 管理栄養士国家試験 演習関連 栄養教諭 家庭科教諭 教職関連科目 教員試験問題等 論文の書き方	臨地実習 管理栄養士国家試験 演習関連 栄養教諭 家庭科教諭 教職関連科目 教員試験問題等 論文の書き方	臨地実習 管理栄養士国家試験 演習関連 栄養教諭 家庭科教諭 教職科目 教員試験問題等 論文の書き方	臨地実習 管理栄養士国家試験 演習関連 栄養教諭 家庭科教諭 教職科目 教員試験問題等 論文の書き方	論文の書き方 管理栄養士国家試験 演習関連 臨地実習 栄養教諭 家庭科教諭 教職科目 教員試験問題等
(うち外国図書)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
計	750	200	200	200	200

購読雑誌・文献検索データベース一覧(管理栄養士関係)

NO.	雑誌名	刊行頻度	備考
1	栄養学レビュー	年4回	継続受入中
2	栄養と料理	月刊	継続受入中
3	臨床栄養	月刊	継続受入中
4	食品衛生学雑誌	隔月刊	継続受入中
5	食育フォーラム	月刊	継続受入中
6	Nutrition Care	月刊	継続受入中
7	日本栄養士会雑誌	月刊	継続受入中
8	Foods & Food ingredients journal of Japan	季刊	継続受入中
9	PRACTICE	隔月刊	平成30年度より購読予定
10	いただきます ごちそうさま	季刊	平成30年度より購読予定
11	ヴェスタ	季刊	平成30年度より購読予定
12	うかたま	季刊	平成30年度より購読予定
13	ニューフードインダストリー (New Food Industry)	月刊	平成30年度より購読予定
14	ヘルスケア・レストラン	月刊	平成30年度より購読予定
15	栄養 Trends of Nutrition	季刊	平成30年度より購読予定
16	栄養経営エキスパート	隔月刊	平成30年度より購読予定
17	介護予防・健康づくり	年2回	平成30年度より購読予定
18	月刊食品と科学	月刊	平成30年度より購読予定
19	こどもの栄養	月刊	平成30年度より購読予定
20	食と健康	月刊	平成30年度より購読予定
21	食生活研究	隔月刊	平成30年度より購読予定
22	食品衛生研究	月刊	平成30年度より購読予定
23	糖尿病ケア	月刊	平成30年度より購読予定
24	保健の科学	月刊	平成30年度より購読予定
	Functional Food	年2回刊	メディカルオンラインで利用可能
	Medical Nutritionist of PEN Leaders	年2回刊	メディカルオンラインで利用可能
	学校給食	月刊	メディカルオンラインで利用可能

NO.	文献検索データベース	備考
1	医中誌Web	導入中
2	J-DreamⅢ	導入中
3	CiNii	導入中
4	MEDLINE with Full Text	平成31年より導入予定
5	メディカルオンライン	平成30年度新規導入予定

区分	開設前年度 (平成 31 年度)	第 1 年次 (平成 32 年度)	第 2 年次 (平成 33 年度)	第 3 年次 (平成 34 年度)	第 4 年次 (平成 35 年度)
一般図書	100	100	100	100	100
	人文科学系(哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系(社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系(化学、生物学、物理学、数学等) 語学(日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学	人文科学系(哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系(社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系(化学、生物学、物理学、数学等) 語学(日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学	人文科学系(哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系(社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系(化学、生物学、物理学、数学等) 語学(日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学	人文科学系(哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系(社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系(化学、生物学、物理学、数学等) 語学(日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学	人文科学系(哲学・倫理学・心理学・史学等) 社会科学系(社会学、経済学、社会福祉、法学、キャリア形成等) 自然科学系(化学、生物学、物理学、数学等) 語学(日本語、英語、中国語) 文学・教養 情報科学
専門図書	650	100	100	100	100
人体の構造と機能	40	10	10	10	10
	解剖学、生理学、生化学	細胞分子生物学 、解剖学、生理学、生化学	健康食品 、細胞分子生物学、解剖学、生理学、生化学	解剖学、生理学、生化学、細胞分子生物学、健康食品	解剖学、生理学、生化学、細胞分子生物学、健康食品
医学検査の基礎と疾病との関連	110	10	10	10	10
	病理学、微生物学、血液学 、遺伝学、免疫学	遺伝学、免疫学 、病理学、微生物学、血液学	薬理学、医学英語 、病理学、微生物学、血液学、遺伝学、免疫学	医学英語 、病理学、微生物学、血液学、遺伝学、免疫学、薬理学	病理学、微生物学、血液学、遺伝学、免疫学、薬理学、医学英語
保健医療福祉と医学検査	25	8	8	8	8
	医学概論、チーム医療 、公衆衛生学、栄養学	関係法規 、医学概論、公衆衛生学(医療統計学を含む)	医療統計学、地域医療 、医学概論、公衆衛生学(法規を含む)	栄養学 、医学概論、公衆衛生学(法規、医療統計学を含む)、地域医療	栄養学、医学概論、公衆衛生学(法規、医療統計学を含む)、地域医療
医療工学及び情報科学	25	7	7	7	7
	医療工学、医療情報学	医療情報学 、医療工学	医療工学、医療情報学	医療工学、医療情報学	医療工学、医療情報学
臨床病態学	50	10	10	10	10
	臨床医学総論 、臨床検査医学	臨床検査医学 、臨床医学総論	病態解析学 、臨床医学総論、臨床検査医学	病態解析学 、臨床医学総論、臨床検査医学	臨床医学総論、臨床検査医学、病態解析学
形態検査学	60	10	10	10	10
	医動物学、血液検査学 、病理検査学、細胞検査学、生殖医療	血液検査学 、医動物学、病理検査学、細胞検査学	細胞検査学 、医動物学、病理検査学、血液検査学	生殖医療 、医動物学、病理検査学、血液検査学、細胞検査学	医動物学、病理検査学、血液検査学、細胞検査学、生殖医療
医療安全管理学	40	5	5	5	5
	医療安全管理	医療安全管理	医療安全管理	医療安全管理	医療安全管理
病因・生体防御検査学	60	10	10	10	10
	微生物検査学、免疫検査学、輸血・移植検査学 、遺伝子・染色体検査学	遺伝子・染色体検査学 、微生物検査学、免疫検査学、輸血・移植検査学	免疫検査学 、微生物検査学、輸血・移植検査学、遺伝子・染色体検査学	微生物検査学、免疫検査学、輸血・移植検査学、遺伝子・染色体検査学	微生物検査学、免疫検査学、輸血・移植検査学、遺伝子・染色体検査学
生物化学分析検査学	140	10	10	10	10
	臨床検査総論 、 臨床化学 、放射性同位元素検査学	臨床化学 、 放射性同位元素検査学 、臨床検査総論	臨床化学 、臨床検査総論、放射性同位元素検査学	臨床検査総論、臨床化学、放射性同位元素検査学	臨床検査総論、臨床化学、放射性同位元素検査学

区分	開設前年度 (平成 31 年度)	第 1 年次 (平成 32 年度)	第 2 年次 (平成 33 年度)	第 3 年次 (平成 34 年度)	第 4 年次 (平成 35 年度)
検査総合管理学	40	5	5	5	5
	<u>検査管理学、機器分析学</u>	<u>検査管理学</u>	<u>機器分析学</u> 、検査管理学	検査管理学、機器分析学	検査管理学、機器分析学
生理機能検査学	40	10	10	10	10
	<u>生理機能検査学、画像検査学、救急救命法</u>	<u>生理機能検査学</u> 、画像検査学	<u>画像検査学</u> 、生理機能検査学	生理機能検査学、画像検査学、救急救命法	生理機能検査学、画像検査学、救急救命法
臨地実習 他	20	5	5	5	5
	<u>臨床検査技師臨地実習関連、臨床検査技師国家試験演習関連、論文の書き方</u>	<u>臨床検査技師臨地実習関連、論文の書き方</u> 、臨床検査技師国家試験演習関連	<u>臨床検査技師国家試験演習関連</u> 、臨床検査技師臨地実習関連	<u>臨床検査技師国家試験演習関連</u> 、臨床検査技師臨地実習関連、論文の書き方	<u>論文の書き方</u> 、臨床検査技師臨地実習関係、臨床検査技師国家試験演習関連
計	750	200	200	200	200

購読雑誌・文献検索データベース一覧(臨床検査技師関係)

NO.	雑誌名	刊行頻度	備考
1	Blood(冊子+オンライン)	週刊	継続受入中
2	医学検査	隔月刊	継続受入中
3	実験医学	月刊12+8冊	継続受入中
4	検査と技術	月刊12+1冊	継続受入中
5	厚生の指標	月刊12+4冊	継続受入中
6	Medical Technology	月刊12+1冊	継続受入中
7	medicina	月刊	継続受入中
8	日本臨床	月刊	継続受入中
9	臨床病理	月刊	継続受入中
10	臨床検査	月刊	継続受入中
11	生体の科学	年6回	継続受入中
12	Modern Media	月刊	継続受入中
13	日本検査血液学雑誌	季刊	継続受入中
14	臨床検査学教育	年3回	継続受入中
15	Nature	週刊	平成30年度より購読予定
16	病理と臨床	月刊	平成30年度より購読予定
17	医学のあゆみ	週刊	平成30年度より購読予定

NO.	文献検索データベース	備考
1	医中誌Web	導入中
2	J-DreamIII	導入中
3	CiNii	導入中
4	MEDLINE with Full Text	平成31年より導入予定
5	メディカルオンライン	平成30年度新規導入予定

高知県図書館協会規約

(名 称)

第1条 この会は、高知県図書館協会と称する。

(組 織)

第2条 この会は、県内の公共図書館、公民館図書室、大学図書館、学校図書館、企業体等特殊専門図書館、その他読書団体並びにこれらに関係のある機関及び個人（以下「会員」という。）をもって組織する。

(目 的)

第3条 この会は、会員相互の連携のもとに、図書館事業の進歩・発展を図り、県内文化の振興・向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 この会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 図書館相互及び関係機関、団体との連携並びに相互協力
- (2) 図書館事業の調査・研究の推進
- (3) 研究会・講習会・展覧会等の開催
- (4) 図書館資料や用品の選定及び推せん研究・紹介
- (5) 読書運動の推進及びその研究
- (6) 図書館等の設置及び経営の研究
- (7) 会員の研修・福利・厚生・表彰
- (8) その他必要と認める事業

(役 員)

第5条 この会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 理 事 11名
- (4) 監 事 2名

2 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。

(役員選出等)

第6条 理事は、次の割当基準により総会で選出する。

公共図書館（別表区分）	7名
公民館図書室	2名
大学図書館	1名
学校図書館協議会	1名
私立図書館	1名
企業体等特殊専門図書館、その他	1名

- 2 会長及び副会長は、理事の互選とし、総会で承認する。
- 3 監事は、総会で選出する。

(役員 の 職務)

第7条 会長は、この会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会務を審議する。
- 4 監事は、会計を監査する。

(会 議)

第8条 この会の会議は、総会と理事会とする。

(総 会)

第9条 総会は、会長が招集し、その議長を務める。

- 2 総会は、構成員の2分の1以上の出席で成立する。
- 3 議事の成立は、出席者の過半数の同意をもって決め、可否同数のときは、議長の決めるところによる。
- 4 定期総会は、毎年1回開催する。ただし、会長が必要と認めたとき、又は構成員の3分の1以上の要求があったときは、臨時総会を開催することができる。
- 5 総会の権限は、次のとおりとする。
 - (1) 事業計画の決定及び事業報告の承認
 - (2) 予算の決定及び決算の承認
 - (3) 規約の改正
 - (4) その他、この会の目的の達成に必要なかつ重要な事項

(理事会)

第10条 理事会は、会長・副会長及び理事をもって構成する。

- 2 理事会は、会長が必要と認めたとき、又は理事の3分の1以上の要求があったときは、会長が招集し、その議長を務める。
- 3 理事会は、次のことを審議する。
 - (1) 総会に提出する議案
 - (2) 総会から委任された事項
 - (3) その他必要な事項
- 4 前条第3項の規定は、理事会に準用する。

(部 会)

第11条 この会に必要な応じて部会を置くことができる。

- 2 部会の設置及び必要事項は、会長が別に定める。

(経 費)

第12条 この会の経費は、負担金・寄付金・その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第13条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第14条 この会の事務局を高知県立図書館内に置く。

- 2 事務局は、会長の命を受けて庶務及び会計を掌る。
- 3 事務局に、次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1名
- (2) 事務局次長 2名
- (3) 幹事 若干名

4 職員は、会長が委嘱する。

(施行細則等)

第15条 この規約に定めるもののほか、この会の運営に必要な細則等の制定及び改廃は、理事会の承認を経て、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、昭和41年7月5日から施行する。
- 2 この規約は、昭和60年6月26日から施行する。
- 3 この規約は、昭和62年4月1日から施行する。
- 4 この規約は、平成9年4月1日から施行する。
- 5 この規約は、平成17年6月22日から施行する。
- 6 この規約は、平成25年5月28日から施行する。
- 7 この規約は、平成29年6月9日から施行する。

(別表)

区 分	市 町 村 名 等	理事数	計
東部ブロック	東洋町、室戸市、田野町、安芸市、芸西村、香南市、香美市、南国市	2名	7名
中央ブロック	高知県立、高知市、土佐町、いの町、土佐市、日高村、佐川町、須崎市、越知町	3名	
西部ブロック	黒潮町、四万十市、四万十町、宿毛市、大月町、土佐清水市、津野町、梶原町	2名	

高知県図書館協会規約施行細則

(負担金)

第1条 高知県図書館協会規約第11条による経費の負担金は次のとおりとする。

県立図書館	年額	20,000円
高知市立市民図書館	年額	13,000円
市立図書館(高知市立市民図書館を除く。)	年額	10,000円
町村立図書館	年額	7,000円
公民館図書室	年額	4,000円
大学図書館	年額	10,000円
高知県学校図書館協議会	年額	10,000円
私立図書館、企業体等特殊専門図書館	年額	4,000円
読書団体並びにこれらに関係ある機関及び個人	年額	1,000円

附則

- 1 この施行細則は、昭和59年4月1日から施行する。
- 2 この施行細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 3 この施行細則は、平成9年6月19日改正し、平成9年4月1日から適用する。

○高知県図書館協会会員一覧 (H30. 4. 1 現在)

	種別	加入者名	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
1	公共図書館(県立)	高知県立図書館	780-0842	高知市湊手筋2丁目1-1	088-872-6307	088-872-6479
2	公共図書館(市立)	高知市立市民図書館	780-0842	高知市湊手筋2丁目1-1	088-823-9451	088-823-9362
3		室戸市立市民図書館	781-7102	室戸市室深2404-5	0887-22-0161	0887-22-0161
4		安芸市民図書館	784-0001	安芸市矢ノ丸3丁目12-29	0887-35-5638	0887-35-5638
5		香南市野市図書館	781-5232	香南市野市町西野994	0887-56-3434	0887-56-3435
6		香南市香良美図書館	781-6332	香南市香良美町王子2220-1	0887-55-0022	0887-55-5737
7		香美市立図書館	782-0031	香美市土佐山田町東本町2-1-20	0887-53-0301	0887-53-0307
8		南国市立図書館	793-0008	南国市福成1801-5	088-883-0469	088-883-0220
9		土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲2177	088-852-3333	088-852-3484
10		須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町6-15	0889-42-2141	0889-42-2141
11		四万十市立図書館	787-8301	四万十市中村大橋通4丁目10	0880-35-2923	0880-35-2980
12		宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央2丁目7-14	0880-63-2854	0880-63-0155
13		土佐清水市立市民図書館	787-0306	土佐清水市幸町4-13	0880-82-4151	0880-82-4180
14	公共図書館(町立)	東洋町立図書館	781-7301	安芸郡東洋町大字野根丙1795	0887-28-1874	0887-28-1874
15		田野町立図書館	781-6410	安芸郡田野町1458-42	0887-38-2511	0887-38-7000
16		土佐町立図書館	781-3321	土佐郡土佐町田井1488-1	0887-82-1800	0887-70-1317
17		いの町立図書館	781-2113	香川郡いの町元町41	088-850-4360	088-850-4382
18		佐川町立図書館	788-1202	高岡郡佐川町乙1882-1	0889-20-0202	0889-20-0202
19		越知町立本の森図書館	781-1301	高岡郡越知町越知甲1948-1	0889-26-2433	0889-26-2433
20		津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姥野々433-2	0889-55-3001	0889-55-3555
21		津野町立図書館池太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石2970番地	0889-52-3555	0889-62-3555
22		四万十町立図書館	785-0004	高岡郡四万十町茂津町9-20	0880-22-5000	0880-22-5001
23		黒潮町立佐美図書館	789-1120	幡多郡黒潮町佐美1080-1	0880-55-3150	0880-31-4010
24		黒潮町立大方図書館	789-1931	幡多郡黒潮町入野9931-3	0880-43-2110	0880-43-0222
25		大月町立図書館	788-0302	幡多郡大月町弘見2084	0880-73-0049	0880-73-0049
26	公共図書館(村立)	日高村立図書館	781-2153	高岡郡日高村本郷192	0889-20-1533	0889-39-1775
27		芸西村立図書館	781-5701	安芸郡芸西村和食甲1262	0887-33-2959	0887-32-2014
28	公民館図書室	安田町教育委員会	781-8423	安芸郡安田町大字西島40-2 (安田町文化センター)	0887-38-5711	0887-36-5745
29		原路村教育委員会	781-8201	安芸郡原路村馬路443 (馬路村読書改善センター)	0887-44-2216	0887-42-1910
30		本山町教育委員会	781-3801	高岡郡本山町本山589-1(本山町プラザセンター) 長瀬郡本山町本山906-3(本山さくら図書室)	0887-78-2084 0887-78-2113	0887-78-2078 0887-76-2267
31		仁淀川町教育委員会	781-1301	香川郡仁淀川町大橋480-1 (仁淀川町中央公民館)	0889-35-6019	0889-35-0010
32		中土佐町教育委員会 中土佐町教育委員会分室	789-1401 789-1301	高岡郡中土佐町大野尻吉野12 高岡郡中土佐町久礼6802-2	0889-57-2023 0889-52-2681	0889-57-2710 0889-52-2343
33	大学図書館	高知大学学情情報基盤図書館	780-8072	高知市曙町2丁目5-1	088-844-8731	088-844-8161
34		高知工科大学附属情報図書館	782-0003	香美市土佐山田町宮ノ口185	0887-57-2010	0887-57-2002
35		高知県立大学図書情報部	780-3515	高知市永国寺町2-22	088-821-7129	088-821-7130
36		高知学壇短期大学図書館	790-0453	高知市旭天神町292-28	088-860-0033	088-840-1124
37	学校図書協賛機関	高知県学校図書協賛委員会	780-0901	高知市上町2丁目1-11(高知市立第四小学校)	088-872-6488	088-872-6431

	類別	加入者名	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
38	私立図書館・企業体等特殊 専門図書館	認定NPO法人高知こどもの図書館	780-0844	高知市永園寺町6-13	088-820-8250	088-820-8251
39		高知森字図書館	780-0842	高知市浅手筋2丁目1-7	088-823-9488	088-820-3218
40		株式会社高知新聞社デジタル編集部	780-8572	高知市本町3-2-15	088-825-4333	088-873-3267
41		高知工業高等専門学校図書館	783-8508	南国市物部乙200-1	088-864-6608	088-864-5609
42		高知リハビリテーション学院図書館	781-1102	土佐市高岡町乙1139-3	088-850-2322	088-850-2328
43	読書団体並びにこれらに關 係する機関及び個人	高知県書店商業組合	780-0870	高知市本町4丁目1-46	088-873-3570	088-872-2141
44		児童図書館研究会高知支部	780-8019	高知市北竹島町23-1-224 高橋方		
45		図書館問題研究会高知支部	783-0011	南国市権原1801-5 南国市立図書館内		
46		学校図書館を考える会・高知	780-8085	高知市大谷公園町11-33 村田方		088-843-6890
47		高知市こども読書ボランティアの会 豆の木	780-0928	高知市越前町2-14-1 秋本方		088-873-5181

専門科目と

管理栄養士学校指定規則との対比表

教育課程（専門科目と管理栄養士学校指定規則の対比表）

区分	講義 又は 演習	実験 又は 実習	授業科目の名称	配当年 次	単位数（授業形態別）				備考	
					講義又は演習		実験又は実習			
					必修	選択	必修	選択		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	公衆衛生学Ⅰ（総論）	2前	2					
			公衆衛生学Ⅱ（各論）	2後	2					
			公衆衛生学実習	3前			1			
			地域包括ケアシステム論	3前	2					
			計		6	0	1	0		
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	14	10	生化学Ⅰ（機能）	1後	2				
				生化学Ⅱ（代謝）	1後	2				
				生化学実験	2前			1		
				人体の構造学	1後	2				
				人体の機能学	2前	2				
				人体の構造学実習	2前			1		
				人体の機能学実習	2後			1		
				疾病論Ⅰ（総論）	2前	2				
				疾病論Ⅱ（各論）	2後	2				
				運動生理学	3前	2				
運動生理学実習	3後			1						
計		14	0	4	0					
食べ物と健康	8	10	食品学Ⅰ（総論）	1前	2					
			食品学Ⅱ（各論）	1後	2					
			食品学実験	1後			1			
			食品衛生学	1後	2					
			食品衛生学実験	2前			1			
			食品加工学実習	3後			1			
			調理科学	1前	2					
			調理学実習Ⅰ（基礎）	1前			1			
調理学実習Ⅱ（応用）	1後			1						
計		8	0	5	0					
小計	28	10			28	0	10	0		
					28	0	10	0		

区分	講義 又は 演習	実験 又は 実習	授業科目の名称	配当年 次	単位数（授業形態別）				備考	
					講義又は演習		実験又は実習			
					必修	選択	必修	選択		
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学	1後	2					
			基礎栄養学実験	2前			1			
	計					2	0	1	0	
	応用栄養学	6	応用栄養学Ⅰ（栄養管理）	2前	2					
			応用栄養学Ⅱ（母性・成長期）	2前	2					
			応用栄養学Ⅲ（成人・高齢期）	2後	2					
			応用栄養学実習	2後			1			
	計					6	0	1	0	
	栄養教育論	6	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2後	2					
			栄養教育論Ⅱ（応用）	3前	2					
			栄養教育論Ⅲ（実践）	4前	2					
			栄養教育論実習	3前			1			
	計					6	0	1	0	
	臨床栄養学	8	臨床栄養学Ⅰ（総論）	2後	2					
臨床栄養学Ⅱ（管理・評価）			3前	2						
臨床栄養学Ⅲ（栄養食事療法）			3前	2						
臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）			3前			1				
臨床栄養学実習Ⅱ（応用）			3後			1				
病棟栄養管理学			3後	2						
口腔ケアと栄養管理			3後	1						
がんと栄養治療			3後	1						
計					10	0	2	0		
公衆栄養学	4	公衆栄養学Ⅰ（総論）	2後	2						
		公衆栄養学Ⅱ（各論）	3前	2						
		地域公衆栄養学実習	3後			1				
		計					4	0	1	0
給食経営管理論	4	給食経営管理論Ⅰ（総論）	2前	2						
		給食経営管理論Ⅱ（各論）	2後	2						
		給食経営管理実習Ⅰ（基礎）	3前			1				
		給食経営管理実習Ⅱ（応用）	3前			1				
計					4	0	2	0		
総合演習	2	臨地実習事前・事後指導	3通	1						
		管理栄養士総合演習	4後	2						
計					3	0	0	0		
臨地実習	-	4	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3前			1		「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」に「給食の運営（1単位）」を含む いづれか1単位選択必修	
			臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	3後			1			
			臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	3後			1			
			臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	3後			1			
			臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）	3後			1			
計					0	0	3	2		
小計	32	12			35	0	11	2		
合計	60	22			63	0	21	2		
					63		23			
					86					

指定規則外	導入科目		管理栄養士導入教育論	1後	1				
			健康栄養学	1後	1				
			チーム医療概論	1後	1				
			地域医療概論	4前		1			
			救急救命法	1後		1			
			医療リスクマネジメント	2前	1				
			医学英語演習	3前		1			
			医学英語特論	4前		1			
発展科目			卒業研究	4通		4			
合計					4	8	0	0	

合計			67	8	21	2	
			67		23		
			90				

健検™

日本健康マスター検定

第6回試験実施日

2019年
2月24日(日)

第7回試験実施日

2019年
6月16日(日)

※日程は、協会ホームページでご確認ください。



健康につよくなると、
未来につよくなる。

くわしくは **健康マスター**



<https://kenken.or.jp/>



一般社団法人

日本健康生活推進協会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10 西新橋エクセルビル 7階

TEL:03-6268-8447(平日10:00~16:30、土日祝除く)

「健検」(日本健康マスター検定)とは

人生100年時代。仕事にも生活にも、健康リテラシーがますます重要に。

「健検」は、健康に関する幅広い知識とその活用能力を高め、それを評価する検定です。2017年2月の第1回試験以来、すでに36,000名を超える受検者の申し込みがあり、21,000名以上の合格者「健康マスター」が誕生(第5回試験までの実績)。職場や地域、学域での活躍が期待されています。



用途、レベルに応じた2段階のコース

	ベーシック・コース	エキスパート・コース
目的	自らの健康づくりや、健康寿命をのばすのに必要な、生活習慣改善のための基本的な健康リテラシーを身につける。	自らの健康だけでなく、従業員や顧客、地域の生活者などに対しても、健康づくりや生活習慣改善のアドバイスをするための、一定レベルの健康リテラシーを身につける。
対象者	セルフケア(自身の健康づくり)への関心を持つ一般生活者、業務上の基本的な健康リテラシーを身につけたいビジネスパーソンなど。	ベーシック・コースの上級版として、コミュニティケア(他者や集団の健康づくり)に関わる方、健康リテラシーを仕事に活用したいビジネスパーソン、地域の健康推進を担うリーダーなど。
試験時間	60分	80分
合格基準	正答率75%以上	
	合格率の目安70~80%	合格率の目安50~60%
出題解答形式	四肢択一マークシート方式	
参考書	日本健康マスター検定公式テキスト増補改訂版	
受検料(税込)	5,000円	8,000円

エキスパート合格者は、【健康マスター・普及認定講師】の資格取得にチャレンジできます!

※2018年7月現在、約200名が取得。

教育課程と

臨床検査技師学校指定規則との対比表

指定規則の教育内容						別表（臨床検査技師課程）											計		
						基礎分野	専門基礎分野				専門分野								
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基礎	人間と生活	人体の構造と機能	その疾病との関連	医療現場と臨床検査	医療工学及び情報科学	臨床病態学	形態検査学	生物化学分析検査学	病因・生体防脚検査学	生理機能検査学	検査総合管理理学	医療安全管理理学	臨地実習
			必修	選択															
						14	8	5	4	4	6	9	11	10	9	7	1	7	95
専門科目	臨床病態学	臨床医学総論	1後	2	15							○							
		臨床医学各論	2前	2	15							○							
		臨床検査医学	2後	2	15							○							
		病態解析学特論	4前	2	30							○							
		総合臨床検査学	4後	4	30							○							
	形態検査学	医動物学	2前	1	30								○						
		病理検査学	3前	2	15								○						
		病理検査学実習	3前	2	45								○						
		血液検査学Ⅰ（疾患と検査）	2前	2	15								○						
		血液検査学Ⅱ（機器とデータ解析）	3前	1	30								○						
		血液検査学実習	2後	2	45								○						
	生物化学分析検査学	細胞検査学	3前	1	30								○						
		生殖医療概論	4前	2	15								○						
		臨床検査学基礎実習	1前	1	45									○					
		臨床検査総論	1後	2	15									○					
		臨床検査総論実習	2前	1	45									○					
		臨床化学Ⅰ（基礎）	2前	2	15									○					
		臨床化学Ⅱ（臨床応用）	2後	1	30									○					
	病因・生体防脚検査学	臨床化学実習	3前	2	45									○					
		放射性同位元素検査学	2後	2	15									○					
		微生物検査学	2前	2	15										○				
		微生物検査学実習	2後	2	45										○				
		免疫検査学	2後	2	15										○				
		免疫検査学実習	3前	1	45										○				
		輸血・移植検査学	2後	2	15										○				
		輸血・移植検査学実習	3前	1	45										○				
	生理機能検査学	遺伝子・染色体検査学	2後	2	15										○				
		遺伝子・染色体検査学実習	3前	1	45										○				
		救急救命法	1後集	1	30											○			
		生理機能検査学Ⅰ（基礎）	1後	2	15											○			
生理機能検査学Ⅱ（臨床）		2前	1	30											○				
生理機能検査学実習		2後	2	45											○				
検査総合管理理学	画像検査学	2前	2	15										○					
	画像検査学実習	2後	2	45										○					
	画像検査学特論	4前	1	30										○					
	検査管理総論	2前	2	15												○			
	検査管理理学演習	3前	1	30												○			
医療安全管理理学	検査管理理学特論	4前	2	15													○		
	機器分析学	4前	2	15													○		
臨地実習	総合臨床検査セミナー	4後	4	30														○	
	医療安全管理理学演習	3前	1	30														○	
	臨地実習前総合演習	3前	4	30														○	
卒業研究	臨地実習	3後	7	45														○	
	卒業研究	4通	4	30														○	
小計						0	0	0	0	0	6	9	11	10	9	7	1	7	
卒業要件単位数						28	32				70						130		
指定規則に対する増単位数						14	11				10						35		

健康食品管理士とは…

健康食品等の安全性、効果、医薬品との相互作用について一定のレベルの知識を有したものであり、消費者に対して健康食品等を適正に利用することとその被害から守ることに指導的役割を担える人材をいう。



日本食品安全協会とは

世間一般に発信されている健康食品や食の安全・安心情報に対する危機管理意識が高い全国の医学部、薬学部、保健衛生関係学部、栄養関係学部およびその他食品関係学部の教員で当協会は成り立ち、教育カリキュラムの中で学生に「健康食品を含めた食と健康および安全・安心」に関するリテラシー教育を行っている法人組織です。

日本食品安全協会の事業

当協会が行っている大きな事業の一つは、一定のカリキュラムを終了し、健康食品を含めた食情報とその安全・安心に関して一定レベル以上の能力があると判定された方に「健康食品管理士」の認定資格を付与し、更に認定された方のレベル維持のための生涯教育を、会誌の発行、研修会、e-ラーニング等で行っています。

健康食品管理士の資格の有用性

1万人を超えた健康食品管理士認定者は、「健康食品を含む食と健康」に関連した問題のエキスパートとして活躍しています。医師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士などの医療職者の場合、本資格の付加価値が高く評価されており、食品等の企業においても「食と健康」に関する情報の持ち主として高く評価されています。そのため多くの職場での就職試験の際に、この資格が有利に働いたという多くの報告を受けています。



一般社団法人 **日本食品安全協会**

(旧 健康食品管理士認定協会)

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学内 TEL : 059-381-1510 FAX : 059-381-1511 E-mail:info@jafsra.or.jp

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.jafsra.or.jp>

健康食品管理士になるまで、なってからの流れ

受験資格の有る方

受験資格者(1)~(7)	
(1)	認定校単位取得者
(2)	医師 歯科医師 獣医師
(3)	6年制薬剤師
(4)	BIO-Sフードサイエンス修了者 (大学生、大卒)
(5)	受験資格審査合格者(大学院卒業)
(6) 右記資格以上の学位記取得者	4年制薬剤師
	臨床検査技師
	管理栄養士
	栄養士
	保健師
	看護師
	鍼灸師
	理学療法士
	作業療法士
	食品衛生監視員
その他	

※その他に該当する方は審査で受験が可能になりますので
協会事務局にご連絡ください。

平成30年11月の健康食品管理士認定試験から
医療資格有資格者(予定者を含む)には免除科目が
設定されます。

受験資格の有る方

受講資格の無い方

日本食品安全協会 「食と健康の基礎講座」を受講
↓
受講資格確認試験受験(5月11日)合格

教育講座受講資格者(1)~(5)	
(1) 右記資格者	薬剤師
	臨床検査技師
	管理栄養士
	栄養士
	保健師
	看護師
	鍼灸師
	理学療法士
	作業療法士
	(2) 上記養成校3年生以上の学生
(3) 食品衛生監視員	
(4) 登録販売員(2年実務経験者)	
(5) 受講資格審査合格者(4年制大学卒業)	

教育講座受講修了者

教育講座は下記養成機関と日本食品安全協会で開催

※日本食品安全協会指定養成機関
株式会社エコロジーヘルスラボ <http://www.kenkoexport.com>

健康食品管理士認定試験(毎年5月、11月)

健康食品管理士認定試験合格後、健康食品管理士登録・認定

更新することで、健康食品管理士資格は維持される。

一定の知識が有ることを認められた会員は、上級健康食品管理士と認定される。

スキルアップシステム 2種類

基本情報の勉強システム

高度な情報の勉強システム

H30年度の認定試験案内

1日	時:平成30年5月27日(日)	2日	時:平成30年11月18日(日)
会場	北海道(北海道大学) 東京(東京医科歯科大学) 大阪(大阪大学) 松本(信州大学) 名古屋(名古屋大学) 岐阜(岐阜薬科大学) 鈴鹿(鈴鹿医療科学大学) 福岡(純真学園大学) その他	会場	北海道(北海道大学) 東京(東京医科歯科大学) 大阪(大阪大学) 名古屋(名古屋大学) 鈴鹿(鈴鹿医療科学大学) 福岡(純真学園大学) その他(全国数ヶ所)

費用: 15,000円

お問い合わせ先



一般社団法人

日本食品安全協会

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.jafsra.or.jp>

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学内

TEL:059-381-1510

FAX:059-381-1511 E-mail:info@jafsra.or.jp

平成30(2018)年度

第27回
中級バイオ技術者認定試験
第24回
上級バイオ技術者認定試験

受験要項・申込書

医療・医薬品、化粧品、食品、農業、環境、
化学工業など、私たちを取り巻く様々な分野で
活用が期待されるバイオ技術。
その知識や能力を認定するのが
「バイオ技術者認定試験」です。
バイオ業界で必須の資格を取得しましょう。

ネットで
出願!



試験日程

平成30年12月16日(日)
集合時間 10:00

試験時間(中級・上級とも)

午前の部 10:30~12:00(90分)
午後の部 13:00~14:30(90分)

試験会場

全国49会場

主催 NPO法人 日本バイオ技術教育学会

1 バイオ技術者認定試験とは

バイオ技術者認定試験は平成6(1994)年に始まった、日本で最も歴史の長いバイオ技術関連の資格試験です。バイオ技術は様々な分野での活用が期待されており、技術者として持つべき知識・技術を認定することを目的として認定試験制度がスタートしました。中級・上級試験は年1回12月に実施され、バイオ技術に関する知識の確認に役立つほか、取得した資格はバイオ技術関係の就職やキャリアアップに活用されています。これまでの受験者数等は以下の通りです。

	中級(第1回～第26回)	上級(第1回～第23回)
受験者数	44,691人	15,422人
合格者数	32,704人	7,905人
平均合格率	73.2%	51.3%

2 レベル・受験資格・試験科目

級	中級	上級
レベル	遺伝子工学技術や細胞工学技術などのバイオ技術分野の基盤となる生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学の知識を持ち、指導者の指示のもとでバイオ関連実験を適切かつ安全に実行しうる能力を認定します。	バイオ技術分野の基礎(核酸、タンパク質、機器等)から、応用(微生物バイオテクノロジー、動物バイオテクノロジー、植物バイオテクノロジー)に至る幅広い知識を持ち、バイオ関連実験を適切かつ安全に実行しうる能力を認定します。
受験資格	次のいずれか一つに当てはまる者 ①初級バイオ技術者認定試験に合格し認定証を取得した者。 ②大学、短期大学および専門学校のバイオ技術に関する課程を卒業した者、または2学年修了者および2学年修了見込みの者。 ③高等専門学校のバイオ技術に関する課程を卒業した者および卒業見込みの者。 ④その他、前項と同等以上であることを本学会が認めた者。	次のいずれか一つに当てはまる者 ①中級バイオ技術者認定試験に合格し認定証を取得した者。 ②大学のバイオ技術に関する課程の3年次修了見込みの者、卒業者または卒業見込みの者。 ③3年制以上の専門学校・短大のバイオ技術に関する課程の3年次修了見込みの者、卒業者または卒業見込みの者。
試験科目	午前 の部〔90分〕	基礎バイオテクノロジー ・核酸・タンパク質 30問 ・安全管理 10問 ・バイオ機器 10問
	午後 の部〔90分〕	応用バイオテクノロジー ・微生物バイオテクノロジー 20問 ・動物バイオテクノロジー 20問 ・植物バイオテクノロジー 20問



Healthcare Information Technologist

2018年度 第16回 医療情報技師 能力検定試験

試験日 2018年 8月26日(日)

●試験会場

北海道 宮城県 新潟県 東京都 石川県 愛知県 大阪府
岡山県 広島県 香川県 福岡県 鹿児島県 沖縄県

●受検資格 どなたでも受検できます

●受検科目 情報処理技術/医学・医療/医療情報システム

●検定料 詳細は下記Webサイトでご確認ください。

●申込方法 下記のWebサイトからお申し込みください。

<http://www.jami.jp/jadite/new/index.html>

【問い合わせ先】

一般社団法人 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17-17 井門本郷ビル2階
TEL:03-3811-4167 FAX:03-3811-4169
E-mail:hcit-office@umin.ac.jp

最新情報はホームページに掲載いたします



医療情報技師育成 到達目標 (2016年4月11日更新)

最近の情報通信技術 ICT の進歩ならびに、医療の情報化の進展は目覚ましく、医療情報技師に求められる知識・技能・資質は大きく変わりつつあります。そこで今回、新しい新到達目標を作成しました。今後、検定試験、教科書出版等につきましても、新しい到達目標に基づいて実施してまいります。

医療情報システム系：医療情報技師の役割と求められる基本能力・姿勢を身につけるために、医療情報の特性、取り扱い上の留意点を把握し、具体的な医療情報システムの内容、企画から稼働までの流れ、稼働後の維持管理の方法について理解する。さらに、医療情報を共有するための標準化について理解するとともに、医療情報分野の進むべき方向について考える能力を身につける。

- ①医療情報の特性と医療情報システム
- ②医療を支える情報システムの構成
- ③病院情報システムの機能
- ④病院情報システムの導入
- ⑤病院情報システムの運用
- ⑥システムの評価と改善
- ⑦医療情報の標準化
- ⑧医療情報技師の3Cを支えるスキル
- ⑨医療情報分野の将来

医学・医療系：医療情報技師の役割と求められる基本能力・姿勢を身につけるために、医学の役割と医療倫理をはじめとして、医療情報システム構築のために必要な医学医療の全体像とその概念、医療プロセス、診療記録など医療記録について理解する。さらに、医療情報を医学医療で活用するために不可欠な医学医療統計、臨床研究の概念について理解するとともに、医療情報分野の進むべき方向について考える能力を身につける。

- ①医学・医療総論
- ②社会保障と医療制度
- ③医療管理
- ④医療プロセス
- ⑤医学・薬学・看護学
- ⑥検査・診断
- ⑦治療・処置
- ⑧診療録及びその他の医療記録
- ⑨医学研究
- ⑩医学医療統計
- ⑪臨床データベースの構築

情報処理技術系：本系では、医療情報技師が、医療現場のニーズにあった医療情報システムを開発導入し、適切かつ効率的に運用・管理していくために必要な「情報処理技術」の知識および技能を示す。この中には、「情報処理技術」の基礎的な事項だけでなく、医療情報技師として求められる医療分野における応用的な事項も含まれている。なお、学習目標に関連した具体的な技術は日々進歩しているので、医療情報システムに活用できる新技術を学ぶことも必要である。

- ①情報の表現
- ②ハードウェア
- ③ソフトウェア
- ④データの種類と交換
- ⑤データベース技術
- ⑥ネットワーク技術
- ⑦情報セキュリティ
- ⑧情報システムの開発
- ⑨情報システムの運用と管理
- ⑩最新の情報技術と情報サービス

臨地実習施設一覧

科目名：臨地実習Ⅰ（給食の運営）

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	独立行政法人国立病院機構 高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町1丁目2番25号	4人	
2	国立大学法人高知大学 医学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮185-1	6人	
3	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〒781-8555 高知市池2125番地1	20人	
4	高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町3番33号	3人	
5	高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町2丁目13番51号	4人	
6	独立行政法人地域医療機能推進 機構高知西病院	〒780-8040 高知市神田317-12	4人	
7	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野526-1	4人	
8	社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋一丁目1番16号	8人	
9	社会医療法人仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37	2人	
10	社会医療法人仁生会 三愛病院	〒781-8136 高知市一宮西町1丁目7-25	2人	
11	医療法人創治 竹本病院	〒787-0015 四万十市右山1973番地2	4人	
12	医療法人長生会 大井田病院	〒788-0001 宿毛市中央8丁目3番6号	3人	
13	南国病院	〒783-0004 南国市大桶甲1479番地3	1～2人	
14	医療法人五月会 須崎くろしお病院	〒785-8501 須崎市緑町4番30号	2人	
15	医療法人武田会 高知鏡川病院	〒780-8037 高知市城山町270	2人	
16	高知県立幡多けんみん病院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈3-1	3人	
17	特別養護老人ホームあざみの里	〒781-0011 高知市薊野北町2丁目25番8号	1人	
18	社会福祉法人南海福社会 介護老人福祉施設グランボヌール	〒781-5101 高知市布師田字宮ノ辺1362	2人	

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
19	特別養護老人ホーム海の里	〒781-0112 高知市仁井田 1618 番地 18	1 人	
20	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザ洋寿荘	〒781-5704 安芸郡芸西村西分乙 297 番	2 人	
21	土佐市特別養護老人ホーム とさの里	〒781-1101 土佐市高岡町甲 1792 番地 2	2 人	
22	社会福祉法人黒潮福祉会 黒潮町特別養護老人ホーム かしま荘	〒789-1720 幡多郡黒潮町佐賀 3177	1 人	
23	社会福祉法人ふるさと会 特別養護老人ホーム森の里高知	〒781-0240 高知市横浜 20 番 1	2 人	
24	介護老人保健施設あいおい	〒780-0054 高知市相生町 1-35	3 人	
25	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザやまだ荘	〒782-0038 香美市土佐山田町秦山町 3 丁目 4 番 20 号	2 人	
26	特別養護老人ホーム 窪川荘	〒786-0032 高岡郡四万十町影野 640-2	1 人	
27	介護老人保健施設 とさやまだファミリア	〒782-0043 香美市土佐山田町 548	2 人	
28	特別養護老人ホームトキワ苑	〒781-3521 土佐郡土佐町田井 1377 番 29	2 人	
29	陸上自衛隊高知駐屯地	〒781-5495 香南市香我美町上分 3390	3 人	

合計 96 ～ 97 人

科目名：臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	独立行政法人国立病院機構 高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町1丁目2番25号	4人	
2	国立大学法人高知大学 医学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮185-1	6人	
3	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〒781-8555 高知市池2125番地1	20人	
4	高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町3番33号	3人	
5	高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町2丁目13番51号	4人	
6	独立行政法人地域医療機能推進 機構高知西病院	〒780-8040 高知市神田317-12	4人	
7	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野526-1	4人	
8	社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋一丁目1番16号	8人	
9	社会医療法人仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37	2人	
10	社会医療法人仁生会 三愛病院	〒781-8136 高知市一宮西町1丁目7-25	2人	
11	医療法人創治 竹本病院	〒787-0015 四万十市右山1973番地2	4人	
12	医療法人長生会 大井田病院	〒788-0001 宿毛市中央8丁目3番6号	3人	
13	南国病院	〒783-0004 南国市大桶甲1479番地3	1～2人	
14	医療法人五月会 須崎くろしお病院	〒785-8501 須崎市緑町4番30号	2人	
15	医療法人武田会 高知鏡川病院	〒780-8037 高知市城山町270	2人	
16	高知県立幡多けんみん病院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈3-1	3人	
17	特別養護老人ホームあざみの里	〒781-0011 高知市薊野北町2丁目25番8号	1人	
18	社会福祉法人南海福祉会 介護老人福祉施設グランボヌール	〒781-5101 高知市布師田字宮ノ辺1362	2人	

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
19	特別養護老人ホーム海の里	〒781-0112 高知市仁井田 1618 番地 18	1 人	
20	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザ洋寿荘	〒781-5704 安芸郡芸西村西分乙 297 番	2 人	
21	土佐市特別養護老人ホーム とさの里	〒781-1101 土佐市高岡町甲 1792 番地 2	2 人	
22	社会福祉法人黒潮福祉会 黒潮町特別養護老人ホーム かしま荘	〒789-1720 幡多郡黒潮町佐賀 3177	1 人	
23	社会福祉法人ふるさと会 特別養護老人ホーム森の里高知	〒781-0240 高知市横浜 20 番 1	2 人	
24	介護老人保健施設あいおい	〒780-0054 高知市相生町 1-35	3 人	
25	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザやまだ荘	〒782-0038 香美市土佐山田町秦山町 3 丁目 4 番 20 号	2 人	
26	特別養護老人ホーム 窪川荘	〒786-0032 高岡郡四万十町影野 640-2	1 人	
27	介護老人保健施設 とさやまだファミリア	〒782-0043 香美市土佐山田町 548	2 人	
28	特別養護老人ホームトキワ苑	〒781-3521 土佐郡土佐町田井 1377 番 29	2 人	
29	陸上自衛隊高知駐屯地	〒781-5495 香南市香我美町上分 3390	3 人	

合計 96 ～ 97 人

科目名：臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	独立行政法人国立病院機構 高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町1丁目2番25号	4人	
2	国立大学法人高知大学 医学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮185-1	6人	
3	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〒781-8555 高知市池2125番地1	20人	
4	高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町3番33号	3人	
5	高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町2丁目13番51号	4人	
6	独立行政法人地域医療機能推進 機構高知西病院	〒780-8040 高知市神田317-12	4人	
7	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野526-1	4人	
8	社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋一丁目1番16号	8人	
9	社会医療法人仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37	2人	
10	社会医療法人仁生会 三愛病院	〒781-8136 高知市一宮西町1丁目7-25	2人	
11	医療法人創治 竹本病院	〒787-0015 四万十市右山1973番地2	4人	
12	医療法人長生会 大井田病院	〒788-0001 宿毛市中央8丁目3番6号	3人	
13	南国病院	〒783-0004 南国市大桶甲1479番地3	1～2人	
14	医療法人五月会 須崎くろしお病院	〒785-8501 須崎市緑町4番30号	2人	
15	医療法人武田会 高知鏡川病院	〒780-8037 高知市城山町270	2人	
16	高知県立幡多けんみん病院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈3-1	3人	

合計 72～73人

臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）：選択科目

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	独立行政法人国立病院機構 高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町1丁目2番25号	4人	
2	国立大学法人高知大学 医学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮185-1	6人	
3	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〒781-8555 高知市池2125番地1	20人	
4	高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町3番33号	3人	
5	高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町2丁目13番51号	4人	
6	独立行政法人地域医療機能推進 機構高知西病院	〒780-8040 高知市神田317-12	4人	
7	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野526-1	4人	
8	社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋一丁目1番16号	8人	
9	社会医療法人仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37	2人	
10	社会医療法人仁生会 三愛病院	〒781-8136 高知市一宮西町1丁目7-25	2人	
11	医療法人創治 竹本病院	〒787-0015 四万十市右山1973番地2	4人	
12	医療法人長生会 大井田病院	〒788-0001 宿毛市中央8丁目3番6号	3人	
13	南国病院	〒783-0004 南国市大桶甲1479番地3	1～2人	
14	医療法人五月会 須崎くろしお病院	〒785-8501 須崎市緑町4番30号	2人	
15	医療法人武田会 高知鏡川病院	〒780-8037 高知市城山町270	2人	
16	高知県立幡多けんみん病院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈3-1	3人	

合計 72～73人

科目名：臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）：選択科目

No.	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	(管轄) 高知県健康政策部健康長寿 政策課 (実習施設) ・安芸福祉保健所 ・中央東福祉保健所 ・中央西福祉保健所 ・須崎福祉保健所 ・幡多福祉保健所	〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2-20	15人	
2	(管轄) 高知市保健所健康増進課 (実習施設) ・高知市保健所	〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番45 号	15人	

合計 30人

- ・臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）の希望学生が多い場合の対応

臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）の希望者が多い場合、卒業後に行政への就職を希望する学生を優先的に配分する。

資料10-2として健康科学部管理栄養学科臨地実習承諾書を添付した。

○年度

健康科学部管理栄養学科

臨地実習要項

高知学園大学 健康科学部管理栄養学科

学籍番号

氏名

目 次

1. 臨地実習の目的	2
2. 実習別の実習目的と実習目標	2
(1) 臨地実習Ⅰ（給食の運営）	2
1) 実習目的	2
2) 実習目標	2
(2) 臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	2
1) 実習目的	2
2) 実習目標	2
(3) 臨地実習Ⅲ・Ⅳ（臨床栄養学）	3
1) 実習目的	3
2) 実習目標	3
(4) 臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）	4
1) 実習目的	4
2) 実習目標	4
保健所	4
市町村保健センター等	4
3. 実習単位数	6
4. 実習評価	6
5. 実習専任教員	22
6. 実習施設	22
7. 実習日程	23
8. 実習心得	26
9. 緊急時連絡体制	28
10. 事故報告書	29
11. 個人情報に関する誓約書	30
12. 漏洩報告書	31
13. 実習施設一覧	32
14. 実習日誌記入上の注意	35
15. (例) 臨地実習日誌	36

1. 臨地実習の目的

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目的とする。

2. 実習別の実習目的と実習目標

(1) 臨地実習Ⅰ（給食の運営）

1) 実習目的

献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の給食運営業務に必要な知識と技術及び専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目的とする。

2) 実習目標

給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を修得する。給食運営における、管理栄養士の職務内容と責務について理解できる。

- ①施設における栄養部門業務全般について、基本的な事項を説明できる。
- ②献立の立案から配膳に至る一連の業務（全般または一部）ができる。
- ③フードサービスの視点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる
- ④実習施設における食事オーダー管理がどのような体制やシステムで運営されているかを説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。
- ⑤特に、医療機関では食種が多く、また、介護老人保健施設では嚥下食等食事形態の要望等特別に複雑な食事内容が要求される場合も少なくない。献立管理や調理作業上、どのように対応しているのかを説明できる（献立管理、食数管理、作業管理等）。
- ⑥適時・適温配膳において、どのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明でき、考察する（作業管理、温度管理、施設・備品管理等）。
- ⑦衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP等）。

(2) 臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）

1) 実習目的

給食の運営における食品の流通や、給食にかかわる組織などを総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行なう能力を養い、実践活動の場での課題発見、解決を通して、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

2) 実習目標

給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントについての専門的知識や技術の統合を図る。

- ①施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような経営ビジョンにより運営されているかを理解する（給食管理・栄養指導・臨床栄養管理、組織管理）。

- ②給食経営管理の知識や技術が、給食の現場においてどのように生かされているかを説明できる（マーケティング、経営管理）。
- ③個人の栄養アセスメントに基づいた、栄養管理を実施するにあたり、給食業務の合理化や標準化の観点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる（マーケティング、選択オーダー、業務分析等）。
- ④医療関連施設では、食事オーダー管理が特に複雑であることから、どのような体制やシステムで運営されているか説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。
- ⑤医療関連施設では食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される場合もある。給食運営のシステムとして、このようなニーズにどのように対処しているかを説明することができ、考察する（基本姿勢、業務体制・他部門との連絡調整）。
- ⑥適時・適温配膳においてどのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明することができ、考察する（作業管理、温度管理、施設・設備管理）。
- ⑦栄養指導や栄養管理業務を含め、栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを説明できる（組織・労務管理等）。
- ⑧衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP等）。
- ⑨嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等が検討できる。

(3) 臨地実習Ⅲ・Ⅳ（臨床栄養学）

1) 実習目的

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために、実際に業務を体験し、患者や利用者に対する各種計測による栄養評価・判定方法など、適切な栄養マネジメントを行うために必要な知識や技術を習得する。また、病棟、外来等での個人・集団の栄養食事指導技法の実際について学修し、チーム医療における管理栄養士の役割についても理解を深める。

病院管理栄養士の知識・技術・態度を修得する。具体的には、各種疾患について、カルテ閲覧・患者面接から情報を収集し、個別栄養管理の必要な患者のスクリーニング栄養アセスメント、栄養ケアの作成を学ぶ。また個人・集団栄養指導の実践を修得する。

2) 実習目標

臨床栄養に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。実際の管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。

カルテ閲覧を通して、必要な情報を収集できる能力を身に付ける。疾患別栄養指導の指導方法、報告書の作成ができる。各種チームにおける管理栄養士の役割を説明できる。症例を検討することができる。

- ①院内食事箋と疾患別栄養管理を説明できる。
- ②栄養補給方法について説明できる。

- ③外来・入院患者および入所者を対象とした栄養食事指導について説明できる。
- ④ベッドサイドへの訪問により、入院患者・入所者の栄養問題が実際に存在していることを把握する。
- ⑤栄養アセスメント、(ケア)カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明できる。
- ⑥チーム医療（NST、クリニカルパス等）の実際について説明できる。
- ⑦医療スタッフの一員として、患者・入所者へ関わることができる（対応やマナー等）。
- ⑧入院患者・入所者に対する個別対応（栄養・食事面から）の実際について説明することができる。
- ⑨栄養食事指導や栄養管理の報告書、並びに診療録（カルテ）の実際について説明することができる。
- ⑩ケーススタディ（事例研究法）の実際について説明できる。
- ⑪医療施設における栄養部門業務のあり方、実習施設の取り組みについて説明できる。

(4) 臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）

1) 実習目的

実践活動の場での課題発見、解決を通して、管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を高めるために、管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度および考え方の総合的に学修する。公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントと健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導の方法を修得する。

2) 実習目標

保健所や保健センターにおいて地域住民の健康・栄養改善のために実施されている栄養関連サービスの実際について理解し、事業を総合的にマネジメントできる力を身につける。

○保健所

- ①組織体制・管内の現状について説明できる。
- ②公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できる。
- ③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。
- ④健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明できる。
 - ・地域における実態把握、分析、課題の明確化
 - ・課題の解決に向け計画の立案・施策化
 - ・施策を評価するための目標設定・評価の実施
- ⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。
 - ・専門的な栄養指導、食生活支援
 - ・食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援
 - ・関係機関および団体（患者会等）との連携
- ⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。
 - ・特定給食施設における栄養管理状況の把握及び評価に基づく指導・支援

- ・ 飲食店によるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境の整備）
 - ・ 地域の栄養ケア等の拠点の整備
 - ・ 保健、医療、福祉及び介護領域における管理栄養士・栄養士の育成
 - ・ 健康危機管理体制の整備（市町村や関係機関等との調整・支援体制）
 - ・ 健康増進に資する食に関する多領域の施策との連携
- ⑦市町村との連絡調整及び栄養・食生活の改善のための技術的な支援について説明できる。

○市町村保健センター等

- ①組織体制・管内の現状について説明できる。
- ②公衆衛生行政の概要（市町村保健センターの役割）について説明できる。
- ③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。
- ④健康・栄養課題の明確化とP D C Aサイクルについて説明できる。
- ・ 地域における実態把握、分析、課題の明確化
 - ・ 課題の解決に向け計画の立案・施策化
 - ・ 施策を評価するための目標設定・評価の実施
- ⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防や社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。
- ・ 特定健診・特定保健指導、健康教室
 - ・ 次世代の健康（乳幼児健診、母子・学童・思春期への栄養教育・栄養指導）
 - ・ 高齢者の健康（健康増進、介護予防、訪問栄養指導・食生活支援）
 - ・ 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援
 - ・ 関係機関および団体（患者会等）との連携
- ⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。
- ・ 保健、医療、福祉及び介護領域における管理栄養士・栄養士の育成
 - ・ 食育推進のネットワークの構築（関係部局との調整、連携）
 - ・ 健康危機管理体制の整備（都道府県や関係機関等との調整・支援体制）
- ⑦保健所（都道府県）との連絡調整及び栄養・食生活の改善ための協働について説明できる。
- ⑧人材の育成と活用（地域活動栄養士の育成と活用）について説明できる。

3. 実習単位数

臨地実習Ⅰ（給食の運営）、臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）、臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）、臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）、臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）で4単位以上とする。（1単位45時間）

臨地実習Ⅰ （給食の運営）	臨地実習Ⅱ （給食経営管理論）	臨地実習Ⅲ （臨床栄養学）	臨地実習Ⅳ （臨床栄養学）	臨地実習Ⅴ （公衆栄養学）
1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
必修	必修	必修	選択必修	選択必修
○	○	○	○	
○	○	○		○

4. 実習評価

臨地実習の評価については、実習専任教員が、学生の実習ノート、書類の提出（20%）、課題への取り組み（30%）について評価し、実習施設指導者の評価（50%）を参考に総合して評価を行う。

臨地実習 I (給食の運営) ルーブリック (評価項目・評価基準)

[実習担当教員用]

学位授与方針	評価基準				点数
	観 点	3 (良好な到達レベル)	2 (必要な到達レベル)	1 (努力が必要)	
健康・栄養の意義を理解し専門的知識や技能を身に付けている	理解力	栄養部門における管理栄養士の職務内容と責務について説明できた。	内容について理解できているが、十分な説明ができなかった。	内容について理解できておらず、説明ができなかった。	
	技術	給食サービスに必要な技術について修得できた。	給食サービスに必要な技術についてアドバイスがあれば実施できた。	給食サービスに必要な技術についてアドバイスしても修得が困難であった。	
	知識	給食運営業務に必要な専門的知識と実習での体験を関連づけて修得できた。	給食運営業務に必要な専門的知識と臨地実習での体験を関連づけて理解できた。	給食運営業務に必要な専門的知識が修得できず、実習体験との関連づけも理解できなかった。	
総合的な学習経験と自らの成長過程を客観的に捉え、分析することができる	分析力	給食サービス提供に関する献立から給食の提供までの一連の業務に必要な知識及び技術を修得し、分析できた。	給食サービス提供に関する献立から給食の提供までの一連の業務に必要な知識をすべて理解できなかったが、知識または技術の不足に気づいた。	給食サービス提供に関する献立から給食の提供までの一連の業務に必要な知識を理解できず、分析できなかった。	
責任感と倫理感を有し専門的能力を活用できる	積極性	予習復習をして、意欲的な姿勢で臨み、自発的に質問や考えを述べ積極的に行動した。	予習復習をして、指導者の指示や意見を取り入れて行動できた。	予習復習が十分できず、質問や考えを述べ行動することができなかった。	
	責任感	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができた。	管理栄養士の役割と責任を理解できているが、実習生としての自覚を高める必要があった。	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができなかった。	
	規律	施設の規則や守秘義務を厳守できた。	施設の規則や守秘義務を厳守する自覚があった。	施設の規則や守秘義務を厳守できなかった。	
遅刻、欠席がなく15分前までに準備を整え実習に取り組んだ。		遅刻、欠席があるが、事前事後の報告はできている。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。		
実習生にふさわしい身だしなみであり、自覚のある行動がとれた。		実習生にふさわしい身だしなみであるが、行動面で自覚に乏しかった。	実習生にふさわしい身だしなみでなく、自覚のある行動がとれなかった。		
チーム医療等における連携・協働できる	コミュニケーション力	自ら対象者、職員に配慮して自ら声がけし、気持ちの良い挨拶や対応ができた。	対象者、職員への挨拶ができるが、声がけが消極的であった。	また指導者及びスタッフや対象者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。	
		必要な連絡・相談・報告ができる。	指示したことや質問には答えるが自らの発信が乏しい。	必要な連絡・相談・報告ができなかった。	
		適切な言葉遣いで良好な人間関係を築くことができた。	尊重した態度で、不明な点を質問できるが、自らの考えを表現する力が必要であった。	言動についてあまり気を付けることができなかった。	
評価レベル(36点満点) : A (28点以上)、 B (21点~27点)、 C (21点未満)					

臨地実習 I (給食の運営) 評価表

評価基準 3: 良好な到達レベル 2: 必要な到達レベル 1: 努力が必要

・給食サービス提供に関する技術の修得における評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
①施設における栄養部門業務全般について、基本的な事項を説明できる。	3	2	1
②献立の立案から配膳に至る一連の業務（全般または一部）ができる。	3	2	1
③フードサービスの視点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる	3	2	1
④実習施設における食事オーダー管理がどのような体制やシステムで運営されているかを説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。	3	2	1
⑤特に、医療機関では食種が多く、また、介護老人保健施設では嚥下食等食事形態の要望等特別に複雑な食事内容が要求される場合も少なくない。献立管理や調理作業上、どのように対応しているのかを説明できる（献立管理、食数管理、作業管理等）。	3	2	1
⑥適時・適温配膳において、どのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明でき、考察できる（作業管理、温度管理、施設・備品管理等）。	3	2	1
⑦衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP 等）。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	実習先の概要、管理栄養士の仕事、患者の食事等を調べ、聞きたいこと、分からないことを明確にして実習に臨んだ	実習先の概要について Web ページで確認したのみであった。	何の事前学習もせずに臨んだ。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動した。	指導者及びスタッフに聞かれたことには返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、スタッフに促されてから行動した。	指導者及びスタッフに聞かれても、返事や意思表示が曖昧で、指導者及びスタッフに促されてから行動した。
学びの振り返りまとめ	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめ、不明なことは自主学習をして、自己の課題を把握し、翌日の実習に役立てた。	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめた。	学びの振り返りとまとめは、その日に行わず、実習が終わってから行った。
挨拶言動	言動に気を付け、指導者及びスタッフや患者に配慮しながら、自ら声がけすることができ、かなり良好な人間関係を築くことができた。	言動に気を付け、指導者及びスタッフや患者から挨拶される前に、ほぼ挨拶することができた。	言動についてあまり気を付けることができなかった。また指導者及びスタッフや患者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。
身だしなみ	15分前までに準備が整い、常に実習中、相手に不快に思われないよう服装や身だしなみの確認をした。	毎朝、服装や髪型には気を付けた。	服装は気を付けたつもりだが、時間が足りず、身だしなみを整えることができなかった。
持ち物	数日前にリストを確認し、準備し、忘れ物がないよう努め、さらにリスト以外にも必要なものを考え、持参した。	前日にリストを確認し、忘れ物はなかった。	持参すべきものを忘れた日があった。
提出物	内容を十分に検討し、期日までに提出した。	期日に遅れて提出することがあった。	期日に提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席や遅刻をせず、体調管理を行い、活発に実習に取り組んだ。	体調不良でやむなく遅刻・欠席をしてしまったが、担当教員と指導者に、きちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

[実習施設指導者用]

臨地実習 I (給食の運営) 評価表

評価基準 3: 良好な到達レベル 2: 必要な到達レベル 1: 努力が必要

・給食サービス提供に関する技術の修得における評価指標

評価項目			
①施設における栄養部門業務全般について、基本的な事項を説明できる。	3	2	1
②献立の立案から配膳に至る一連の業務（全般または一部）ができる。	3	2	1
③フードサービスの視点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる	3	2	1
④実習施設における食事オーダー管理がどのような体制やシステムで運営されているかを説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。	3	2	1
⑤特に、医療機関では食種が多く、また、介護老人保健施設では嚥下食等食事形態の要望等特別に複雑な食事内容が要求される場合も少なくない。献立管理や調理作業上、どのように対応しているのかを説明できる（献立管理、食数管理、作業管理等）。	3	2	1
⑥適時・適温配膳において、どのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明でき、考察できる（作業管理、温度管理、施設・備品管理等）。	3	2	1
⑦衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP 等）。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	学内の授業の復習を行い、実習のポイントを把握していた。学びたいことを明らかにしていた。	学内の授業の復習を行っていた。	事前学習を行っていないか、不十分であった。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、指導者及びスタッフに促されてから行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し、返事や意思表示が曖昧であり、指導者及びスタッフから促されてから行動していた。
挨拶言動	服装や言動に気を付け、自分の方から声がけを行い、指導者及びスタッフや患者に配慮し、良好な人間関係を築こうとする姿勢が大いに感じられた。	服装や言動に気を付け、最低限の挨拶はしていた。	服装や言動について気になるところがあった。また、指導者及びスタッフや患者から先に挨拶をされる等、コミュニケーションをとることが苦手なようであった。
身だしなみ	服装や髪型等に気を付けていて、常に清潔感があった。	服装や髪型等に気を付けていた。	服装や髪型に気を配れない日があった。
持ち物	持参すべきものを忘れずに持参し、さらに自分で考え参考資料等を持参し、積極的に取り組んでいた。	持参すべきものは忘れずに持参していた。	持参すべきものを忘れた日があった。
提出物	内容がすぐれており、期日までに提出していた。	期日に遅れて提出することがあった。	期日に提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席も遅刻もせず、一日中、活発に実習に取り組んでいた。	体調不良、交通事故等で遅刻・欠席をしたが、指導者にきちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）ルーブリック（評価項目・評価基準）

〔実習担当教員用〕

学位授与方針	評価基準				点数
	観 点	3（良好な到達レベル）	2（必要な到達レベル）	1（努力が必要）	
健康・栄養の意義を理解し専門的知識や技能を身に付けている	理解力	施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような経営ビジョンにより運営されているかを説明できる。	内容について理解できているが、十分な説明ができなかった。	内容について理解できておらず、説明ができなかった。	
	技術	給食経営管理に必要な技術について修得できた。	給食経営管理に必要な技術についてアドバイスがあれば実施できた。	給食経営管理に必要な技術についてアドバイスしても修得が困難であった。	
	知識	給食経営管理に関する専門知識や技術と臨地実習での学びについて、理解し、実践に結びつけることができた。	給食経営管理に関する専門知識や技術と臨地実習での学びについて、結びつけることができた。	給食経営管理に関する専門知識や技術と臨地実習での学びをまったく結びつけることができなかった。	
総合的な学習経験と自らの成長過程を客観的に捉え、分析することができる	分析力	嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等が検討でき、改善点を見出すことができた。	嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等が検討できた。	嗜好調査や喫食量の調査等を実施したが、実習施設における栄養・食事の課題等の検討できなかった。	
責任感と倫理感を有し専門的能力を活用できる	積極性	予習復習をして、意欲的な姿勢で臨み、自発的に質問や考えを述べ積極的に行動した。	予習復習をして、指導者の指示や意見を取り入れて行動できた。	予習復習が十分できず、質問や考えを述べ行動することができなかった。	
	責任感	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができた。	管理栄養士の役割と責任を理解できているが、実習生としての自覚を高める必要があった。	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができなかった。	
	規律	施設の規則や守秘義務を厳守できた。 遅刻、欠席がなく15分前までに準備を整え実習に取り組んだ。 実習生にふさわしい身だしなみであり、自覚のある行動がとれた。	施設の規則や守秘義務を厳守する自覚があった。 遅刻、欠席があるが、事前事後の報告はできている。 実習生にふさわしい身だしなみであるが、行動面で自覚に乏しかった。	施設の規則や守秘義務を厳守できなかった。 遅刻または欠席をし、連絡を怠った。 実習生にふさわしい身だしなみでなく、自覚のある行動がとれなかった。	
チーム医療等における連携・協働できる	コミュニケーション力	自ら対象者、職員に配慮して自ら声がけし、気持ちの良い挨拶や対応ができた。	対象者、職員への挨拶ができるが、声がけが消極的であった。	また指導者及びスタッフや対象者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。	
		必要な連絡・相談・報告ができる。	指示したことや質問には答えるが自らの発信が乏しい。	必要な連絡・相談・報告ができなかった。	
		適切な言葉遣いで良好な人間関係を築くことができた。	尊重した態度で、不明な点を質問できるが、自らの考えを表現する力が必要であった。	言動についてあまり気を付けることができなかった。	
評価レベル(36点満点)： A (28点以上)、 B (21点～27点)、 C (21点未満)					

臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・給食経営管理に関する専門知識と技術の統合における評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
①施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような経営ビジョンにより運営されているかを理解する（給食管理・栄養指導・臨床栄養管理、組織管理）。	3	2	1
②給食経営管理の知識や技術が、給食の現場においてどのように生かされているかを説明できる（マーケティング、経営管理）。	3	2	1
③個人の栄養アセスメントに基づいた、栄養管理を実施するにあたり、給食業務の合理化や標準化の観点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる（マーケティング、選択オーダー、業務分析等）。	3	2	1
④医療関連施設では、食事オーダー管理が特に複雑であることから、どのような体制やシステムで運営されているかを説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。	3	2	1
⑤医療関連施設では食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される場合もある。給食運営のシステムとして、このようなニーズにどのように対処しているかを説明することができ、考察する（基本姿勢、業務体制・他部門との連絡調整）。	3	2	1
⑥適時・適温配膳においてどのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明することができ、考察できる（作業管理、温度管理、施設・設備管理）。	3	2	1
⑦栄養指導や栄養管理業務を含め、栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを説明できる（組織・労務管理等）。	3	2	1
⑧衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP等）。	3	2	1
⑨嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等が検討できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	実習先の概要、管理栄養士の仕事、患者の食事等を調べ、聞きたいこと、分からないことを明確にして実習に臨んだ	実習先の概要について Web ページで確認したのみであった。	何の事前学習もせずに臨んだ。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動した。	指導者及びスタッフに聞かれたことには返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、スタッフに促されてから行動した。	指導者及びスタッフに聞かれても、返事や意思表示が曖昧で、指導者及びスタッフに促されてから行動した。
学びの振り返りまとめ	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめ、不明なことは自主学習をして、自己の課題を把握し、翌日の実習に役立てた。	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめた。	学びの振り返りとまとめは、その日に行わず、実習が終わってから行った。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができた。	施設の規範やルールを理解していなかったが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけた。社会人として、常識的な行動ができなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	自発的に新たな課題を発見して、さまざまな手段により、問題解決を行うことができた。	自ら課題を発見できなかったが、与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができなかった。
協調性・協働性（ディスカッションへの参加等）	他の実習生と積極的に協議し、協力して課題を解決することができた。	スタッフに促されて、他の実習生と協力して課題を解決することができた。	他の実習生との協議には参加しなかった。協力して課題を解決しようとしなかった。
提出物	内容を十分に検討し、期日までに提出した。	期日に遅れて提出した。	提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席や遅刻をせず、体調管理を行い、活発に実習に取り組んだ。	体調不良でやむなく遅刻・欠席をしてしまったが、担当教員と指導者に、きちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

[実習施設指導者用]

臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・給食経営管理に関する専門知識と技術の統合における評価指標

評価項目			
①施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような経営ビジョンにより運営されているかを理解する（給食管理・栄養指導・臨床栄養管理、組織管理）。	3	2	1
②給食経営管理の知識や技術が、給食の現場においてどのように生かされているかを説明できる（マーケティング、経営管理）。	3	2	1
③個人の栄養アセスメントに基づいた、栄養管理を実施するにあたり、給食業務の合理化や標準化の観点からどのような工夫や技術が活用されているかを説明できる（マーケティング、選択オーダー、業務分析等）。	3	2	1
④医療関連施設では、食事オーダー管理が特に複雑であることから、どのような体制やシステムで運営されているかを説明できる（食数管理、食事オーダー管理）。	3	2	1
⑤医療関連施設では食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される場合もある。給食運営のシステムとして、このようなニーズにどのように対処しているかを説明することができ、考察する（基本姿勢、業務体制・他部門との連絡調整）。	3	2	1
⑥適時・適温配膳においてどのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを説明することができ、考察できる（作業管理、温度管理、施設・設備管理）。	3	2	1
⑦栄養指導や栄養管理業務を含め、栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを説明できる（組織・労務管理等）。	3	2	1
⑧衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から説明できる（衛生管理、危機管理、HACCP等）。	3	2	1
⑨嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等が検討できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	学内の授業の復習を行い、実習のポイントを把握していた。学びたいことを明らかにしていた。	学内の授業の復習を行っていた。	事前学習を行っていないか、不十分であった。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、指導者及びスタッフに促されてから行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し、返事や意思表示が曖昧であり、指導者及びスタッフから促されてから行動していた。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができていた。	施設の規範やルールを十分に理解していないが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけている。社会人として、常識的な行動ができていなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	新たな課題を発見し、知識と技術を活用しながら問題解決を行うことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていなかった。
協調性・協働性	他の実習生と積極的にディスカッションができ、協力して課題を解決していた。	スタッフに促されてから、他の実習生と協力して課題を解決していた。	他の実習生と協力して課題を解決しようとせず、ディスカッションに参加していなかった。
提出物	内容がすぐれており、期日までに提出していた。	期日に遅れて提出していた。	提出していなかった。
実習への取り組み状況	欠席も遅刻もせず、一日中、活発に実習に取り組んでいた。	体調不良、交通事故等で遅刻・欠席をしたが、指導者にきちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）ルーブリック（評価項目・評価基準）

〔実習担当教員用〕

学位授与方針	評価基準				点数
	観 点	3（良好な到達レベル）	2（必要な到達レベル）	1（努力が必要）	
健康・栄養の意義を理解し専門的知識や技能を身に付けている	理解力	院内食事箋と疾患別栄養管理を説明できた。	内容について理解できているが、十分な説明ができなかった。	内容について理解できておらず、説明ができなかった。	
	技術	栄養補給方法について説明できた。	栄養補給方法について説明が不十分なところがあった。	栄養補給方法について説明できなかった。	
	知識	臨床現場における栄養管理業務に必要な専門的知識と技術について、理解できた。	臨床現場における栄養管理業務に必要な専門的知識をすべて理解できなかったが、知識または技術の不足に気づいた。	臨床現場における栄養管理業務に必要な専門的知識と技術を理解できなかった。	
総合的な学習経験と自らの成長過程を客観的に捉え、分析することができる	分析力	ベッドサイドへの訪問により、入院患者・入所者の栄養問題が実際に存在していることを把握し、分析できた。	ベッドサイドへの訪問により、入院患者・入所者の栄養問題が実際に存在していることを把握できた。	ベッドサイドへの訪問により、入院患者・入所者の栄養問題が実際に存在していることを把握できなかった。	
責任感と倫理感を有し専門的能力を活用できる	積極性	予習復習をして、意欲的な姿勢で臨み、自発的に質問や考えを述べ積極的に行動した。	予習復習をして、指導者の指示や意見を取り入れて行動できた。	予習復習が十分できず、質問や考えを述べ行動することができなかった。	
	責任感	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができた。	管理栄養士の役割と責任を理解できているが、実習生としての自覚を高める必要があった。	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができなかった。	
	規律	施設の規則や守秘義務を厳守できた。 遅刻、欠席がなく15分前までに準備を整え実習に取り組んだ。 実習生にふさわしい身だしなみであり、自覚のある行動がとれた。	施設の規則や守秘義務を厳守する自覚があった。 遅刻、欠席があるが、事前事後の報告はできている。 実習生にふさわしい身だしなみであるが、行動面で自覚に乏しかった。	施設の規則や守秘義務を厳守できなかった。 遅刻または欠席をし、連絡を怠った。 実習生にふさわしい身だしなみでなく、自覚のある行動がとれなかった。	
チーム医療等における連携・協働できる	コミュニケーション力	自ら対象者、職員に配慮して自ら声がけし、気持ちの良い挨拶や対応ができた。	対象者、職員への挨拶ができるが、声がけが消極的であった。	また指導者及びスタッフや対象者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。	
		必要な連絡・相談・報告ができる。	指示したことや質問には答えるが自らの発信が乏しい。	必要な連絡・相談・報告ができなかった。	
		適切な言葉遣いで良好な人間関係を築くことができた。	尊重した態度で、不明な点を質問できるが、自らの考えを表現する力が必要であった。	言動についてあまり気を付けることができなかった。	
評価レベル(36点満点)： A (28点以上)、 B (21点～27点)、 C (21点未満)					

臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・臨床栄養学に関する専門的知識と技術の修得における評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
①チーム医療における関連職種、および管理栄養士の役割を説明できる。	3	2	1
②経口栄養、経管栄養、経静脈栄養（末梢補給，中心静脈補給）の適応症例、使用される代表的な栄養剤等に関する基本事項について説明できる。	3	2	1
③代表的な栄養・代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患について、その食事療法の基本事項をふまえたモデル献立を作成できる。（院内食事箋と疾患別栄養管理）	3	2	1
④術前・術後の栄養管理の意義等の基本事項を説明できる。	3	2	1
⑤入院患者・入所者に対する個別対応（栄養・食事面から）の実際について説明することができる。	3	2	1
⑥外来・入院患者および入所者を対象とした栄養食事指導について説明できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	実習先の概要、管理栄養士の仕事、患者の食事等を調べ、聞きたいこと、分からないことを明確にして実習に臨んだ。	実習先の概要についてWebページで確認したのみであった。	何の事前学習もせずに臨んだ。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動した。	指導者及びスタッフに聞かれたことには返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、スタッフに促されてから行動した。	指導者及びスタッフに聞かれても、返事や意思表示が曖昧で、指導者及びスタッフに促されてから行動した。
学びの振り返りまとめ	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめ、不明なことは自主学習をして、自己の課題を把握し、翌日の実習に役立てた。	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめた。	学びの振り返りとまとめは、その日に行わず、実習が終わってから行った。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができた。	施設の規範やルールを理解していなかったが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけた。社会人として、常識的な行動ができなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	自発的に新たな課題を発見して、さまざまな手段により、問題解決を行うことができた。	自ら課題を発見できなかったが、与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができなかった。
協調性・協働性（ディスカッションへの参加等）	他の実習生と積極的に協議し、協力して課題を解決することができた。	スタッフに促されて、他の実習生と協力して課題を解決することができた。	他の実習生との協議には参加しなかった。協力して課題を解決しようとしなかった。
提出物	内容を十分に検討し、期日までに提出した。	期日に遅れて提出した。	提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席や遅刻をせず、体調管理を行い、活発に実習に取り組んだ。	体調不良でやむなく遅刻・欠席をしてしまったが、担当教員と指導者に、きちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

[実習施設指導者用]

臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・臨床栄養学に関する専門的知識と技術の修得における評価

評価項目	評価		
	3	2	1
①チーム医療における関連職種、および管理栄養士の役割を説明できる。	3	2	1
②経口栄養、経管栄養、経静脈栄養（末梢補給，中心静脈補給）の適応症例、使用される代表的な栄養剤等に関する基本事項について説明できる。	3	2	1
③代表的な栄養・代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患について、その食事療法の基本事項をふまえたモデル献立を作成できる。（院内食事箋と疾患別栄養管理）	3	2	1
④術前・術後の栄養管理の意義等の基本事項を説明できる。	3	2	1
⑤入院患者・入所者に対する個別対応（栄養・食事面から）の実際について説明することができる。	3	2	1
⑥外来・入院患者および入所者を対象とした栄養食事指導について説明できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	学内の授業の復習を行い、実習のポイントを把握していた。学びたいことを明らかにしていた。	学内の授業の復習を行っていた。	事前学習を行っていないか、不十分であった。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、指導者及びスタッフに促されてから行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し、返事や意思表示が曖昧であり、指導者及びスタッフから促されてから行動していた。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができていた。	施設の規範やルールを十分に理解していないが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけている。社会人として、常識的な行動ができていなかった。
課題発見から問題解決への取り組み	新たな課題を発見し、知識と技術を活用しながら問題解決を行うことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていなかった。
協調性・協働性	他の実習生と積極的にディスカッションができ、協力して課題を解決していた。	スタッフに促されてから、他の実習生と協力して課題を解決していた。	他の実習生と協力して課題を解決しようとせず、ディスカッションに参加していなかった。
提出物	内容がすぐれており、期日までに提出していた。	期日に遅れて提出していた。	提出していなかった。
実習への取り組み状況	欠席も遅刻もせず、一日中、活発に実習に取り組んでいた。	体調不良、交通事故等で遅刻・欠席をしたが、指導者にきちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）ルーブリック（評価項目・評価基準）

〔実習担当教員用〕

学位授与方針	評価基準				点数
	観 点	3（良好な到達レベル）	2（必要な到達レベル）	1（努力が必要）	
健康・栄養の意義を理解し専門的知識や技能を身に付けている	理解力	チーム医療（NST、クリニカルパス等）の実際について説明できた。	内容について理解できているが、十分な説明ができなかった。	内容について理解できておらず、説明ができなかった。	
	技術	栄養アセスメント、（ケア）カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明できた。	栄養アセスメント、（ケア）カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明が不十分なところがあった。	栄養アセスメント、（ケア）カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明できなかった。	
	知識	実習前の臨床栄養学に関する専門知識や技術と臨地実習で経験したさまざまな体験を関連づけて理解でき、実践につなげることができた。	実習前の臨床栄養学に関する専門知識や技術と臨地実習で経験したことすべてを理解できなかったが、不足に気づいた。	実習前の臨床栄養学に関する専門知識や技術と臨地実習で経験したことを結びつけることができなかった。	
総合的な学習経験と自らの成長過程を客観的に捉え、分析することができる	分析力	自発的に新たな課題を発見して、さまざまな手段により、問題解決を行うことができた。	自ら課題を発見できなかったが、与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができなかった。	
責任感と倫理感を有し専門的能力を活用できる	積極性	予習復習をして、意欲的な姿勢で臨み、自発的に質問や考えを述べ積極的に行動した。	予習復習をして、指導者の指示や意見を取り入れて行動できた。	予習復習が十分できず、質問や考えを述べ行動することができなかった。	
	責任感	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができた。	管理栄養士の役割と責任を理解できているが、実習生としての自覚を高める必要があった。	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができなかった。	
	規律	施設の規則や守秘義務を厳守できた。 遅刻、欠席がなく15分前までに準備を整え実習に取り組んだ。 実習生にふさわしい身だしなみであり、自覚のある行動がとれた。	施設の規則や守秘義務を厳守する自覚があった。 遅刻、欠席があるが、事前事後の報告はできている。 実習生にふさわしい身だしなみであるが、行動面で自覚に乏しかった。	施設の規則や守秘義務を厳守できなかった。 遅刻または欠席をし、連絡を怠った。 実習生にふさわしい身だしなみでなく、自覚のある行動がとれなかった。	
チーム医療等における連携・協働できる	コミュニケーション力	自ら対象者、職員に配慮して自ら声がけし、気持ちの良い挨拶や対応ができた。	対象者、職員への挨拶ができるが、声がけが消極的であった。	また指導者及びスタッフや対象者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。	
		必要な連絡・相談・報告ができる。	指示したことや質問には答えるが自らの発信が乏しい。	必要な連絡・相談・報告ができなかった。	
		適切な言葉遣いで良好な人間関係を築くことができた。	尊重した態度で、不明な点を質問できるが、自らの考えを表現する力が必要であった。	言動についてあまり気を付けることができなかった。	
評価レベル(36点満点)： A (28点以上)、 B (21点～27点)、 C (21点未満)					

臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・臨床栄養学に関する専門知識と技術の統合における評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
①患者の栄養評価、栄養診断の特徴・意義を説明できる。	3	2	1
②ベッドサイドでの個別栄養管理について説明できる。	3	2	1
③栄養アセスメント、(ケア)カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明できる。	3	2	1
④チーム医療（NST、クリニカルパス等）の実際について説明できる。	3	2	1
⑤入院患者および外来患者の栄養指導データベースの作成、POSによる栄養指導記録の作成について、その基礎を理解し、診療録への記載について説明できる。	3	2	1
⑥ケーススタディ（事例研究法）の実際について説明できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	実習先の概要、管理栄養士の仕事、患者の食事等を調べ、聞きたいこと、分からないことを明確にして実習に臨んだ。	実習先の概要についてWebページで確認したのみであった。	何の事前学習もせずに臨んだ。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動した。	指導者及びスタッフに聞かれたことには返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、スタッフに促されてから行動した。	指導者及びスタッフに聞かれても、返事や意思表示が曖昧で、指導者及びスタッフに促されてから行動した。
学びの振り返りまとめ	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめ、不明なことは自主学習をして、自己の課題を把握し、翌日の実習に役立てた。	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめた。	学びの振り返りとまとめは、その日に行わず、実習が終わってから行った。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができた。	施設の規範やルールを理解していなかったが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけた。社会人として、常識的な行動ができなかった。
研究課題の設定	実習施設に適した課題が設定されていて、複数の情報を整理した上で、ふさわしい研究方法を用いた分析方法を示すことができた。知識と情報の整理ができた。	目的とテーマに沿った研究方法を用いて、分析方法を示すことができた。	課題が実習施設に適していなかった。研究課題設定に際し、適切な知識と情報の整理ができていなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	自発的に新たな課題を発見して、さまざまな手段により、問題解決を行うことができた。	自ら課題を発見できなかったが、与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができなかった。
協調性・協働性（ディスカッションへの参加等）	他の実習生と積極的に協議し、協力して課題を解決することができた。	スタッフに促されて、他の実習生と協力して課題を解決することができた。	他の実習生との協議には参加しなかった。協力して課題を解決しようとしなかった。
提出物	内容を十分に検討し、期日までに提出した。	期日に遅れて提出した。	提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席や遅刻をせず、体調管理を行い、活発に実習に取り組んだ。	体調不良でやむなく遅刻・欠席をしてしまったが、担当教員と指導者に、きちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

[実習施設指導者用]

臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・臨床栄養学に関する専門知識と技術の統合における評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
①患者の栄養評価、栄養診断の特徴・意義を説明できる。	3	2	1
②ベッドサイドでの個別栄養管理について説明できる。	3	2	1
③栄養アセスメント、(ケア)カンファレンス、栄養ケアプランの立案について説明できる。	3	2	1
④チーム医療（NST、クリニカルパス等）の実際について説明できる。	3	2	1
⑤入院患者および外来患者の栄養指導データベースの作成、POSによる栄養指導記録の作成について、その基礎を理解し、診療録への記載について説明できる。	3	2	1
⑥ケーススタディ（事例研究法）の実際について説明できる。	3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	学内の授業の復習を行い、実習のポイントを把握していた。学びたいことを明らかにしていた。	学内の授業の復習を行っていた。	事前学習を行っていないか、不十分であった。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、指導者及びスタッフに促されてから行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し、返事や意思表示が曖昧であり、指導者及びスタッフから促されてから行動していた。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができていた。	施設の規範やルールを十分に理解していないが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけている。社会人として、常識的な行動ができていなかった。
研究課題の設定	実習施設に適した課題が設定されていて、複数の情報を整理した上で、ふさわしい研究方法を用いた分析方法を示すことができた。知識と情報の整理ができた。	目的とテーマに沿った研究方法を用いて、分析方法を示すことができた。	課題が実習施設に適していなかった。研究課題設定に際し、適切な知識と情報の整理ができていなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	新たな課題を発見し、知識と技術を活用しながら問題解決を行うことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていなかった。
協調性・協働性	他の実習生と積極的にディスカッションができ、協力して課題を解決していた。	スタッフに促されてから、他の実習生と協力して課題を解決していた。	他の実習生と協力して課題を解決しようとせず、ディスカッションに参加していなかった。
提出物	内容がすぐれており、期日までに提出していた。	期日に遅れて提出していた。	提出していなかった。
実習への取り組み状況	欠席も遅刻もせず、一日中、活発に実習に取り組んでいた。	体調不良、交通事故等で遅刻・欠席をしたが、指導者にきちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）ルーブリック（評価項目・評価基準）

〔実習担当教員用〕

学位授与方針	評価基準				点数
	観 点	3（良好な到達レベル）	2（必要な到達レベル）	1（努力が必要）	
健康・栄養の意義を理解し専門的知識や技能を身に付けている	理解力	公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できた。	内容について理解できているが、十分な説明ができなかった。	内容について理解できておらず、説明ができなかった。	
	技術	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明できた。	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明が不十分なところがあった。	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明できなかった。	
	知識	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できた。	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明が不十分なところがあった。	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できなかった。	
総合的な学習経験と自らの成長過程を客観的に捉え、分析することができる	分析力	実習施設に適した課題が設定されていて、複数の情報を整理した上で、ふさわしい研究方法を用いた分析方法を示すことができた。知識と情報の整理ができた。	目的とテーマに沿った研究方法を用いて、分析方法を示すことができた。	課題が実習施設に適していなかった。研究課題設定に際し、適切な知識と情報の整理ができていなかった。	
責任感と倫理感を有し専門的能力を活用できる	積極性	予習復習をして、意欲的な姿勢で臨み、自発的に質問や考えを述べ積極的に行動した。	予習復習をして、指導者の指示や意見を取り入れて行動できた。	予習復習が十分できず、質問や考えを述べ行動することができなかった。	
	責任感	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができた。	管理栄養士の役割と責任を理解できているが、実習生としての自覚を高める必要があった。	管理栄養士の役割と責任を理解し、実習生として自覚した行動ができなかった。	
	規律	施設の規則や守秘義務を厳守できた。	施設の規則や守秘義務を厳守する自覚があった。	施設の規則や守秘義務を厳守できなかった。	
		遅刻、欠席がなく15分前までに準備を整え実習に取り組んだ。	遅刻、欠席があるが、事前事後の報告はできている。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。	
		実習生にふさわしい身だしなみであり、自覚のある行動がとれた。	実習生にふさわしい身だしなみであるが、行動面で自覚に乏しかった。	実習生にふさわしい身だしなみでなく、自覚のある行動がとれなかった。	
チーム医療等における連携・協働できる	コミュニケーション力	自ら対象者、職員に配慮して自ら声がけし、気持ちの良い挨拶や対応ができた。	対象者、職員への挨拶ができるが、声がけが消極的であった。	また指導者及びスタッフや対象者から先に挨拶される等、あまり自分から挨拶をすることができなかった。	
		必要な連絡・相談・報告ができる。	指示したことや質問には答えるが自らの発信が乏しい。	必要な連絡・相談・報告ができなかった。	
		適切な言葉遣いで良好な人間関係を築くことができた。	尊重した態度で、不明な点を質問できるが、自らの考えを表現する力が必要であった。	言動についてあまり気を付けることができなかった。	
評価レベル(36点満点)： A (28点以上)、 B (21点～27点)、 C (21点未満)					

臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・公衆栄養学に関する専門知識と技術の統合における評価指標

	評価項目	評価		
	保健所	①組織体制・管内の現状について説明できる。	3	2
②公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できる。		3	2	1
③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。		3	2	1
④健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明できる。		3	2	1
⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。		3	2	1
⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。		3	2	1
⑦市町村との連絡調整及び栄養・食生活の改善のための技術的な支援について説明できる。		3	2	1
	評価項目	評価		
	市町村保健センター等	①組織体制・管内の現状について説明できる。	3	2
②公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できる。		3	2	1
③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。		3	2	1
④健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルについて説明できる。		3	2	1
⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。		3	2	1
⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。		3	2	1
⑦保健所（都道府県）との連絡調整及び栄養・食生活改善のための協働について説明できる。		3	2	1
⑧人材の育成と活用（地域活動栄養士の育成と活用）について説明できる。		3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	実習先の概要、管理栄養士の仕事、患者の食事等を調べ、聞きたいこと、分からないことを明確にして実習に臨んだ。	実習先の概要についてWebページで確認したのみであった。	何の事前学習もせずに臨んだ。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動した。	指導者及びスタッフに聞かれたことには返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、スタッフに促されてから行動した。	指導者及びスタッフに聞かれても、返事や意思表示が曖昧で、指導者及びスタッフに促されてから行動した。
学びの振り返りまとめ	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめ、不明なことは自主学習をして、自己の課題を把握し、翌日の実習に役立てた。	帰宅後、すぐにその日の学びを振り返り、内容をまとめた。	学びの振り返りとまとめは、その日に行わず、実習が終わってから行った。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができた。	施設の規範やルールを理解していなかったが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけた。社会人として、常識的な行動ができなかった。
研究課題の設定	実習施設に適した課題が設定されていて、複数の情報を整理した上で、ふさわしい研究方法を用いた分析方法を示すことができた。知識と情報の整理ができた。	目的とテーマに沿った研究方法を用いて、分析方法を示すことができた。	課題が実習施設に適していなかった。研究課題設定に際し、適切な知識と情報の整理ができていなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	自発的に新たな課題を発見して、さまざまな手段により、問題解決を行うことができた。	自ら課題を発見できなかったが、与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができなかった。
協調性・協働性（ディスカッションへの参加等）	他の実習生と積極的に協議し、協力して課題を解決することができた。	スタッフに促されて、他の実習生と協力して課題を解決することができた。	他の実習生との協議には参加しなかった。協力して課題を解決しようとしなかった。
提出物	内容を十分に検討し、期日までに提出した。	期日に遅れて提出した。	提出できなかった。
実習への取り組み状況	欠席や遅刻をせず、体調管理を行い、活発に実習に取り組んだ。	体調不良でやむなく遅刻・欠席をしてしまったが、担当教員と指導者に、きちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

[実習施設指導者用]

臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）評価表

評価基準 3：良好な到達レベル 2：必要な到達レベル 1：努力が必要

・公衆栄養学に関する専門知識と技術の統合における評価指標

	評価項目		評価		
	保健所	①組織体制・管内の現状について説明できる。		3	2
②公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できる。			3	2	1
③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。			3	2	1
④健康・栄養課題の明確化とPDC Aサイクルについて説明できる。			3	2	1
⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。			3	2	1
⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。			3	2	1
⑦市町村との連絡調整及び栄養・食生活の改善のための技術的な支援について説明できる。			3	2	1
市町村保健センター等	項目		評価		
	①組織体制・管内の現状について説明できる。		3	2	1
	②公衆衛生行政の概要（保健所の役割）について説明できる。		3	2	1
	③管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）について説明できる。		3	2	1
	④健康・栄養課題の明確化とPDC Aサイクルについて説明できる。		3	2	1
	⑤生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上について説明できる。		3	2	1
	⑥食を通じた社会環境の整備について説明できる。		3	2	1
	⑦保健所（都道府県）との連絡調整及び栄養・食生活改善のための協働について説明できる。		3	2	1
	⑧人材の育成と活用（地域活動栄養士の育成と活用）について説明できる。		3	2	1

・実習の取り組みにおける評価指標

評価項目	評価		
	3	2	1
事前学習	学内の授業の復習を行い、実習のポイントを把握していた。学びたいことを明らかにしていた。	学内の授業の復習を行っていた。	事前学習を行っていないか、不十分であった。
学ぶ姿勢	促されなくとも、躊躇せず、自発的に反応を示し、質問や考えを述べ、周りに配慮しながら、自ら積極的に行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し返事をしたが、自発的な質問や発言は少なく、指導者及びスタッフに促されてから行動していた。	指導者及びスタッフからの問いかけや質問に対し、返事や意思表示が曖昧であり、指導者及びスタッフから促されてから行動していた。
社会人としての常識的な行動	施設の規範やルールを理解し、常識的な行動ができていた。	施設の規範やルールを十分に理解していないが、他者に迷惑をかけない行動ができた。	他者に迷惑をかけている。社会人として、常識的な行動ができていなかった。
研究課題の設定	実習施設に適した課題が設定されていて、複数の情報を整理した上で、ふさわしい研究方法を用いた分析方法を示すことができた。知識と情報の整理ができた。	目的とテーマに沿った研究方法を用いて、分析方法を示すことができた。	課題が実習施設に適していなかった。研究課題設定に際し、適切な知識と情報の整理ができていなかった。
課題発見と問題解決への取り組み	新たな課題を発見し、知識と技術を活用しながら問題解決を行うことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていた。	与えられた課題に対して、問題解決に取り組むことができていなかった。
協調性・協働性	他の実習生と積極的にディスカッションができ、協力して課題を解決していた。	スタッフに促されてから、他の実習生と協力して課題を解決していた。	他の実習生と協力して課題を解決しようとせず、ディスカッションに参加していなかった。
提出物	内容がすぐれており、期日までに提出していた。	期日に遅れて提出していた。	提出していなかった。
実習への取り組み状況	欠席も遅刻もせず、一日中、活発に実習に取り組んでいた。	体調不良、交通事故等で遅刻・欠席をしたが、指導者にきちんと連絡し、指示を得た。	遅刻または欠席をし、連絡を怠った。

5. 実習専任教員

臨地実習科目	専任教員
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	沼田 聡
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	沼田 聡
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	渡邊 慶子
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	渡邊 慶子
臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）	竹市 仁美

6. 実習施設

臨地実習は、その種類に応じ、次に掲げる施設において実施する。実習施設はいずれも管理栄養士が専従する施設である。

（1）臨地実習Ⅰ（給食の運営）

- ・病院、介護保険施設（介護老人保健施設・高齢者福祉施設）、事業所、学校、

（2）臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）

- ・病院、介護保険施設（介護老人保健施設・高齢者福祉施設）、事業所

（3）臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）・臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）

- ・病院

（4）臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）

- ・保健所、保健センター

7. 実習日程

期間：8月〇日～9月〇日及び2月〇日～3月〇日の間で180時間実施

タイプ	臨地実習Ⅰ (給食の運営)	臨地実習Ⅱ (給食経営管理論)	臨地実習Ⅲ (臨床栄養学)	臨地実習Ⅳ (臨床栄養学) あるいは 臨地実習Ⅴ (公衆栄養学)	期間
A*	病院	病院	病院	病院	病院 180時間
B	介護保険施設	病院	病院	病院	介護保険施設 45時間 病院 135時間
C	介護保険施設	介護保険施設	病院	病院	介護保険施設 90時間 病院 90時間
D**	病院	病院	病院	保健所	病院 135時間 保健所 45時間
E	介護保険施設	病院	病院	保健所	介護保険施設 45時間 病院 90時間 保健所 45時間
F	介護保険施設	介護保険施設	病院	保健所	介護保険施設 90時間 病院 45時間 保健所 45時間
G	事業所	事業所	病院	病院	事業所 90時間 病院 90時間
H	学校	病院	病院	病院	学校 45時間 病院 135時間

* p.14にAタイプの実習日程例を示す。 ** p.15にDタイプの実習日程例を示す。

Aタイプの実習日程（例）（p.9のA*タイプ）

4単位 180時間（1日 7.5時間×24日間） ↔

Aタイプ								
日	曜	8月	曜	9月	曜	2月	曜	3月
1	月		木		水		水	臨床栄養学
2	火		金		木		木	臨床栄養学
3	水		土		金		金	臨床栄養学
4	木		日		土		土	
5	金		月		日		日	
6	土		火		月		月	臨床栄養学
7	日		水		火		火	臨床栄養学
8	月		木		水		水	臨床栄養学
9	火		金		木		木	臨床栄養学
10	水		土		金		金	臨床栄養学
11	木		日		土		土	
12	金		月		日		日	
13	土		火		月	給食経営管理論	月	臨床栄養学
14	日		水		火	給食経営管理論	火	臨床栄養学
15	月		木		水	給食経営管理論	水	
16	火		金		木	給食経営管理論	木	
17	水		土		金	給食経営管理論	金	
18	木		日		土		土	
19	金		月		日		日	
20	土		火		月	給食経営管理論	月	
21	日		水		火		火	
22	月	給食の運営	木		水		水	
23	火	給食の運営	金		木		木	
24	水	給食の運営	土		金		金	
25	木	給食の運営	日		土		土	
26	金	給食の運営	月		日		日	
27	土		火		月	臨床栄養学	月	
28	日		水		火	臨床栄養学	火	
29	月	給食の運営	木				水	
30	火		金				木	
31	水						金	

Dタイプの実習日程（例）（p.9のD**タイプ）

4単位 180時間（1日 7.5時間×24日間） ↔

Dタイプ								
日	曜	8月	曜	9月	曜	2月	曜	3月
1	月		木		水		水	臨床栄養学
2	火		金		木		木	臨床栄養学
3	水		土		金		金	臨床栄養学
4	木		日		土		土	
5	金		月		日		日	
6	土		火		月		月	臨床栄養学
7	日		水		火		火	公衆栄養学
8	月		木		水		水	公衆栄養学
9	火		金		木		木	公衆栄養学
10	水		土		金		金	公衆栄養学
11	木		日		土		土	
12	金		月		日		日	
13	土		火		月	給食経営管理論	月	公衆栄養学
14	日		水		火	給食経営管理論	火	公衆栄養学
15	月		木		水	給食経営管理論	水	
16	火		金		木	給食経営管理論	木	
17	水		土		金	給食経営管理論	金	
18	木		日		土		土	
19	金		月		日		日	
20	土		火		月	給食経営管理論	月	
21	日		水		火		火	
22	月	給食の運営	木		水		水	
23	火	給食の運営	金		木		木	
24	水	給食の運営	土		金		金	
25	木	給食の運営	日		土		土	
26	金	給食の運営	月		日		日	
27	土		火		月	臨床栄養学	月	
28	日		水		火	臨床栄養学	火	
29	月	給食の運営	木				水	
30	火		金				木	
31	水						金	

8. 実習心得

(1) 全般的心得

臨地実習は、管理栄養士・栄養士免許取得のため、各施設の管理栄養士及び栄養士の指導のもとで管理栄養士・栄養士業務を体得するためのものであり、社会人として行動すること。

実習は、大学として実習施設長に対して実習を依頼し行うものである。学内では臨地実習担当教員（以下担当教員）の指導に従い、実習先では実習指導者の指導に従って行動しなければならない。

(2) 基本的心得

1) 実習開始前

- ①オリエンテーションを正当な理由なく欠席した場合、実習を取り消すことがある。
- ②臨地実習に関する伝達事項は、掲示板に掲示するので見落とさぬようにすること。また、メールでの伝達事項について、担当教員に必ず返信すること。
- ③事前訪問の際の服装は、リクルートスーツとし、学生らしい身だしなみを心掛けること。ナチュラルメイクとし、アクセサリー（指輪、イヤリング、ネックレス）は身に付けないこと。
- ④麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘のワクチン接種（罹患歴がある場合は抗体検査）、赤痢菌・サルモネラ属菌（チフス菌・パラチフス A 菌）・腸管出血性大腸菌（O157・O26・O111）の腸内細菌検査を行う。腸内細菌検査は、決められた提出日に必ず提出すること。腸内細菌検査結果が陽性の者と検査忘れの者は実習に行くことができない。
- ⑤実習施設によっては、健康診断書を必要とすることがある。

2) 実習期間中

- ①実習時間は厳守すること。規定時間の 10 分前には、身支度を整えて集合できるようにすること。
- ②通勤は、リクルートスーツで、施設到着後に実習着に着替える。実習指導者の指示に従い、白衣、割烹着、帽子等を着用すること。
- ③爪は短く切ること。また、マニキュアをしたり、匂いの強いものを付けたりしないこと。
- ④実習中の作業は誠意をもって積極的に取り組み、失敗したときにはすぐに実習指導者に申し出ること。また、その日の実習終了後、担当教員に報告すること。
- ⑤私語を慎み、てきぱきと行動しなければならない。言葉づかいに注意して相手に失礼のない言動で、組織の中で働いていることを忘れないようにすること。
- ⑥やむなく欠勤・遅刻・早退をする場合は、前もって文書または電話で担当教員および実習指導者に届け出ること。緊急の場合も速やかに実習指導者に連絡し、その後直ちに担当教員に連絡すること。
- ⑦実習先のすべての方々に、敬意を表し、指導を仰ぎ、真摯な態度で取り組むこと。
- ⑧要点・疑問点などはメモしておき、だれが見てもわかる記録とすること。但し、患者や職員等の個人情報記録しないこと。
- ⑨実習は学生として探求的態度をもって望むこと。

⑩常に清潔な白衣を着用し、トイレ及び厨房外においては白衣・帽子をとること。

⑪履物は用途に応じて、はきかえること。

3) 実習終了後

①臨地実習日誌、出席表、自己評価表は、担当教員が指定した日に提出すること。提出期限を過ぎると実習評価点が減点されるので 提出期限を厳守すること。

②実習終了後、指導いただいた方々に礼状を送付すること。担当教員が確認を行うので、指定した日に清書をしたものを提出すること。

指導いただいた方々は師であり、目上の方であるので、必ず封書で、ワープロでなく手書きすること。

4) 個人情報について

①個人情報保護に関する諸規定等を遵守し、実習中において知り得た個人情報及び実習施設に関する情報について実習中及び実習終了後もその一切を漏らさないことを誓約すること。

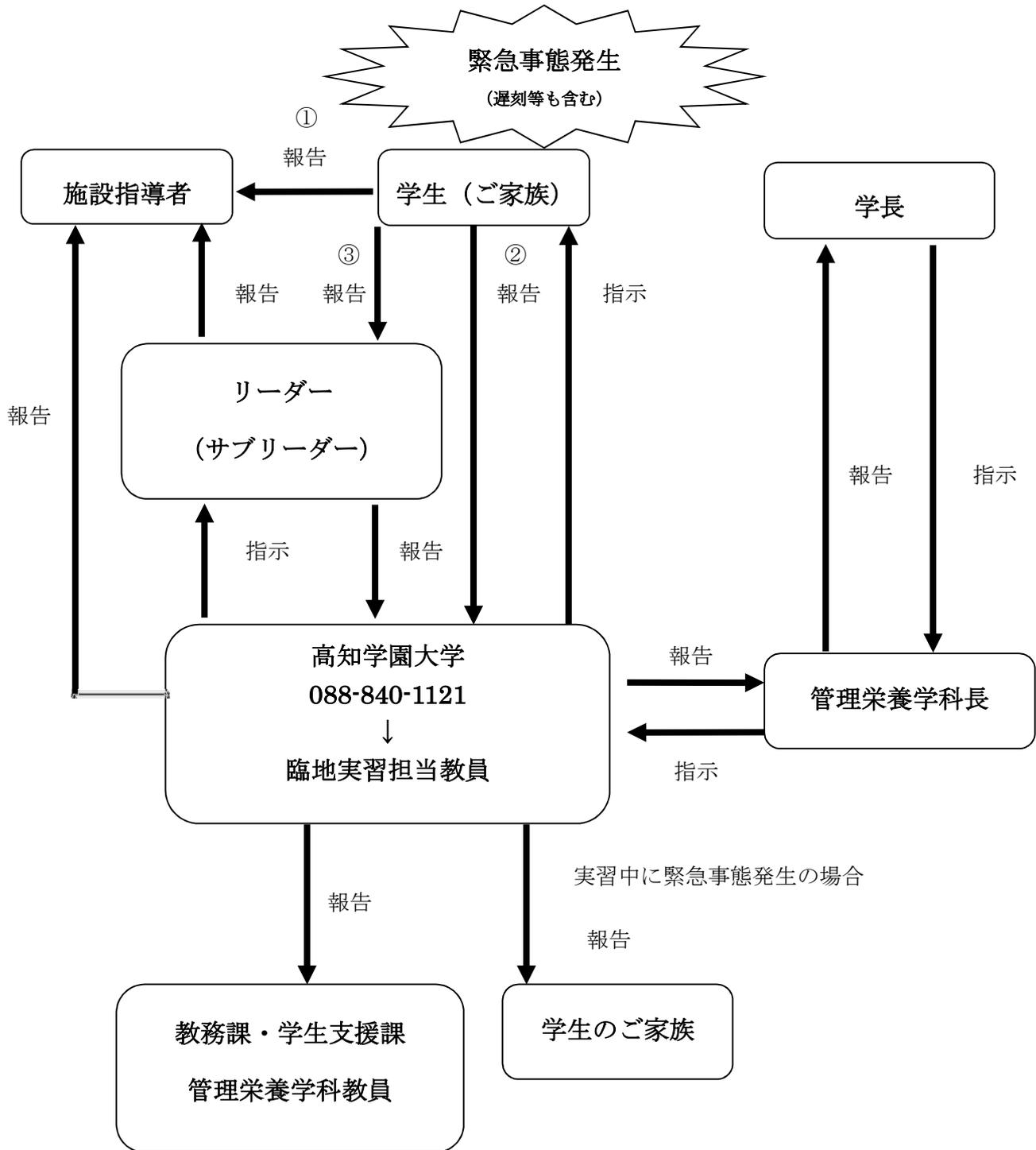
②SNSの普及に伴い、情報を気軽に発信できるが、不適切な画像や投稿を行ったことが原因で個人や施設に損害を与える事例が散見されている。ブログ、ツイッターの危険性を十分に認識しておくこと。

5) その他

①検食代については、実習施設の指示に従うこと。

②実習中に携帯電話を使用しないこと。実習施設に到着したら、電源を切り、ロッカーに保管しておくこと（携帯しない）。

9. 緊急時連絡体制



10. 事故報告書

事故報告書

年 月 日

高知学園大学健康科学部

学部長 様

報告者 所属 職名
氏名 印

(学内・学外) 実習中に事故が発生しましたので報告します。

学科名		実習科目名		担当指導者名	
-----	--	-------	--	--------	--

負傷者の属性	氏名		年齢		男・女	
	所属学科	学科 専攻 番				
	住所	〒				
	連絡先	Tel:				
事故の内容	事故日	平成 年 月 日		午前・午後 時 分		
	事故場所					
	事故状況					
治療の状況	担当指導員あるいは保健室職員の処置					
	傷病部位					
	検査措置	必要・不必要	指導員・保健室職員名	印		
	病院処置	病院名			担当 医師	
		通院 (見込み・確定)			月 日 ~ 月 日	
		入院 (見込み・確定)			月 日 ~ 月 日	

記入者 所属・氏名 印

1 1. 個人情報に関する誓約書

個人情報に関する誓約書

法人名

施設名

役職 氏名 様

私は、実習生として、個人情報保護に関する諸規定等を遵守いたします。

また、実習中において知り得た個人情報について実習中及び実習終了後もその一切を漏らさないことを誓約いたします。

平成 年 月 日

所属 高知学園大学健康科学部
管理栄養学科 3年

氏名 印

12. 漏洩報告書

漏えい事故報告書

年 月 日

高知学園大学健康科学部
学部長

様

報告者 所属学科・学年

学籍番号

氏名

印

臨地実習中に個人情報の漏えい事故が発生しましたので報告します。

事故日	年 月 日
対象施設	
漏えい情報	
媒体	
対象者概要	
事故発生状況	
事故発生後の対応	

13. 実習施設一覧

(1) 病院

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	独立行政法人国立病院機構 高知病院	780-8077	高知市朝倉西町 1-2-25	088-844-3111	大串 文隆	永野 由香里
2	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	783-8505	南国市岡豊町小蓮 185-1	088-866-5811	横山 彰仁	伊與木 美保
3	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	781-8555	高知市池 2125-1	088-837-3000	吉川 清志	十萬 敬子
4	高知県立 あき総合病院	784-0027	安芸市宝永町 1-32	0887-34-3111	前田 博教	有澤 ゆかり
5	日本赤十字社 高知赤十字病院	780-8562	高知市新本町 2-13-51	088-822-1201	浜口 伸正	川島 加奈
6	独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院	780-8040	高知市神田 317-12	088-843-1501	山田 光俊	掛水 利佳
7	高知県厚生農業協同組合連合会 JA 高知病院	783-8509	南国市明見字中野 526-1	088-863-2181	谷木 利勝	平山 祐美子
8	社会医療法人近森会 近森病院	780-8522	高知市大川筋 1-1-16	088-822-5231	近森 正幸	宮澤 靖
9	社会医療法人仁生会 細木病院	780-8535	高知市大膳町 37	088-822-7211	堀見 忠司	橋本 由佳
10	社会医療法人仁生会 三愛病院	781-8136	高知市一宮西町 1-7-25	088-845-5291	深田 順一	石山 由香
11	医療法人創治 竹本病院	787-0015	四万十市右山 1973 番地 2	0880-35-4151	竹本 範彦	吉井 智美
12	特定医療法人長生会 大井田病院	788-0001	宿毛市中央 8 丁目 3-6	0880-63-2101	田中 公章	谷岡 美奈
13	医療法人五月会 須崎くろしお病院	785-8501	須崎市緑町 4-30	0889-43-2121	田村 精平	國本 宏恵
14	医療法人武田会 高知鏡川病院	780-8037	高知県高知市城山町 270	088-833-4328	横山 佳秀	西村 浩恵
15	高知県立 幡多けんみん病院	788-0785	宿毛市山奈町芳奈 3-1	0880-66-2222	橘 壽人	井上 那奈
16	医療法人つくし会 南国病院	783-0004	南国市大桶甲 1479-3	088-864-3137	中澤 宏之	宮地 悦美

(2) 介護保険施設

①介護老人保健施設

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	介護老人保健施設 あいおい	780-0054	高知市相生町 1-35	088-885-2281	野並 誠二	榎本 佐紀
2	医療法人楠目会 介護老人保健施設 とさやまだファミリア	782-0043	香美市土佐山田町 549	0887-53-2500	高橋 ゆかり	大森 恵子

②高齢者福祉施設

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里	781-0011	高知市薊野北町 2-25-8	088-803-1122	福田 晃代	大川 美以子
2	社会福祉法人南海福祉会 介護老人福祉施設グランボヌール	781-5101	高知市布師田字宮ノ辺 1362	088-845-5400	森脇 真代美	中須賀理沙
3	社会福祉法人海の里 特別養護老人ホーム海の里	781-0112	高知市仁井田 1618-18	088-847-7878	坂本 朝子	難波 和加
4	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザ洋寿荘	781-5704	安芸郡芸西村西分乙 297	0887-32-2110	中澤 和彦	門脇 涼子
5	土佐市特別養護老人ホームとさの里	781-1101	土佐市高岡町甲 1792-2	088-852-2200	北添 稔博	中平 有香
6	社会福祉法人黒潮福祉会 特別養護老人ホームかしま荘	789-1720	幡多郡黒潮町佐賀 3177	0880-55-3591	福島 まり子	森 雅子
7	社会福祉法人ふるさと会 特別養護老人ホーム森の里高知	781-0240	高知市横浜 20-1	088-848-2002	川村 扶美	北村 小百合
8	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホーム ウエルプラザやまだ荘	782-0047	香美市土佐山田町 550-2	0887-52-2112	佐々木 誠	日浦 千香子
9	高幡西部 特別養護老人ホーム窪川荘	786-0032	高岡郡四万十町影野 640-2	0880-22-8811	津末 和宏	沖田 美徳
10	社会福祉法人厚敬会 特別養護老人ホームトキワ苑	781-3521	土佐郡土佐町田井 1377 番地 29	0887-82-2741	川村 龍象	竹政 由衣

(3) 事業所

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	陸上自衛隊高知駐屯地	781-5495	香南市香我美町上分 3390	0887-55-3171		

(4) 保健所・保健センター

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	(管轄) 高知県健康政策部健康長寿政策課 (実習施設) ・安芸福祉保健所 ・中央東福祉保健所 ・中央西福祉保健所 ・須崎福祉保健所 ・幡多福祉保健所	780-8570	高知市丸ノ内 1 丁目 2 番 20 号	088-823-9666	課長 中嶋 真琴	佐々木小百合
2	(管轄) 高知市保健所健康増進課 (実習施設) ・高知市保健所	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	088-822-0577	堀川 俊一	田村 絵美

(5) 学校

No.	学校名	郵便番号	住 所	電話番号	校長	栄養教諭

1 4. 実習日誌記入上の注意

(1) 全般的注意

臨地実習は、管理栄養士・栄養士免許取得のために必修のものであり、実り多い実習にするためには、まず十分な準備をして実習にのぞまねばならない。体験学習はいかなる書物にも優るものであるから、これをふまえて体験したことを要領よくまとめて記録しておくこと。

(2) 基本的注意

1) 実習開始前に記録すること

- ①実習施設の所在地・電話番号・指導者名
- ②実習施設の概要、オリエンテーションの内容

2) 実習中に記録すること

- ①実習日誌（実施献立・実習報告・まとめ・反省）
 - ・黒のボールペン等で記入すること（鉛筆書き不可）。
 - ・概略はメモしておき清書すること。
 - ・学び取ったこと、気づかされたこと、実習態度の反省や課題の解決方法等を中心に記入すること。
 - ・誤字・脱字のないよう辞書を引き、読み直しをすること。
 - ・訂正は、定規を用いて二重線を引き訂正印を押すこと（3ヶ所間違えた場合は、書き直しを行うこと）。

3) 実習終了後に記録するもの

- ①実習自己評価表、実習のまとめ

(例)

臨地実習日誌

臨地実習 I (給食の運営)

実習施設名 _____

所在地 _____

電話番号 _____

実習期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

指導者名 _____

高知学園大学 健康科学部管理栄養学科

学籍番号 _____

氏名 _____

献立表

	朝食	昼食	夕食
月 日 ()			

平成 年 月 日 (曜日)

実習内容

7:00

8:00

9:00

10:00

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:00

18:00

実習テーマ（平成 年 月 日 曜日）

高知学園短期大学 生活科学学科

飛翔式



平成 29 年 2 月 12 日(日)

7 号館大講義室

平成 29 年 7 月 30 日(日) 13:00 開式 7 号館大講義室

生活科学学科 第 50 期生 飛翔式

高知学園短期大学は、昭和 42 年食物栄養科（現生活科学学科）の創設以来、「食・栄養・健康」の専門的教養と実践力を備えた栄養士を陸続と輩出し、今年で 50 周年を迎えます。

栄養士は、人々が健やかによりよく生きるために「栄養の指導」を実践する専門職であり、学生たちは、栄養士を目指し、「食・栄養・健康」に関する幅広い知識と実践力を備えるために学んでいます。

学生たちが、専門職としての使命と責務を自覚し、その職能を発揮することを誓い、学外実習に向けて力強く羽ばたくため飛翔式を挙行いたします。

飛翔式では、管理栄養士・栄養士倫理綱領を朗読し、歴史を刻み、良心と愛情と健やかな精神を育み研鑽を重ね、旭光を浴びながら大空に飛翔する学生たち一人ひとりに旭光徽章を授与いたします。



学校法人 高知学園

高知学園短期大学

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

| 学生支援課 | TEL 088-840-1664 FAX 088-840-1231

平成30年7月10日(火) 16:30 開式 7号館大講義室

生活科学学科 第51期生 飛翔式



栄養士は、人々が健やかによりよく生きるために「栄養の指導」を実践する専門職であり、
学生たちは、栄養士を目指し、「食・栄養・健康」に関する幅広い知識と実践力を備えるために学んでいます。

学生たちが、専門職としての使命と責務を自覚し、その職能を発揮することを誓い、学外実習に向けて力強く
羽ばたくため飛翔式を挙行いたします。

飛翔式では、管理栄養士・栄養士倫理綱領を朗読し、歴史を刻み、良心と愛情と健やかな精神を育み研鑽を重ね、
旭光を浴びながら大空に飛翔する学生たち一人ひとりに旭光徽章を授与いたします。



旭光徽章

学校法人 高知学園

高知学園短期大学

〒780-0955 高知県高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121(代)

| 学生支援課 | TEL 088-840-1664 FAX 088-840-1231

健康科学部管理栄養学科 臨地実習 巡回指導計画

<時間帯>

【1】8:40~10:10(1限目) 【2】10:20~11:50(2限目) 【3】12:50~14:20(3限目) 【4】14:30~16:00(4限目) 【5】16:10~17:40(5限目) <表示>

講義・演習・実習

打ち合わせ訪問

実習期間中

【A】給食Ⅰ・Ⅱ 【B】臨床Ⅲ・Ⅳ 【C】公衆Ⅴ ●巡回指導 No.1

領域	職位	週 曜日	4月																																								
			1					2					3					4																									
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金																					
氏名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																		
臨地実習Ⅰ 講師 沼田(A)								A	A	A	A	A	A				A	A	A	A	A																						
臨地実習Ⅰ 教授 宮本(A)								A	A					A																													
臨地実習Ⅱ 講師 沼田(A)								A	A	A	A	A	A				A	A	A	A	A																						
臨地実習Ⅱ 准教授 古屋(A)								A	A					A																													
臨地実習Ⅲ 教授 渡邊(B)								B	B	B	B	B																															
臨地実習Ⅲ 教授 安房田(B)														B																													
臨地実習Ⅳ 教授 渡邊(B)								B	B	B	B	B																															
臨地実習Ⅳ 准教授 荒木(B)								B	B					B																													
臨地実習Ⅴ 教授 竹市(C)														C																													

領域	職位	週 曜日	5月																																						
			4					6					7					8																							
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金																			
氏名	2022/4/25	2022/4/26	2022/4/27	2022/4/28	2022/4/29	2022/5/2	2022/5/3	2022/5/4	2022/5/5	2022/5/6	2022/5/9	2022/5/10	2022/5/11	2022/5/12	2022/5/13	2022/5/16	2022/5/17	2022/5/18	2022/5/19	2022/5/20																					
臨地実習Ⅰ 講師 沼田(A)		A	A	A	A	A																																			
臨地実習Ⅰ 教授 宮本(A)		A	A																																						
臨地実習Ⅱ 講師 沼田(A)		A	A	A	A	A																																			
臨地実習Ⅱ 准教授 古屋(A)		A	A																																						
臨地実習Ⅲ 教授 渡邊(B)		B	B	B	B	B																																			
臨地実習Ⅲ 教授 安房田(B)																																									
臨地実習Ⅳ 教授 渡邊(B)		B	B	B	B	B																																			
臨地実習Ⅳ 准教授 荒木(B)		B	B																																						
臨地実習Ⅴ 教授 竹市(C)																																									

領域	職位	週 曜日	5月																																						
			9					10					11					12																							
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金																			
氏名	2022/5/23	2022/5/24	2022/5/25	2022/5/26	2022/5/27	2022/5/30	2022/5/31	2022/6/1	2022/6/2	2022/6/3	2022/6/6	2022/6/7	2022/6/8	2022/6/9	2022/6/10	2022/6/13	2022/6/14	2022/6/15	2022/6/16	2022/6/17																					
臨地実習Ⅰ 講師 沼田(A)		A	A	A	A	A																																			
臨地実習Ⅰ 教授 宮本(A)		A	A																																						
臨地実習Ⅱ 講師 沼田(A)		A	A	A	A	A																																			
臨地実習Ⅱ 准教授 古屋(A)		A	A																																						
臨地実習Ⅲ 教授 渡邊(B)		B	B	B	B	B																																			
臨地実習Ⅲ 教授 安房田(B)																																									
臨地実習Ⅳ 教授 渡邊(B)		B	B	B	B	B																																			
臨地実習Ⅳ 准教授 荒木(B)		B	B																																						
臨地実習Ⅴ 教授 竹市(C)																																									

健康科学部管理栄養学科 臨地実習 巡回指導計画

<時間帯>

【1】8:40~10:10(1限目) 【2】10:20~11:50(2限目) 【3】12:50~14:20(3限目) 【4】14:30~16:00(4限目) 【5】16:10~17:40(5限目) <表示>

講義・演習・実習

打ち合わせ訪問

実習期間中

[A]給食 I・II [B]臨床III・IV [C]公衆 ●巡回指導 No.2

領域	職位	週 曜日	6月					7月					7月					16													
			13					14					15					16													
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金									
			2022/6/20	2022/6/21	2022/6/22	2022/6/23	2022/6/24	2022/6/27	2022/6/28	2022/6/29	2022/6/30	2022/7/1	2022/7/4	2022/7/5	2022/7/6	2022/7/7	2022/7/8	2022/7/11	2022/7/12	2022/7/13	2022/7/14	2022/7/15									
			氏名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
臨地実習 I	講師	沼田(A)		A	A	A	A	A						A	A	A	A	A	A						A	A	A	A	A	A	
臨地実習 I	教授	宮本(A)		A	A		A						A					A							A						
臨地実習 II	講師	沼田(A)		A	A	A	A	A						A	A	A	A	A	A						A	A	A	A	A	A	
臨地実習 II	准教授	古屋(A)		A	A	A	A	A					A												A	A	A				
臨地実習 III	教授	渡邊(B)	B	B	B	B	B				B	B	B	B	B				B						B	B	B	B	B		
臨地実習 III	教授	安房田(B)		B	B		B	B						B	B				B	B						B	B		B	B	
臨地実習 IV	教授	渡邊(B)	B	B	B	B	B				B	B	B	B	B				B						B	B	B	B	B		
臨地実習 IV	准教授	荒木(B)	B	B		B							B					B								B	B	B	B		
臨地実習 V	教授	竹市(C)		C	C		C	C					C	C				C	C						C	C		C	C		

領域	職位	週 曜日	7月					18					19					20														
			17					18					19					20														
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金										
			2022/7/18	2022/7/19	2022/7/20	2022/7/21	2022/7/22	2022/7/25	2022/7/26	2022/7/27	2022/7/28	2022/7/29	2022/8/1	2022/8/2	2022/8/3	2022/8/4	2022/8/5	2022/8/8	2022/8/9	2022/8/10	2022/8/11	2022/8/12										
			氏名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5									
臨地実習 I	講師	沼田(A)		A	A	A	A	A						A	A	A																
臨地実習 I	教授	宮本(A)		A	A		A																									
臨地実習 II	講師	沼田(A)		A	A	A	A	A																								
臨地実習 II	准教授	古屋(A)		A	A	A	A	A						A																		
臨地実習 III	教授	渡邊(B)	B	B	B	B	B				B	B	B	B	B																	
臨地実習 III	教授	安房田(B)		B	B		B	B						B	B					B	B											
臨地実習 IV	教授	渡邊(B)	B	B	B	B	B				B	B	B	B	B																	
臨地実習 IV	准教授	荒木(B)	B	B		B							B																			
臨地実習 V	教授	竹市(C)		C	C		C	C						C	C																	

領域	職位	週 曜日	8月					22					23					9月														
			21					22					23					24														
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金										
			2022/8/15	2022/8/16	2022/8/17	2022/8/18	2022/8/19	2022/8/22	2022/8/23	2022/8/24	2022/8/25	2022/8/26	2022/8/29	2022/8/30	2022/8/31	2022/9/1	2022/9/2	2022/9/5	2022/9/6	2022/9/7	2022/9/8	2022/9/9										
			氏名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5									
臨地実習 I	講師	沼田(A)																														
臨地実習 I	教授	宮本(A)																														
臨地実習 II	講師	沼田(A)																														
臨地実習 II	准教授	古屋(A)																														
臨地実習 III	教授	渡邊(B)																														
臨地実習 III	教授	安房田(B)																														
臨地実習 IV	教授	渡邊(B)																														
臨地実習 IV	准教授	荒木(B)																														
臨地実習 V	教授	竹市(C)																														

臨地実習 I (給食の運営) 病院 ①国立病院機構高知病院 ②高知大学医学部附属病院 ③高知医療センター ④高知県立あき総合病院 ⑤高知赤十字病院 ⑥高知西病院 ⑦JA高知病院 ⑧近森病院
 ⑨細木病院 ⑩三愛病院 ⑪竹本病院 ⑫大井田病院 ⑬南国病院 ⑭須崎くろしお病院 ⑮高知鏡川病院 ⑯幡多けんみん病院
 臨地実習 I (給食の運営) 介護保険施設(介護老人保健施設・高齢者福祉施設)・事業所 ⑰特別養護老人ホームあさみの里 ⑱特別養護老人ホーム海の里 ⑲特別養護老人ホームウエルブラザ洋寿荘
 ⑳特別養護老人ホームとさの里 ㉑特別養護老人ホームかしま荘 ㉒特別養護老人ホーム森の里 ㉓介護老人保健施設あおい ㉔特別養護老人ホームウエルブラザやまだ荘 ㉕特別養護老人ホーム 窪川荘 ㉖介護老人保健施設とさやまだファミリア
 ㉗特別養護老人ホームトキワ苑 ㉘陸上自衛隊高知駐屯地

健康科学部臨床検査学科

臨地実習施設一覧

科目名：臨地実習

No	実習施設名	住 所	依頼予 定人数	備考
1	国立大学法人高知大学医 学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮 185-1	24人	
2	高知県・高知市病院企業団 立高知医療センター	〒781-8555 高知市池 2125-1	18人	
3	独立行政法人国立病院機 構高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町 1-2-25	10人	
4	日本赤十字社 高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町 2-13-51	8人	
5	高知県立幡多けんみん病 院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈 3-1	5人	
6	社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋 1 丁目 1-16	5人	
7	J A高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野 526-1	4人	
8	高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町 1-32	2人	

合計 76人

資料10-7として健康科学部臨床検査学科臨地実習承諾書を添付した。

臨地実習の要項

高知学園大学 健康科学部臨床検査学科

学籍番号

氏名

目 次

臨地実習の要項

1. 臨地実習の意義と目的	2
2. 臨地実習教育目標	2
3. 臨地実習の時期および実習施設	3
4. 実習単位	3
5. 評価	3
6. 実習の心得	5
7. 臨地実習計画表	7
8. 臨地実習巡回指導体制	8
9. 個人情報漏えいの事態発生時の連絡体制	10
10. 臨地実習での医療事故などの発生時対策	12
11. 誓約書	13
12. 漏えい事故報告書	14
13. 感染事故報告書	15
14. ワクチン接種記録表	16

臨地実習ガイドライン

ガイドライン内容	17
----------	----

1. 臨地実習の意義と目的

現在、日本の医療は非常に目ざましい勢いで進歩し高度化してきている。臨床検査の分野でもそれは顕著で、検査の水準や精度が高くなり、それを十分に担っていける資質の高い臨床検査技師が期待されている。臨床検査技師としての高い資質を養うためには、学内における基礎分野、専門基礎分野、専門分野の講義・実習を履修しなければならない。しかし、学内だけの学習では、急速に変化している医療現場に対応し臨床検査技師の役割を果たしていくことは困難である。

臨地実習は、実際の医療現場である病院において、学内で学んだ知識や技術がどのように実践され、どのような役割を果たしているのかについて学ぶ機会である。さらに、自分がこれまでに学んだ知識の理解や、技術の習得程度について考察し、次の段階へ発展させるための導入になる機会である。また、学内では学ぶことのできない新しい知識・技術も数多く習得する機会である。さらに、学内では経験できない患者さんとのかかわり、検査の日常業務、検体の取り扱いおよび処理の方法を直接体験し、それを通して医療人の一員としての臨床検査技師の仕事に対する理解と自覚を深め、自己の責任感、研究心、向上心を養うことを目的とする。

また、病院は社会に開かれた場でもあり、病院そのものが一つの社会を形成している。そこでは、患者さんを中心にして、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、事務職員、そして最も身近な指導者となる臨床検査技師等、多くの職種の人々がチームをつくり協力して働いている。このような実社会を学生の立場で経験し、多くの人々と触れ合うことは、臨床検査技師になるための技術や知識を学び資質を高めるのみならず、人間形成のために大切なことである。臨地実習は自己を見つめ直し、人を理解する心、いたわりの心、思いやりの心、公平さ、自主性、協調性、責任感等の人間として、社会人としてさらに医療人としての必要な自覚と見識、職業観を養う機会である。

臨地実習は、学生生活における節目のひとつであり、学生生活をより有意義なものとし、卒業後、社会人としての自分の生き方、物の考え方に大きな示唆を与えるものである。

2. 臨地実習教育目標（平成 27 年改訂 臨床検査技師養成所指導ガイドライン）

臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営に関する知識を習得し、被験者との適切な対応を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。

3. 臨地実習の時期および実習施設

年 月 日() ~ 月 日()

施設名	住所	電話番号
高知大学医学部附属病院	〒783-8505 南国市岡豊町小蓮	088-866-5811
高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〒781-8555 高知市池 2125-1	088-837-3000
独立行政法人国立病院機構 高知病院	〒780-8077 高知市朝倉西町 1-2-25	088-844-3111
高知赤十字病院	〒780-8562 高知市新本町 2-13-51	088-822-1201
高知県厚生農業協同組合連合会 JA 高知病院	〒783-8509 南国市明見字中野 526-1	088-863-2181
高知県立幡多けんみん病院	〒787-0785 宿毛市山奈町芳奈 3-1	0880-66-2222
社会医療法人近森会 近森病院	〒780-8522 高知市大川筋 1-1-16	088-822-5231
高知県立あき総合病院	〒784-0027 安芸市宝永町 1-32	0887-34-3111

4. 実習単位

臨地実習 7単位

5. 評価

○評価は高知学園大学の学則に則り行う。

○評価は次のものを総合して行う。

1. 実習修了証明書
2. 実習出席日数
3. 実習施設による評価表
4. 実習ノート（指定）
5. レポート

レポートは、A4のルーズリーフを使用し、科目ごとにファイルする。または、実習施設の指示に従うこと。実習施設の指導者の指定した期日までに必ず提出し点検を受けること。

実習終了後、学内の各科目の担当教員に提出のこと。なお、指導者の点検のないものは受理しない。

6. 試験
7. 臨地実習報告の作成と発表

6. 実 習 の 心 得

実習を有意義なものにするために、個人個人が自覚と責任を持って次のことを心がけること。

(実習に臨む姿勢)

実習の目的意識を明確にもち、指導していただくという謙虚さと、自ら学ぼうとする積極的な姿勢を持って臨むこと。

1. 病院や検査室の規則を熟知し、指導者の指示に従い違反や誤りのないようにする。
2. 守秘義務の遵守：検査結果、台帳および電子カルテ内容、患者情報、職員情報などの院内、検査室内の情報を絶対に口外しないこと。LINE・Facebook・TwitterなどのSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）、ブログなどのインターネット上にもそれらの情報を流さないこと。
3. 実習内容の予習復習をし、常に真剣でかつ積極的、意欲的な姿勢で臨むこと。
4. 病院内全体が実習の場と思い、節度ある行動をとること。
5. 病院内や検査室の機械、器具類は慎重に取り扱い、万一破損したり取り扱いミスがあったりした場合は指導者に申し出ること。試薬類は無駄なく適切に使用すること。
6. 指導者の説明をよく聞き、不明な点は質問をし、自分勝手な解釈や判断で行わないこと。質問された場合は、明確に応答すること。
7. 自分が役に立てるようなことがあれば、進んで行うこと。掃除、洗浄、後始末は実習生の役割である。
8. 失敗や誤りは絶対に許されない場合があるので、何事も慎重に取り組むこと。万一失敗等があった場合は、必ず指導者に報告すること。失敗をふせておいて、大きな事故を導いてしまうこともある。
9. 病院内では、数々の医療機器が使用されており、携帯電話はそれらの故障の原因となるので使用してはいけない。
10. 個人的な電話の呼び出し、取り次ぎも病院業務や実習の妨げになるので避けること。

(実習時間と実習先への移動)

1. 病院の勤務時間に従うこと。始業、終業、昼休み時間などの厳守する。
2. 欠席、遅刻、早退はしないこと。やむをえない場合は、実習先の技師長あるいは実習中の指導者および大学に、家族や友人ではなく本人が直接申し出て許可を得ること。さらに臨地実習ノートに添付の届出用紙を病院と大学の両方に必ず提出すること。
3. 実習内容の予習復習をし、常に真剣でかつ積極的、意欲的な姿勢で臨むこと。
4. 実習先への行き帰りは安全に気をつけ、バイク等は避けてなるべくバスや電車等の公共交通機関を利用すること。万一、事故があった場合は大学および実習先へ必ず連絡すること。

(礼 儀 作 法)

技師の方々は、日常の忙しい業務の他に実習生の指導を引き受けて下さっている。常に感謝

の気持ちと謙虚な態度を忘れずに指導を受けること。また、患者さんには、いたわりと思いやりの心で接すること。

1. 実習に入る前に、前もって挨拶に行くこと。
2. 朝、退出時や昼食の休憩のときは、挨拶をはっきりと行うこと。
例： 朝 「おはようございます。今日も一日、宜しくお願いいたします。」
退出 「お先に失礼いたします。ご指導ありがとうございました。」
昼食 「食事に行つてまいります。」
3. お礼、お詫びや依頼の気持ちを言葉で表現すること。
例：「ありがとうございます。」「申し訳ありません。」「宜しくお願いいたします。」
4. 言葉遣いは丁寧にし、適切な敬語を使うこと。患者さんへの言葉遣いは特に思いやりといたわりの心で、やさしく話しかけること。
5. 必要なことは明快に話し、無駄な私語や雑談は慎むこと。
6. 機敏な動作で行動すること。廊下は右端を機敏に歩行し、横に2人以上並んで歩行しない。
また、廊下で立ち話をしたり大声を出したりしないこと。
7. 廊下でお会いした患者さん、医師、看護師、他のすべての人々に挨拶を行うこと。
8. 実習生控え室の清掃、整頓に心がけること。ロッカーを適切に使用すること。昼食の後片付けをきちんとすること。
9. 実習終了時には、実習中に受けた指導と援助に感謝し、関係者に謝意を表すこと。

(安 全 対 策)

常に健康管理を怠らず安全に留意し、実習期間を無事に全うするように心がけること。もし事故が起きた場合は、p.8の「臨地実習での医療事故などの発生時対策」に従うこと。

1. 院内感染の予防

① 手洗いの励行

生理検査を含め、検体は感染の危険性があるという認識を持ち、検体の取り扱いには十分注意をし、検体を扱った後や日々の終業時などに手洗いを励行すること。

② 針刺し事故等について

臨地実習では注意しなければいけないことの一つに「針刺し事故」がある。「針刺し事故」ではB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、HIV他、未知の病原菌が感染する危険性がある。「すべての検体には感染の恐れがある」ということを常に念頭に置いて実習に臨まなければならない。採血後、使用済みの針は所定の廃棄BOXに廃棄すること、リキャップ（一度外した注射針のキャップを再び装着すること）をしない等、針の取り扱いには十分に気をつけなければならない。「針刺し事故」が発生した時は速やかに直近の指導者に申し出て、実習施設で対応していただき、別表7を参考に大学にも必ず詳細に報告すること。また、医療廃棄物の取り扱いにも注意すること。その他、感染予防対策は実習施設の指示に従うこと。

2. ガラス器具、ピペット、スライドガラスなどのガラス製品は丁寧に扱うこと。これは破損を防ぐだけでなく、怪我や感染防止にもつながる。
3. 機械、器具類を正しく取り扱うこと。
4. 試薬・薬品は正しく取り扱うこと。
5. ホルマリンなどの有害物質の取り扱いについては、施設の指示を厳守すること。

(服 装)

1. 清潔でアイロンのかかった適切なサイズの白衣を着用し、名札をつけること。
2. 原則としてスーツを着用し、学生らしく質素で清潔であり、きちんとした身仕度で臨むこと。ジーパンは絶対に避けること。白衣の上から透けて見えるような柄もののシャツは着ないように。実習中は指定の上履きをはくこと。
3. 毛髪を常に清潔にし、髪は染めないこと。バサバサ髪、長髪は避け、長い場合はまとめ髪にすること。

手、指、爪はいつも清潔に保ち、実習の前途に必ず手洗いを励行すること。爪は短く切り、マニキュア、指輪は禁止。イヤリング、ピアス、カラーコンタクトも禁止する。

4. マスクの着用は実習施設の指示に従う。

(実 習 終 了 後)

1. 終了後、各科目のレポートを整理して、学内の各科目担当の教員に提出すること。その際、部署ごとの考察も書き終えること。科目ごとの試験を実施する。
2. 終了後、学内で反省会を行うので、各自、施設ごとにまとめておくこと。

(実 習 ノ ー ト)

実習ノートは、臨地実習ノート（医歯薬出版株式会社）を指定する。決められた日に提出し、実習施設および大学の教員の点検を受けること。毎週金曜日に大学の教員が1週間分を点検する。

出勤簿の欄に施設各部署の指導者の捺印をいただくこと。

(レ ポ ー ト)

レポートは、科目ごとにファイルする。または、実習施設の指示に従うこと。レポートの表紙には、下図に示す通りの事項を記載すること。

内容は、1日に実習した項目について、日付、実習項目または題目、目的、方法、結果、考察、反省等を簡潔に記載する。しかし、主体は実習を行うことにあり、レポートを書くことが目的ではないので、本末転倒にならないように心がけること。自分の創意工夫をこらした良い実習レポートを作成するよう努力すること。レポートを期日まで提出しない場合は、実習単位の認定ができないこともあるので、必ず提出すること。

科目名 (臨床検査実習)

実習施設名
部署名
期 間
実習生名

健康科学部臨床検査学科(仮称) 臨地実習計画表(3年次)後期

期間:10月15日(月)~1月31日(木):15週(58日) 臨地実習7単位(必修) (平成30年度 例)

日	曜	10月	曜	11月	曜	12月	曜	1月
1	月		木	↓	土		火	
2	火		金	登校日(実習ノート点検)	日		水	
3	水		土		月	↑	木	
4	木		日		火	臨床検査臨地実習	金	登校日(実習ノート点検)
5	金		月	↑	水		土	
6	土		火	臨床検査臨地実習	木	↓	日	
7	日		水		金	登校日(実習ノート点検)	月	↑
8	月		木	↓	土		火	臨床検査臨地実習
9	火		金	登校日(実習ノート点検)	日		水	
10	水		土		月	↑	木	
11	木		日		火	臨床検査臨地実習	金	登校日(実習ノート点検)
12	金		月	↑	水		土	
13	土		火	臨床検査臨地実習	木	↓	日	
14	日		水		金	登校日(実習ノート点検)	月	
15	月	↑	木	↓	土		火	↑
16	火	臨床検査臨地実習	金	登校日(実習ノート点検)	日		水	臨床検査臨地実習
17	水		土		月	↑	木	↓
18	木		日		火	臨床検査臨地実習	金	登校日(実習ノート点検)
19	金	登校日(実習ノート点検)	月	↑	水		土	
20	土		火	臨床検査臨地実習	木	↓	日	
21	日		水		金	登校日(実習ノート点検)	月	↑
22	月	↑	木	↓	土		火	臨床検査臨地実習
23	火	臨床検査臨地実習	金		日		水	
24	水		土		月		木	↓
25	木		日		火	↑	金	登校日(実習ノート点検)
26	金	登校日(実習ノート点検)	月	↑	水	臨床検査臨地実習	土	
27	土		火	臨床検査臨地実習	木	↓	日	
28	日		水		金	登校日(実習ノート点検)	月	↑
29	月	↑	木	↓	土		火	臨床検査臨地実習
30	火	臨床検査臨地実習	金	登校日(実習ノート点検)	日		水	
31	水				月		木	↓

臨地実習巡回指導体制について（事前、期間中、事後）

事前打ち合わせ：10月初旬

- 各実習施設を教員2名で訪問し、施設代表者に実習関連資料を配付するとともに、資料の説明および臨地実習生の状況などを説明する。また実習期間中の教員訪問日程についても説明する。
- 施設代表者からの要望、注意事項などを聴取するとともに、学科に持ち帰り、報告・検討を行い、その結果を施設にフィードバックするとともに、必要があれば学生指導を行う。

（資料内容）

- ・実習生名簿
- ・臨地実習の要項・学内実習内容・臨地実習ガイドライン
- ・臨地実習ノートのコピー（実習記録、出席表、早退・遅刻・欠席表の記入例）
- ・臨地実習生プロフィール
- ・臨地実習評価表
- ・臨地実習評価項目の基準（評価の視点）および記入例
- ・実習修了証明書

期間中：10月～3月

- 原則、1カ月に1回の教員1名が巡回を行い、臨地実習生の出席状況および実習状況などについて、技師長および現場技師からの聴取を行う。（巡回日程の例は下に記す）
- 聴取の結果、問題がある実習生については、巡回時個別指導を行う、もしくは学科に持ち帰り、聴取内容の報告および検討を行い、その結果を施設側に報告するとともに、学生指導を行う。
- 毎週金曜日に登校日を設置しており、その際、複数の担当教員が学生記載の実習ノートの点検、およびノート記載の指導を行う。
- 登校日には、各実習施設に配置している学生班長を集め、班長会議を行い、学生目線からの問題点の聴取を行う。その際、教員から問題解決へのアドバイスなどを行うとともに、教員は班長会議の内容を学科内に報告し、重要な問題点について学科内で検討、その結果を班長会議にフィードバックする。
- また登校日には、学生において臨地実習中に生じた学問的な質問についても、学内の各教員が対応する。

(教員巡回日程の例)

臨地実習施設	10月(事前)	11月	12月	1月
高知大学医学部附属病院	教員①②	教員①	教員⑨	教員⑤
高知医療センター	教員③④	教員②	教員⑩	教員⑥
国立病院機構高知病院	教員⑤⑥	教員③	教員⑪	教員⑦
高知赤十字病院	教員⑦⑧	教員④	教員⑫	教員⑧
幡多けんみん病院	教員⑨⑩	教員⑤	教員⑬	教員⑨
近森病院	教員⑪⑫	教員⑥	教員⑭	教員⑩
JA高知病院	教員⑬⑭	教員⑦	教員③	教員⑪
高知県立あき総合病院	教員①②	教員⑧	教員④	教員⑫

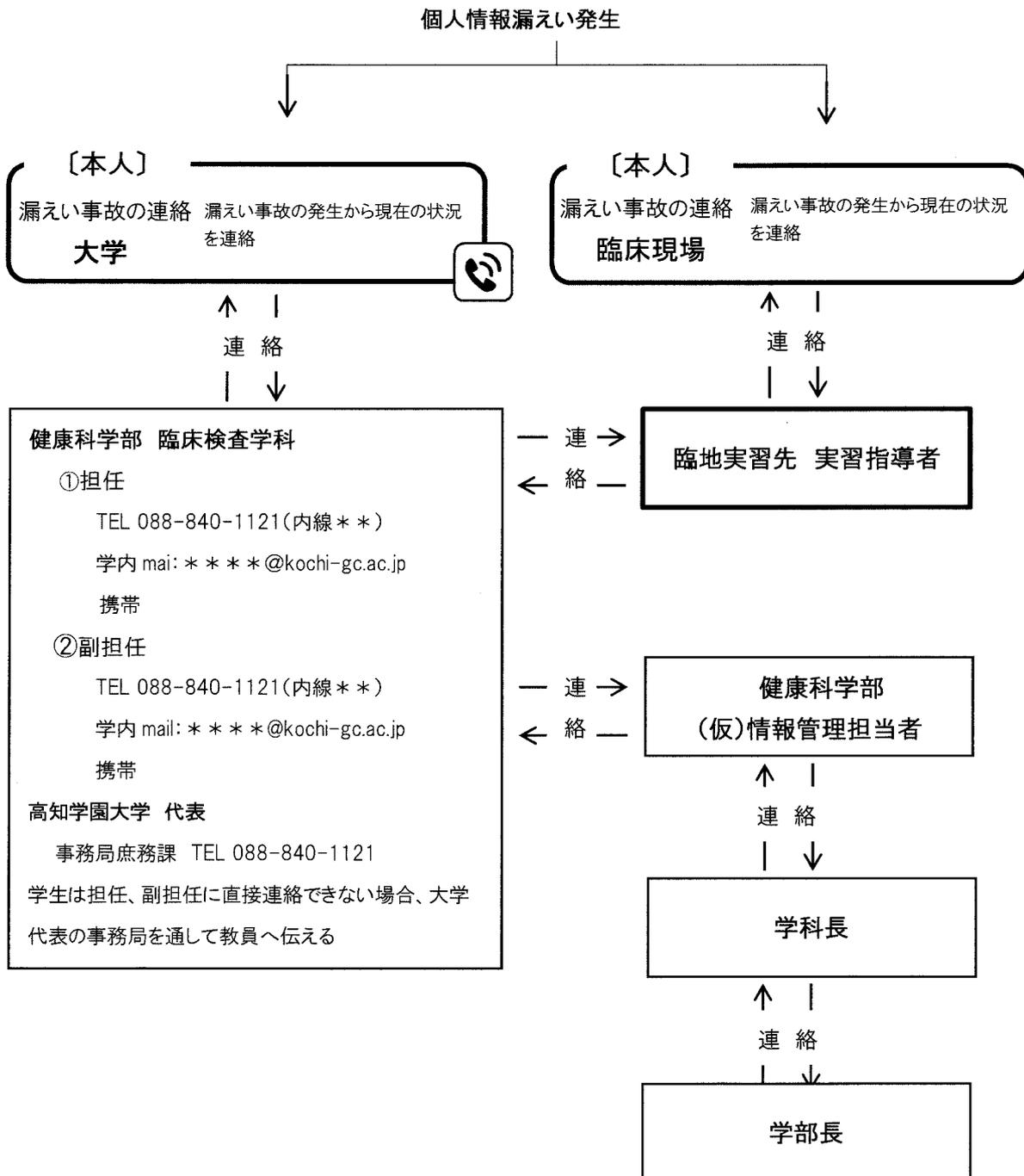
事後

- 3月上旬(予定)に全実習施設代表者と学内教員が参加する「臨地実習事後懇談会」を開催し、当該年度における臨地実習について振り返り、討議し、「臨地実習」の改善につなげていく。
- 「臨地実習事後懇談会」の議事録(案)を作成し、次年度の事後懇談会で報告する。

個人情報漏えいの事態発生時の連絡体制

実習生は臨地実習で知り得た患者情報は他に漏らしてはいけない（守秘義務の遵守）。他に漏えいした場合、以下の緊急連絡網にて大学側に連絡し指示をうけること。

●臨地実習生は個人情報が記録された紙媒体・電子媒体の紛失・盗難等、個人情報を漏えいしたとき、速やかに大学の担任または副担任、臨床現場での実習指導者に漏えい事故発生から現在の状況まで詳細に報告し、その後の対応について指示を受ける。

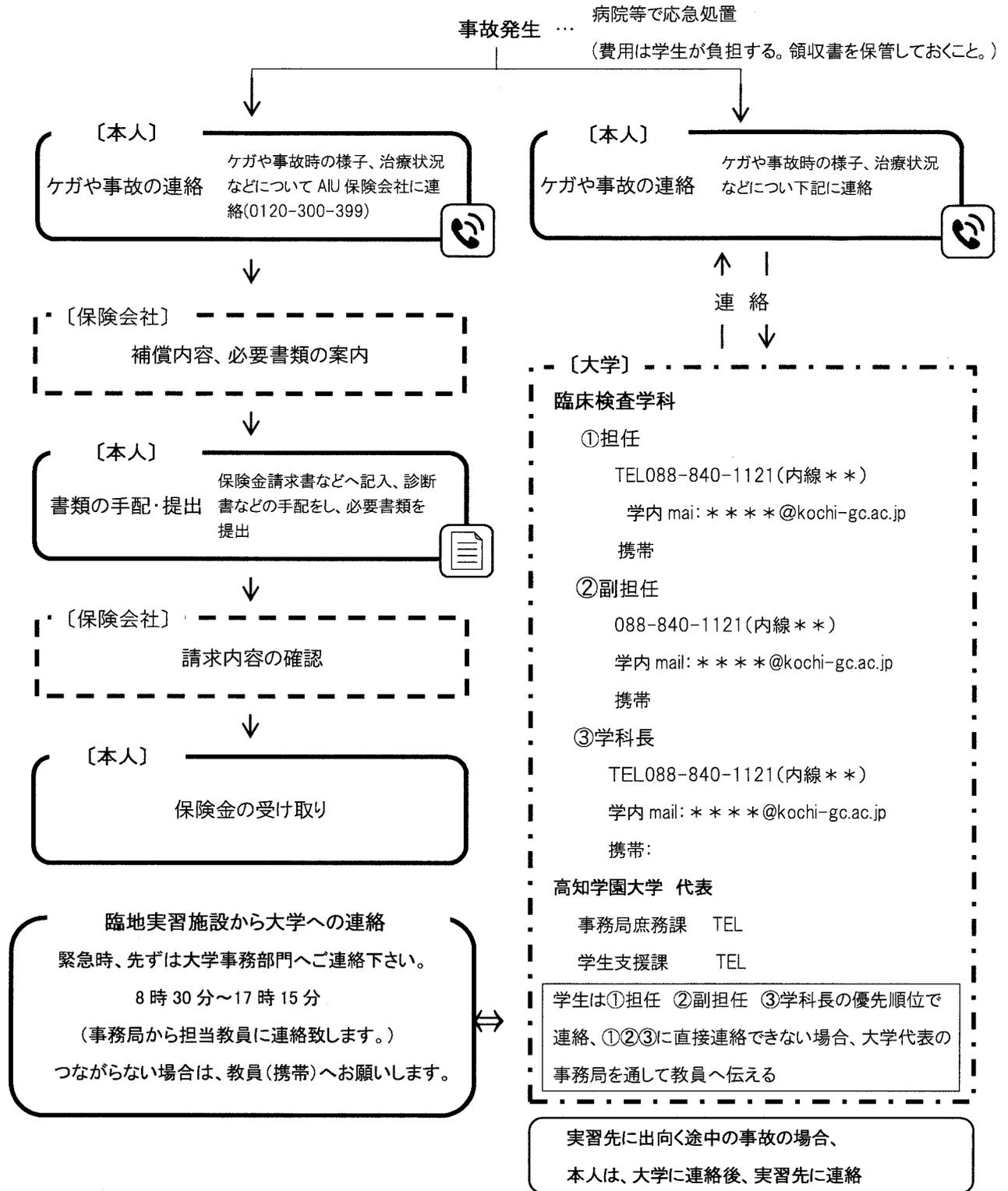


●臨地実習終了後に発生した場合でも、この緊急連絡網にて対応する。

●学生の責任

医療現場に携わる者は病院情報及び患者情報を外部に漏えいしてはいけない。臨地実習生も同様であり、臨地実習終了後においても守秘義務を守らなければいけない。もし、臨地実習先で知り得た個人情報を外部に漏えいした場合、学生は漏えい発生の経緯の事後の対応を漏えい事故報告書により報告する責任がある。当該学生は教員の指示・指導に従い、漏えい事故報告書を作成すること。

臨地実習での医療事故などの発生時対策



学生の学内外での安全対策(保険加入)

- ・学生は高知学園大学入学と同時に、学生総合保障制度(こども総合保険)へ全員加入している。

誓約書

高知学園大学健康科学部

学部長

様

私は、臨地実習中で知り得た個人情報を第三者に漏らすこと、実習に関わる記録の紛失や目的外の使用、不適切な破棄等、個人情報漏えいに関する行為をしないことを誓約します。

年 月 日

高知学園大学健康科学部臨床検査科

学籍番号

学生氏名

印

別表

漏えい事故報告書

年 月 日

高知学園大学健康科学部
学部長

様

報告者 所属学科・学年

学籍番号

氏名

印

臨地実習中に個人情報の漏えい事故が発生しましたので報告します。

事故日	年 月 日
対象施設	
漏えい情報	
媒体	
対象者概要	
事故発生状況	
事故発生後の対応	

別表

感染事故報告書

年 月 日

医療事故等対策会議 議長殿

報告者 所属 職名
氏名 印

(学内・学外) 実習中に感染事故が発生しましたので報告します。

学科名		実習科目名		担当指導者名	
-----	--	-------	--	--------	--

負傷者の	氏名				年齢		男・女	
	所属学科	学科		専攻	番			
	住所	〒						
	連絡先	Tel:						
事故の内容	事故日	平成	年	月	日	午前・午後	時 分	
	事故場所							
	事故状況							
治療の状況	担当指導員あるいは保健室職員の処置							
	傷病部位							
	検査措置	必要・不必要	指導員・保健室職員名					印
	病院処置	病院名				担当医師		
		通院 (見込み・確定)				月	日	～ 月 日
	入院 (見込み・確定)				月	日	～ 月 日	

記入者 所属・氏名 印

ワクチン接種記録表

高知学園大学健康科学部臨床検査学科

学籍番号

氏名

入学時まで の罹患	B型肝炎	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎	結核
無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳
入学時まで の予防接種	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	無 有 () 歳	BCG 接種 (母子手帳等で確認) 無 有 () 歳
検査法 陽性基準	EIA 法、CLIA 法、 RIA 法: HBs 抗体 10mIU/mL 以上	中和法: 1:8 以上 PA 法: 1:256 以上 EIA (IgG): 16.0 以上	HI 法: 1:32 以上 EIA (IgG): 8.0 以上	IAMA 法: 1:4 以上 EIA 法 (IgG): 4.0 以上 中和法: 1:4 以上 水痘抗原皮内テスト陽性	EIA 法 (IgG): 陽性	健康診断 胸部レントゲン検査 (直接)で陰性を確認
抗体検査 結果	接種前に既往の場合 抗原 (+ ± -) 抗体 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) EIA 法____	1 年次 年 月 胸部レントゲン検査 直接撮影結果 ()
入学後の ワクチン 接種	接種後 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) ____法____	年 月 年 月 (+ ± -) EIA 法____	2 年次 年 月 胸部レントゲン検査 直接撮影結果 ()
	ワクチン接種日 1 回目 年 月 年 月 2 回目 年 月 年 月 3 回目 年 月 年 月	ワクチン接種日 1 回目 年 月 年 月 2 回目 年 月 年 月	ワクチン接種日 1 回目 年 月 年 月 2 回目 年 月 年 月	ワクチン接種日 1 回目 年 月 年 月 2 回目 年 月 年 月	ワクチン接種日 1 回目 年 月 年 月 2 回目 年 月 年 月	3 年次 年 月 胸部レントゲン検査 直接撮影結果 ()

年 月 日現在

インフルエンザ予防接種	1 年 月 年	2 年 月 年	3 年 月 年
その他予防接種および 感染症の罹患			

・予防接種記録表と病院等での検査結果、ワクチン接種証明等は重要な資料です。各自の責任で必ず保管しておいて下さい。

・参照：医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版

臨地実習ガイドライン

目 次

ガイドライン内容

1. 病理検査学実習	18
2. 臨床検査総論実習	19
3. 血液検査学実習	20
4. 免疫検査学実習	21
5. 輸血・移検査学実習	22
6. 臨床化学実習	23
7. 生理機能検査学実習 画像検査学実習	24
8. 微生物検査学実習	25
9. 施設見学実習希望内容	27

実習名	病理検査学実習
担当教員	
目 標	医療現場における病理検査の意義と役割、病理医や臨床検査技師の業務について認識を深め、病理検査の内容および検査技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病理検査の対象となる検体の種類を学習する。 2) 病理組織検査の方法と技術を習得する。 3) 病理細胞検査の方法と技術を習得する。 4) 検査機器の種類とその使用法および保守点検について学習する。 5) 病理解剖の意義について学習し、見学する。 6) 標本の保存と管理について学習する。 7) 病理検査におけるバイオハザード対策について理解する。
実習項目	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受付 検体の受付、写真撮影、パソコン入力または台帳記入の見学と実習 2) 組織標本作製 切り出しの実際、切り出し部位の記録、写真撮影 固定法、固定液、容器、時間、固定の実際 脱灰法、脱灰液、容器、時間、脱灰の実際 包埋法、自動包埋装置の使用法 ミクロトームによる薄切、パラフィン切片の作製 各種染色工程（脱パラ、染色、脱水、透徹、封入）と使用試薬作製 各種染色法（hematoxylin eosin 染色、elastica van Gieson 染色、azan 染色、 鍍銀法、PAS 反応、AB 染色、orcein 染色、Victoria blue 染色、 免疫組織化学染色 etc.） 各種染色結果の判定 3) 細胞診 検体処理法、染色法、スクリーニングと診断法 4) 術中迅速診断 クリオスタットの構造と薄切法、染色法 5) 腎生検 検体採取法、固定法、染色法、蛍光抗体法と蛍光顕微鏡観察 電子顕微鏡による検索の意義について学習する 6) 病理解剖 遺体と遺族に対する敬意の念、執刀者と介助者の役割、剖検に必要な機器、 解剖の方法、解剖後の処置、解剖室の清掃、機器類の洗浄と消毒、病理組織標 本作製、バイオハザード対策 7) 標本の保存と管理 依頼書、診断書、写真のファイル、切り出し後の臓器、パラフィンブロック、 顕微鏡標本、データファイル、電子カルテ 8) その他 試薬の管理、廃棄物の処理

実習名	臨床検査総論実習
担当教員	
目 標	臨床検査に関する知識をもち、臨床検査データを総合的に評価し、患者の病態把握、解析ができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 尿、便、脳脊髄液、穿刺液、精液、その他の検体の意義、検査法を理解できる。 2) 尿沈渣、便、脳脊髄液、穿刺液、精液を実際に鏡検し、代表的所見を理解できる。 3) 尿自動分析装置を見学し、原理を理解できる。 4) 尿蛋白、尿糖、便潜血反応などの測定原理を理解し、実際に測定できる。 5) その他 採血の方法と技術を習得できる。
実習項目	<ol style="list-style-type: none"> 1) 尿検査 自動分析装置の見学と検査の意義および測定原理の理解 尿定性・定量検査の実際 (pH、蛋白、ブドウ糖、ビリルビン、ケトン体、ウロビリノゲン、亜硝酸塩、潜血、白血球) 尿沈渣の標本作製法および鏡検 妊娠反応 2) 脳脊髄液検査 一般性状、細胞数算定、生化学検査など 3) 穿刺液検査 一般性状、細胞数算定、生化学検査など 4) 便検査 潜血反応、虫卵検査など 5) 精液検査 細胞数算定、運動率など 6) 採血

実習名	血液検査学実習
担当教員	
目標	1) 臨床における血液検査業務の重要性と意義を理解する。 2) 臨床における血液検査業務に必要な手技を習得する。
到達目標	1) 安全な採血手技と採血後の適切な検体処理を習得する。 2) 血液形態標本を作製し、疾患の形態学的特徴を把握する。 3) 自動血液検査装置の原理、構成および操作法を用手法と比較し学ぶ。 4) 各検査の臨床的意義と評価を把握する。 5) 血液検査における精度管理法について学ぶ。 6) 血液検査結果の報告と的確な臨床支援の方法を学ぶ。
実習項目	<p>概要</p> <p>臨地施設で実施されている検査で、学内実習でできないものを優先しながら実習効果の上がるものを任意に選択し、見学や実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種自動血液検査装置の原理と構成 血球計数装置、血球分類装置、網赤血球測定装置、血液凝固測定装置、血小板凝集能測定装置、フローサイトメーター 2) 血球数算定 赤血球数、白血球数、血小板数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、赤血球指数、網赤血球数 3) 血液形態検査 塗抹標本作製、普通染色、特殊染色 (MPO、EST、PAS、鉄染色、NAP) 末梢血液像観察、骨髓標本作製 (薄層、圧挫)、骨髓像観察 (採取見学を含む) 4) 溶血検査 赤血球浸透圧抵抗試験、Ham 試験 5) 止血検査 血小板機能検査 (凝集能、粘着能)、凝固検査 (PT、APTT、トロンボテスト、ヘパラスチンテスト、フィブリノゲン量)、毛細血管抵抗試験、出血時間、線溶検査 (FDP、D-dimer) 6) 血液細胞抗原検査 リンパ球サブセット、造血器腫瘍細胞 7) 染色体検査 検体処理、細胞培養、標本作製、G 分染法、染色体異常標本の観察 8) その他 寄生虫検査など

実習名	免疫検査学実習
担当教員	
目標	免疫検査に関する知識をもち、臨床検査データを総合的に評価し、患者の病態把握、解析ができる。
到達目標	1) イムノアッセイの自動分析装置を見学し、原理を理解できる。 2) 免疫検査の意義、種類、方法を理解できる。 3) 免疫検査法の原理を理解し、実際に測定できる。 4) 検査結果から病態把握、病気を推測できる。
実習項目	1) イムノアッセイ 免疫自動分析装置の見学と検査の意義を理解 2) 沈降反応 免疫電気泳動法、二重免疫拡散法 (Ouchterlony 法) など 3) 赤血球凝集反応 寒冷凝集反応、ポール・バネル反応など 4) RF 因子測定 RAPA テストなど 5) 感染症検査 梅毒検査：RPR カードテスト、TPHA テストなど 肝炎検査：HBs・Ag、HBs・Ab の検出など 6) 抗核抗体検査 間接蛍光抗体法による抗核抗体の検出と判定 7) その他 補体価の測定 (CH50 法)、抗サイログロブリン抗体、抗マイコプラズマ抗体検出など

実習名	輸血・移植検査学実習
担当教員	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 病院における輸血業務の重要性と意義を理解する。 2) 輸血業務の実態、特に臨床検査技師の行うべき業務を習得する。 3) 輸血に必要な検査手技を習熟し、輸血事故防止に役立てる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 輸血部における輸血検査の実態を理解できる。 2) 血液製剤の種類別に、伝票と血液製剤の流れ（搬入と搬出）を学び、血液製剤請求方法を習得できる。 3) 血液製剤の種類による保存法を知る。 4) ABO 式、Rh(D) 式血液型検査を習得できる。 5) 不規則性抗体の検出・同定法を習得できる。 6) 交差適合試験を行い、輸血適否の判定方法を習得できる。
実習項目	<ul style="list-style-type: none"> 1) 血液型検査 <ul style="list-style-type: none"> ABO 式血液型（おもて検査、うら検査）、スライド法、試験管法 Rh(D) 式血液型（おもて検査）、スライド法、試験管法 2) 不規則性抗体 <ul style="list-style-type: none"> 生食法、プロメリン法、間接抗グロブリン試験法 3) 交差適合試験 <ul style="list-style-type: none"> 主試験、副試験、結果の解釈 4) 血液製剤 <ul style="list-style-type: none"> 赤血球濃厚液（赤血球 MAP）、全血、血小板濃厚液、新鮮凍結血漿の取り扱い方法と保存法を学ぶ。 5) 輸血副作用 <ul style="list-style-type: none"> 血管内容血、血管外溶血、輸血後 GVHD、血液製剤、放射線照射装置、感染症について理解する。 6) その他 <ul style="list-style-type: none"> 赤血球浮遊液作製、生理食塩水作製、直接抗グロブリン試験、吸着解離試験

実習名	臨床化学実習（生物化学分析検査法）
担当教員	
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床検査における生化学検査の特徴・意義を理解する。 2) 生化学検査における臨床検査技師の業務を認識する。 3) 生化学検査の内容を理解し、検査に必要な手技を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生化学検査の実施項目を理解し、検査の実際を学ぶ。 2) 検査室での検査項目の依頼から検査実施・報告までの流れを理解する。 3) 検体の採取から保存までの一連の技術とその注意点を理解し、検体の大切さを実感する。 4) 検査室における器具・機器の基本的操作や保守管理の方法を学ぶ。 5) 全自動化学分析装置の概要（検査項目の種類・原理）とコンピューターによる検査結果処理法について学ぶ。 6) 検査データの整理、精度管理などの検査管理技術を学ぶ。 7) 臨床検査項目と疾患との関連を理解し、各検査の臨床的意義を把握する。 8) 検査室の危機管理対策（感染防止など）について学ぶ。 9) 検体検査の背後に存在する被検者に対する責任を自覚する。
実習項目	<ol style="list-style-type: none"> 1) 検体の受付、整理、分配や結果の報告などの検体検査の流れの見学 2) 各検査項目に応じた検査の採取や処理（血清／血漿分離など）、保存の実習 3) 全自動化学分析装置 （糖質、蛋白質、脂質、非蛋白性窒素化合物、酵素、電解質など） 4) その他の専門分析装置（蛋白電気泳動、HbA1c：HPLC、血液ガスなど） 5) 薬物検査 6) ホルモン検査 7) 機能検査（肝臓：ICG 試験・腎臓・PSP 試験／クリアランス試験など） 8) 精度管理の方法 （相関係数、標準偏差、同時再現性、希釈直線性、添加回収試験など） 9) 疾患ごとにオーダーされる検査項目のセットの把握と臨床的意義の理解 10) 誤った検体処理の影響（溶血検体の検査結果に与える影響など） 11) 患者検体からの感染防止策と医療廃棄物処理方法 12) 分析装置の保守点検

実習名	生理機能検査学実習、画像検査学実習
担当教員	
目 標	<p>臨地実習の学習目標は次の3点を基本とする。</p> <p>1) 患者接遇 2) 病院での検査の進め方 3) 臨床症例</p>
到達目標	<p>1) 生理・画像検査部における検査の実態を理解する。</p> <p>2) 検査依頼、予約から報告までの流れを理解する。</p> <p>3) 被験者の心理を考察し、応対や注意点を習得する。</p> <p>4) 各検査の目的と方法、検査時の注意点を習得する。</p> <p>5) 代表的な異常データの解析を習得する。</p> <p>6) 緊急時の対応について習得する。</p>
実習項目	<p>見学学習を主体とし、実習は学生同士で行うものとする。実習検査項目は心電図、肺機能、脳波、腹部超音波、心臓超音波等、施設側の選択により2項目以上とする。また、患者接遇の見学、各検査における準備や後始末、パニック値や緊急時の対応を学習する。主な学習内容は下記の通りとする。</p> <p>1) 心電図</p> <p> 検査の見学と症例の見学により、心電図波形の読解力を養う（期外収縮・頻脈・心房細動粗動・洞房ブロック・房室ブロック・脚ブロック・WPW症候群・負荷肥大・狭心症・心筋梗塞等）。運動負荷試験やホルター心電図の目的や方法などの学習と見学。</p> <p>2) 呼吸器系</p> <p> 被験者への説明と掛け声の仕方を見学、検査の目的と検査結果の見方、閉塞性、拘束性、混合性換気障害の症例の学習。血液ガス。</p> <p>3) 脳 波</p> <p> 検査の進め方と導出法の組合せ、記録中の注意、各種賦活法などを見学、睡眠波形や異常波形の学習。</p> <p>4) 腹部超音波</p> <p> 上腹部（肝・胆・膵・腎・脾・腹部血管）を中心に、プローブの走査手順・呼吸指示などの検査の実践を見学。また、嚢胞・腫瘍・結石などの代表的な症例写真を教材にして、スケッチ・超音波所見・正常例との比較などをレポートとして作成。</p> <p>5) 心臓超音波</p> <p> 院内での症例を中心に、プローブ操作手順・適用するドプラ計測などの検査の実践を見学。また、代表的な症例写真を教材にして、スケッチ・超音波所見・正常例との比較などをレポートとして作成。</p> <p>6) その他</p> <p> 血管エコー、体表臓器エコーなどの基本的な走査方法や症例について見学学習。末梢神経伝導検査、聴力検査、平衡機能検査、眼底検査の見学学習。</p>

実習名	微生物検査学実習
担当教員	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 検査に必要な機械・器具の準備・操作・管理などの技術を学ぶ。 2) 検査に必要な検体の受付、採取、保存から報告までの技術と検体の重要性を理解する。 3) 検査データの管理や精度管理などの微生物検査管理技術を理解する。 4) 検査における感染症予防対策および検体等医療廃棄物廃棄に関する処理方法を理解する。
到達目標	<p>微生物検査の特徴と臨床検査における役割を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種検査材料から菌の検出および同定。 <ul style="list-style-type: none"> ・検査材料の品質評価、前処理法が理解できる。 ・標本を作製し、鏡検することができる。 ・分離培地を選択し、塗抹・培養することができる。 ・分離培地を観察し、コロニーの選別および確認培地の使用法が理解できる。 ・菌に応じ、血清学的検査を行うことができる。 ・確認培地の判定および菌の同定を行うことができる。 ・検出菌の評価を行うことができる。 2) 検出菌について疾患とその関係を説明できる。 3) 薬剤感受性検査を実施して、薬剤の有用性を評価できる。 4) 多剤耐性菌について説明できる。 5) 検体の保存法について理解できる。
実習項目	<p>実習内容</p> <p>各実習施設で実施されている項目について、実習や見学を行うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査装置の説明：自動菌種同定装置、薬剤感受性測定装置など 2) 滅菌と消毒：種類と方法 3) 染色および鏡検：グラム染色、チール・ネールゼン染色、ウィルツ法、ヒメネス染色、ラクトフェノール・コットン青染色、墨汁染色、(鞭毛染色) 4) 培地の種類と作製：種類と用途、作製法 5) 培養方法：好気培養、炭酸ガス培養、嫌気培養、微好気培養 6) 各種検査材料からの起因菌検査 <ul style="list-style-type: none"> ・尿路・生殖器感染症：尿、尿道・膣分泌物 ・気道感染症：喀痰、咽頭粘液・鼻腔液 ・消化器感染症・食中毒：糞便、胆汁、胃液 ・表在性および深在性化膿症：膿、カテーテル ・敗血症：血液、穿刺液 ・抗酸菌の検出と同定 7) 薬剤感受性検査法：ディスク拡散法、希釈法 (MIC、MBC)、β-ラクタマーゼテス

	<p>ト、薬剤耐性菌（MRSA、VRE、PRSP、PISP、BLNAR、MDRP、ESBLs、メタロ-β-ラクタマーゼ産生菌）</p> <p>8) その他の検査：真菌検査法、免疫学的検査法、遺伝子検査法</p> <p>9) 各種迅速診断法の習得と緊急検査への対応</p> <p>10) 各検査の臨床的意義と評価</p> <p>11) 院内感染防止対策（スタンダードプレコーション：標準予防対策）および院内感染対策報告の在り方</p> <p>12) その他：器具の洗浄など</p>
--	---

施設見学実習希望内容

検査室以外の病院内のさまざまな部署、施設の見学実習を可能な範囲でお願いします。

例 手術室
薬局
給食室
透析室
受付
病歴室
情報センター
電子カルテ
放射線科
内視鏡室
リハビリセンター
病棟（採血、細胞診、骨髄穿刺） etc.

平成 28 年度

高知学園短期大学 医療衛生学科 医療検査専攻

宣誓式



日時 平成 28 年 4 月 2 日(土) 14:00 開式

場所 高知学園短期大学 7 号館 2 階 大講義室

平成 29 年度

高知学園短期大学 医療衛生学科 医療検査専攻

宣誓式



日時 平成 29 年 4 月 8 日(土) 14:00 開式

場所 高知学園短期大学 7 号館 2 階 大講義室

平成30年度

高知学園短期大学 医療衛生学科 医療検査専攻

宣誓式



日時 平成30年4月7日(土) 14:00開式

場所 高知学園短期大学7号館2階 大講義室

高知学園大学自己点検評価委員会規程

(設置)

第1条 本学の学則第2条第2項に基づき、教務部に自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議内容)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検評価の基本方針に関すること。
- (2) 自己点検評価項目の設定に関すること。
- (3) 自己点検評価の実実施計画に関すること。
- (4) 自己点検評価実施の総括に関すること。
- (5) 自己点検評価結果の集約に関すること。
- (6) 自己点検評価結果の報告書に関すること。
- (7) 認証評価機関による外部評価に関すること。
- (8) その他、自己点検評価に関する必要事項。

(報告書)

第3条 自己点検評価委員会がとりまとめた、自己点検・評価の報告書案は作業連絡会が調整を行い、自己点検評価検討会議の審議を経て、その結果を全教職員に公開する。

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学科長が推薦する者1名
- (3) その他学長が指名する事務職員等

第5条 委員会は必要に応じ、各学科・各部署に自己点検・評価を要請することとする。

(任期)

第6条 委員は学長が委嘱し、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第7条 委員会の委員長は、教務部長をもってあてる。

2 委員長は必要に応じ委員会を開催し、これを主宰する。

(会議の成立等)

第8条 委員会は、委員の過半数の出席（委任状提出者を含む。）をもって成立する。

2 委員長は必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は教務課においてこれを行う。

附 則

- 1 この規程は、平成32年4月1日から施行する。

高知学園大学自己点検・評価作業連絡会規程

(設置)

第1条 本学に自己点検・評価に関する作業連絡会を置く。

(審議内容)

第2条 会議では、次の号に掲げる事項を審議する。

自己点検評価委員会がとりまとめた自己点検・評価の報告書案に関すること。

(組織)

第3条 会議は、次の号に掲げる職にある者をもって構成する。

(1) 副学長

(2) ALO

(3) 学生部長

(4) 教務部長

(5) 情報企画部長

(6) 事務局長

(7) 課長

(8) その他学長が指名する者

(任期)

第4条 委員は学長が委嘱し、任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(議長)

第5条 作業連絡会の議長は、ALOをもってあてる。

議長は必要に応じて作業連絡会を開催し、これを主宰する。

(会議の成立等)

第6条 会議は委員の過半数の出席（委任状提出者含む。）をもって成立する。

第7条 議長は必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

(事務)

第8条 会議の事務は、教務課においてこれを行う。

附 則

1 この規定は、平成32年4月1日から施行する。

高知学園大学自己点検評価検討会議規程

(設置)

第1条 本学に自己点検評価検討会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議内容)

第2条 会議では、次の号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価に関する作業連絡会がとりまとめた自己点検・評価の報告書案に関すること。
- (2) 自己点検評価結果の公表に関すること。

(組織)

第3条 会議は、次の号に掲げる職にある者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学生部長、教務部長、情報企画部長、図書館長
- (4) 学科長
- (5) 事務局長
- (6) 課長
- (7) その他学長が指名する者

(任期)

第4条 委員は学長が委嘱し、任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(議長)

第5条 学長は、必要に応じて会議を招集し、その議長となる。

(会議の成立等)

第6条 会議は委員の過半数の出席（委任状提出者含む。）をもって成立する。

第7条 議長は必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

(事務)

第8条 会議の事務は、教務課においてこれを行う。

附 則

- 1 この規定は、平成32年4月1日から施行する。

高知学園大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

（設置）

第1条 本学の学則第3条第2項に基づき、教務部にファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議内容）

第2条 委員会では、本学教員の授業内容及び方法の改善のために、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1）FD活動の企画、実施計画の立案に関する事。
- （2）FD活動の評価に関する事。
- （3）FD活動に関する情報の収集と提供に関する事。
- （4）その他FD活動に関する事。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- （1）教務部長
- （2）各学科長が推薦する者1名
- （3）その他学長が指名する者

（任期）

第4条 委員は学長が委嘱し、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長）

第5条 委員会の委員長は、教務部長をもってあてる。

2 委員長は必要に応じ委員会を開催し、これを主宰する。

（会議の成立等）

第6条 委員会は委員の過半数の出席（委任状提出者を含む。）をもって成立する。

2 委員長は必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

（事務）

第7条 委員会の事務は教務課においてこれを行う。

附 則

- 1 この規程は、平成32年4月1日から施行する。

高知学園大学スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会規程

（設置）

第1条 本学の事務職員の資質の向上等を図るためスタッフ・ディベロップメント（SD）委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議内容）

第2条 委員会では、本学事務職員の職能開発等のために、次に掲げる事項を審議し、必要に応じて学長の承認を得てこれを実施するものとする。

- （1）SD活動の企画、実施計画の立案に関する事
- （2）SD活動の評価に関する事
- （3）SD活動に関する情報の収集と提供に関する事
- （4）その他SD活動に関する事

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- （1）事務局長
- （2）学生部長、教務部長、情報企画部長
- （3）事務局各課課長
- （4）事務局各課係長
- （5）その他学長の指名する者

2 委員会は職能開発等の企画・研究するためのワーキンググループを必要に応じて置くことができる。

（委員長）

第4条 委員会の委員長は、事務局長をもってあてる。

2 委員長は必要に応じ委員会を開催し、これを主宰する。

（会議）

第5条 委員会は委員の過半数の出席（委任状提出者含む。）をもって成立する。

2 委員長は必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

（事務）

第6条 委員会の事務は教務課においてこれを行う。

附 則

1 この規程は、平成32年4月1日から施行する。

高知学園大学就職委員会規程

(設置)

第1条 本学の学生部に就職委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議内容)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 学生の就職指導・支援に関すること
- (2) 求人活動に関すること
- (3) その他学生の就職に関すること

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生部長
- (2) 学科長が推薦する者1名
- (3) その他学長が指名する事務職員等

(任期)

第4条 委員は学長が委嘱し、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会の委員長は、学生部長をもってあてる。

2 委員長は必要に応じ委員会を開催し、これを主宰する。

(会議の成立等)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席（委任状提出者を含む。）をもって成立する。

2 委員長は、必要に応じ委員以外の教職員を出席させることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は学生支援課においてこれを行う。

附 則

1 この規程は、平成32年4月1日から施行する。

CATCH
DREAM

過去のあなたは現在のあなたの布石。そして現在のあなたも、
未来のあなたの布石です。

あなたの思い、あなたの行動が未来のあなたにつながって
います。

幼少期から思春期、そして青年期を経て、人は成人として人
間形成を行います。

身長伸び、筋肉の発達、運動能力の向上など身体的発達は、
食べ物から摂取する栄養、適度な運動から得られます。

ではココロの成長はどのように行われるのでしょうか？

それは他者、モノ、出来事などの外的刺激や自らの思考や自
己研鑽による能力の開発などからです。

1. **対人力** →主張力や否定力、傾聴力や統率力と表現することができる、他社とのコミュニケーションに関するスキル。
2. **対課題力**→分析力や計画力、確動力など、仕事の処理対応に関するスキル。
3. **対自分力**→忍耐力や慎重性、持続力など自分自身をコントロールするためのスキル

特定の業界や職種で
必要なスキル

テクニカル
スキル

時代・業界・職種を
超えて通用する
普遍的なスキル

対人力

対自分力

対課題力

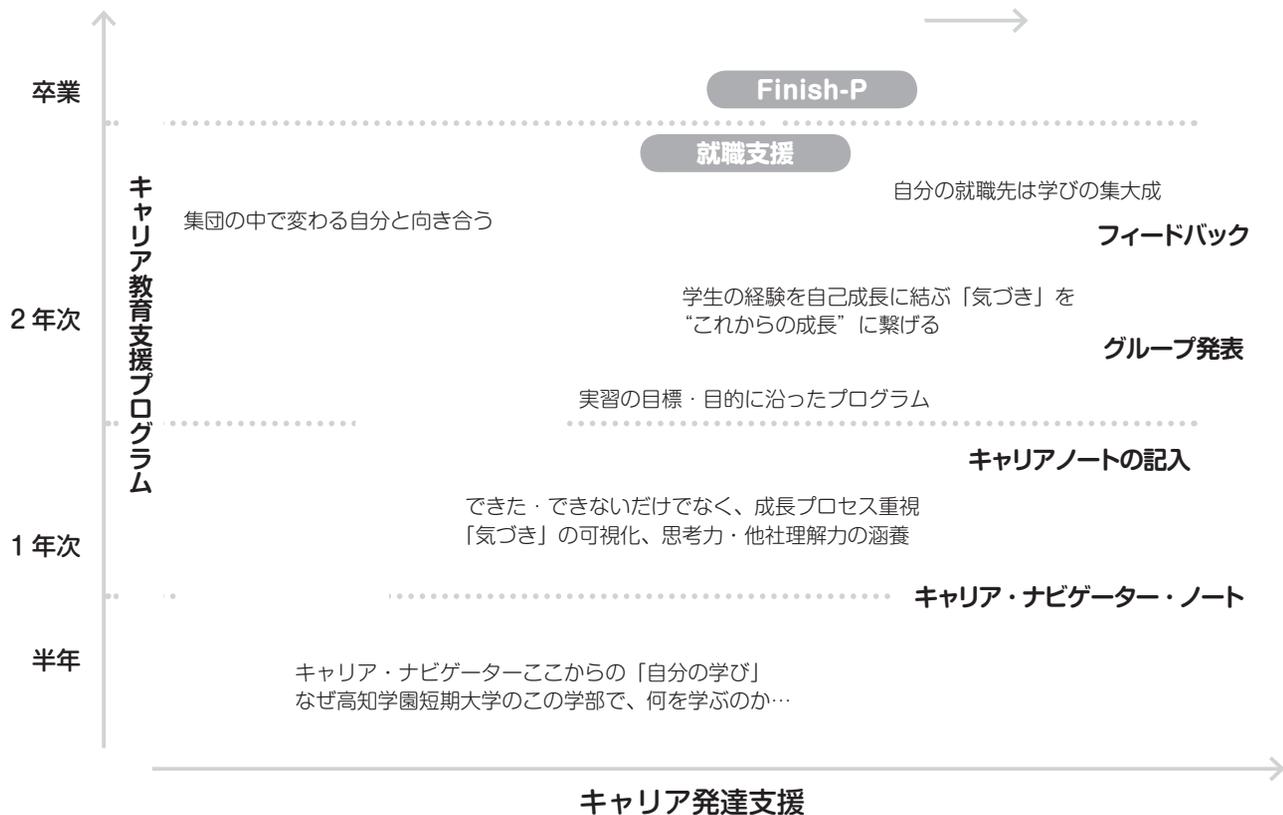
自分のキャリアは
自分で切り開く
という意識の
確立

ポテンシャル／スタンス



あなたはどのような未来の自分をイメージしていますか？
 思いやりやコミュニケーション能力など人として求められる基本的な資質だけでなく、未来の自分、なりたい自分になるために求められるスキルや能力を身につけていきましょう。
 なぜならそれらがあなたのキャリアをより豊かに充実したものにすることが可能となるからです。

さあ、高知学園短期大学での学園生活が始まります。
 大学生活での授業や実習で知識やスキルを身につけると同時に、自分の未来図を描き、今の自分と未来の自分をつないでいきましょう。



この冊子は、あなたの未来が魅力あふれるものにするためのキャリア支援授業のキャリアノートです。

このキャリアノート授業では生まれてからこれまで歩んできたライフストーリーや、あなたが大事にしている価値観や特技等々、様々な視点から「あなた」を大解剖。その後は各自の夢を実現できるよう、具体的な行動計画を立て実行に移します。そして確実に自分の夢を現実のものとしましょう。

更にキャリアノートには先生の講義内容での気づきを書き込んだり、実習などで活用してください。

そして大学生活を送る中で将来について悩んだ時はこのキャリアノートを読み返しましょう。

本キャリアノートを「夢」というゴールを目指すランナーの「あなた」に伴走するパートナー的な存在としてください。夢を実現した人は、夢の実現の障害が何かを知って、それを取り除く行動をしている人です。

そして、夢を実現するためには、「思い」を「言葉」にするという行為が大切です。

このキャリアノートは「思考力」「言語力」「行動力」が身に着くために支援するキャリアノートです。

- 06 Q1 大学での学びの目的は？
- 07 Q2 卒業時、どのような目標を達成していきたいですか？
- 08 Q3 過去の自分をフィードバック
- 10 Q4 大事にしていることは何ですか？
- 11 Q5 何に興味がありますか？
- 12 Q6 できること、得意なこと
- 13 Q7 他社ができること・得意なこと
- 14 まとめ／価値観・興味・能力を整理する
- 16 Should & Must 15 /すべきことは何ですか？
- 17 Can 15 /できることは何ですか？
- 18 Will 15 /やりたいことは何ですか？
- 19 私のできること&すべきこと&したいこと
- 20 実習日誌／日々の生活の記録
- 21 今月のモットー&宣言
- 22 高知学園短期大学での3年間で身につける能力とは？
- 23 自己成長プロセスへの支援





あなたは、なぜこの学校に入学したのですか？

「栄養士の資格を取るため」「将来は臨床検査技師として働きたいから」など専門知識や技術の習得、資格取得など具体的な目的を持って入学されたはず。しかし、単なるスキルや資格を取るだけで実社会で活躍できるわけではないのです。スキルや資格はあくまでも手段。社会人として活躍するためには、その他やらなければならないこと、身につけなければならないことがたくさんあります。それらの必要なものとは何か、考えてみましょう。

では、それらを実現するためにやらなければならないことはどんなことだと思いますか？



●高知学園短期大学への入学目的：

●あなたが考えられる身につけなければならないその他の能力：

●上記の事柄を実現するために行わなければならないこと：



未来のあなたの姿は、突然やってくるわけではありません。昨日、今日、そして明日、未来... 日々の積み重ねが未来のあなたにつながっています。

社会で活躍する私はこんな社会人でありたい... そんな未来のイメージはありますか？

未来の自分の目標を設定し、そこから卒業する時点で何が求められるかを考えてみましょう。



●**達成した目標（具体的に書いてみましょう。例えばコミュニケーションスキル、問題解決能力、タイムマネジメント）：**

●**目標を達成するために求められるもの：**



生まれてから今までの自分自身を振り返れば、自己理解が深まります。

あなたはどんな子ども時代を過ごしたのでしょうか？

ここで改めて自分のライフヒストリーをひもといていきましょう。

どのような出来事があり、何を感じていたのか... その時々を思い返し、あなたを形作ってきたあなたを見つめてください。



● 0歳から6歳まで

どこで生まれたの？

家族構成は？

どんな幼児期を過ごしたの？（写真を見たり、家族からも聞いてみましょう）

● 7歳から12歳まで

好きだった遊びは？

得意科目は？

苦手科目は？

小学校の思い出深い出来事は？

うれしかったこと：

悲しかったこと：

将来の夢は？影響を受けた人・出来事など

● 13 歳から 15 歳まで

得意科目は？

苦手科目は？

クラブ活動：

興味があったこと・熱中したこと：

クラス（または友人）の中でのあなたの役割は？

中学校生活での思い出深い出来事は？

成功体験：

挫折体験：

将来の夢は？影響を受けた人・出来事など

● 16 歳から 18 歳まで

得意科目は？

苦手科目は？

クラブ活動：

興味があったこと・熱中したこと：

クラス（または友人）の中でのあなたの役割は？

高校生活での思い出深い出来事は？

成功体験：

挫折体験：

将来の夢は？影響を受けた人・出来事など



生きていくうえで、自分の価値観を自分が理解することが大事です。
価値観を知るということは、様々なことを決める選択の羅針盤となります。また、価値観は人によってそれぞれです。貴方の一番大事なものがひとにとっては、違うかもしれません。
また、価値観は変化します。
この価値観の変化は学園在学中に年に一度は自分で確認してください。

あなたはどのようなことを大事にしていますか？最優先することは何ですか？
これこそ、生き方を大きく左右する核となる考えです。



●個人的に大事にしたいことは？

●なぜ、そのように思うのですか？

●仕事をする時、大事にしたいことは？

●なぜ、そのように思うのですか？

●社会において大事にしたいことは？

●なぜ、そのように思うのですか？



人の特性を推し量る一つとして、興味や関心事があります。

仕事にかぎらず、プライベートでは、趣味や映画、本などどんなことに興味がありますか？
また、興味が持てないことについても考え、自分の内面を深く掘り下げていきましょう。



●具体的にあげてみましょう。(例：ファッション、カラオケ、料理)

●興味を持った理由は何ですか？

●逆に興味がないことは何ですか？

●なぜ興味を持たないのか考えてみましょう。



人は成長に伴い、得意なことも明確になってきます。今のあなたはどのようなことが得意ですか？

これはあなたの強みとなるので、これからも伸ばしていきましょう。

逆に苦手なこと、今欠けていることはどのようなことですか？その点を補っていきましょう。

社会で求められる能力

周りの人に提案・説得できる能力。相手の話を聞き、理解する力も求められる。

周囲の動きを敏感に察知し、ニーズを把握。そして自らニーズに即したアイデアを出して実行していく力。

自分の意見を相手に伝えられ、また相手の意見も聞くことができる能力。

問題や課題に対して、情報収集や現状分析を行い、解決する能力。冷静かつ迅速な意思決定も求められる。

とっさの判断でアクシデントを回避する対応や発想ができる能力。柔軟性や冷静さを兼ね備えている。

苦情が来た時に対応できる力。嫌な事にも前向きに取り組んだり、相手の不満を解消し、信頼関係を構築できる。

柔軟性があり、自分に足りない部分を学ぶ力。人の意見を受け入れられる素直さがある。

周囲の状況を判断して行動したり、先が予想できる力。

論理思考力、指導力など



●現在、得意なことをあげてみましょう。

●では、あなたに欠けているものは何ですか？

先に掲げた【社会で求められる能力】を参考に考えてみましょう。

●不得意なこともあげてみましょう。

●それを改善するためには何をしたらよいでしょう？



あなたの周りの人はどのような能力を持っているのでしょうか？他者の能力を知ること、自分の不足部分のヒントを得られたり、新しい発見や刺激を受けられるはずです。



●取材対象者は？

どのような能力を持っていましたか？

●取材対象者は？

どのような能力を持っていましたか？

●取材対象者は？

どのような能力を持っていましたか？

●インタビューを終えて、感じたこと・自分の課題は？

これまで取り組んできたワークを通して、「あなた」はどのような人物なのかがわかってきましたか？ 共通する言葉や考え方はありませんでしたか？

ここで改めて価値観・興味・能力に分けて「あなた」の内面を整理してみましょう。

●私の価値観：行動や判断の根拠となる個人が持つ指標

私はプライベートで（ ）を大切にしている。だから（ ）していきたい。

↑個人的価値観：自由、家族、時間など個人のライフスタイル、生き方で大切にしたいと思うこと。

例：私はプライベートでは家族を大切にしている。だから休みの日は家族とのコミュニケーションを心がけている。

私は社会において（ ）が重要だと考えている。だから（ ）していきたい。

↑社会的価値観：仕事、金銭、自立など社会生活を送る上で大切にしたいこと。

私は（ ）を仕事で活かしたい。だから（ ）という職業に魅力を感じる。

私は仕事において（ ）や（ ）を求めている。

私は企業に対して（ ）や（ ）を求めている。

↑労働的価値観：仕事のやりがい、手応え、成長など仕事をする上で大切にしたいこと。

例：私は仕事に対して、仕事の達成感や自己成長を求めている。

●私の興味：仕事以外の趣味やし好などは自分の個性や特徴の一端を形成している要素

私は（ ）や（ ）に興味がある。

その理由は（ ）だからだ。

私は（ ）には興味を持ってない。

それは（ ）という理由だからだ。

●私の能力：コミュニケーション力、協調性、問題解決力など日常生活で培った能力

私は（ ）が得意だ。

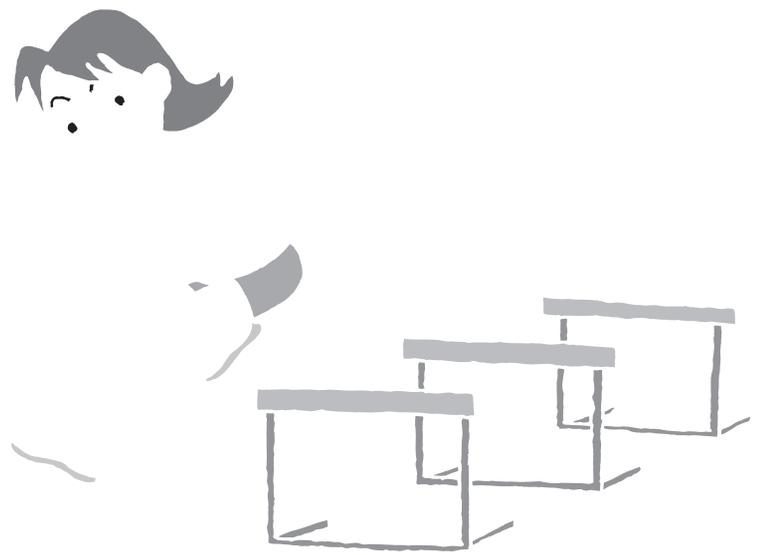
具体的には（ ）ができる。

私は（ ）が苦手だ。

（ ）を改善したい。

私は（ ）が得意になりたい。

そのために（ ）をするつもりだ。



今、あなたがやらなければならないこと、将来やるべきことを具体的に 15 個掲げましょう。

なぜそれをやらなければならないのか、理由も明確にしてください。

(先生や家族、友人にも説明できるよう、論理的に考えましょう。)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

自分ができること・得意なことを具体的に 15 個掲げましょう。
好きでできることだけでなく、嫌いでもできることでも OK です。
なぜできるのか、その理由も明確にしてください。
(先生や家族、友人にも説明できるよう、論理的に考えましょう。)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

今やりたいこと、将来やりたいこと、一生をかけてやりたいことを具体的に 15 個掲げましょう。

なぜそれをその時点でやりたいのか、その理由も明確にしてください。

(先生や家族、友人にも説明できるよう、論理的に考えましょう。)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

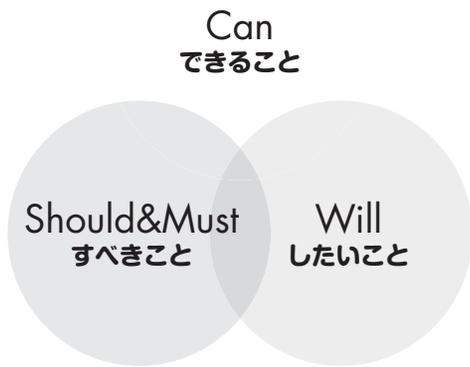
13

14

15

P16 ~ 18 であなたが掲げた事柄について、さらにそれぞれ5つに絞りましょう。

●価値観・スタンス：



- | | |
|-------|---|
| | 1 |
| | 2 |
| できること | 3 |
| | 4 |
| | 5 |
| | 1 |
| | 2 |
| すべきこと | 3 |
| | 4 |
| | 5 |
| | 1 |
| | 2 |
| したいこと | 3 |
| | 4 |
| | 5 |

実習の要約

実習で得た知識・経験

次回までの課題

キャリアへ繋げる発見

自己評価

●実習の振り返りと自己評価表

	非常に 自信がある	自信が ある	少し 自信がある	どちら でもない	あまり 自信がない	自信が ない	非常に 自信がない
Q1 事前に与えられた課題や予習を確実にこなす	1	2	3	4	5	6	7
Q2 事前に不得意科目を克服し、自分で実習での計画をたてる	1	2	3	4	5	6	7
Q3 実習中、自らの役割を理解して、実行する	1	2	3	4	5	6	7
Q4 実習中に自分から質問し、考えを述べる	1	2	3	4	5	6	7
Q5 実習中、仲間の進捗状況を把握しながらすすめる	1	2	3	4	5	6	7
Q6 さまざまな機会を見つけて、分からないことを先生に質問する	1	2	3	4	5	6	7
Q7 指示された事柄を守って、実習記録をつける	1	2	3	4	5	6	7
Q8 自分にとって、使いやすく、分かりやすいノートを独自につくる	1	2	3	4	5	6	7
Q9 課題を見つけて、これからの実習に活かすようにする	1	2	3	4	5	6	7
Q10 実習目的、目標が分かっている	1	2	3	4	5	6	7

月

今月の重点目標

具体的に進める事柄と、
やり方・進め方

結果・反省・対策

やることリスト
(やりたいこと、
目標を書きましょう)

今週の成果
(気づき・出来事・感謝・
学び・感じた事などを
書きましょう)

・ 結果

・ 反省

・ 対策

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

○ひらめいたアイデア ○良かった出来事 ○心に強く想ったこと ○情報メモ ○私の決意 等

能力

●自分で考え

●自分で考え

●自分で考え

時間

2年目スタート

3年目スタート

4年目スタート

人が成長を遂げる時、このようなプロセスを通過します。

迷いや悩みが生じたら、このプロセスの中でどこに自分がいるのかを再確認してみましょう。

体験する前に見たり、
聞いたり話したりす
る。(外からの刺激を
受ける)

行動に移す。

Try&Challenge!

外からの刺激により、
気づきを受けたり、
発見する。(内面から
の刺激を受ける)

内外の刺激を受けて自分の
考えを確認する。(自分の考
えを決断を外部に発信した
いという気持ちが生じる)

自ら考える。(理解し
ようとしたり、疑問
を抱いたり、否定す
る気持ちが生まれる)

キャリアノートの前篇が終えようとしています。これは、あくまでも貴方の土台を明確にするお手伝いのひとつです。何者にでもなれる無限の可能性を持つ貴方が自信をもって社会と繋がるために、一日一日に自覚を持って生活するためのものです。

貴方はなぜ高知学園短期大学へ入学したのか？

貴方がどのような目的で学ぼうとしているのか？

貴方はどのようなことに興味を持っているのか？

貴方はどんな知識・能力を持っているのか？

貴方は、何を大切に生きていこうとしているのか？

色々な貴方を貴方自身が理解するためにこのキャリアノートを活用してもらいました。

これからは、このノートの後半。いよいよ社会へ旅立つための支援ノートへ移ってきます。

貴方が社会の一員として多くの出会い、能力の発揮。貴方が描く未来の貴方に出会うために必要なことがノートを通して見えてきます。

ノートは、記録するためにあるわけではありません。ノートは考えるためにあります。

ノートのひとつひとつの設問から自分へ問い掛け、そして自分の答えを導きだしてください。

貴方の未来の扉が開きました。



キャリアビジョン・ノート

KOCHI GAKUEN COLLEGE

CATCH the DREAM

就職する前に自分自身で整理しておかなければ社会に伝わらないこと、それは

専門性を広く、深く、高く、そして強く！

あなたが、学んだことをこれからどんな風に活かすかはあなた次第です。

しかし、漠然としていたらせっかく学んだこともどんどん錆ついてしまいます。

まず、あなた自身が自分の専門教科を人に伝えるとしたら、どのようなことを伝えますか？

私は高知学園短期大学の〇〇学科で2年間こんなことを学びました。
それは、社会にとっては
そして、私にとっては、
そして、私はこれからの学びを……

と答えるのですが、なかなかうまくは表現出来ません。

まず、それぞれの観点から、あなたのこれまでの学生生活を振り返ってみましょう。

専門性を広く



あなたは〈 〉科で、最も広めたことは何ですか？



ex. 看護学科の学生の場合：実際に実務に必要なスキルや知識だけでなく、看護を取り巻く労働市場に対する見識を広めました。



それはどのような時に、どのような場所、場面で行いましたか？



ex. 報道やインターネットによる調査、EPAによる外国人看護師が活躍している医療機関への訪問とインタビューによって。



それは具体的にどのようなプロセスで行いましたか？



ex. 国家試験に合格された外国人看護師が働く病院を訪問し、外国人看護師へ来日した理由や日本語の習得や受験勉強、実際に日本で働いた感想などをインタビューしました。

専門性を**深く**.....

Q あなたは〈 〉科で、最も深めたことは何ですか？

A _____

Q なぜそれを深めようと思ったのですか？

A _____

Q それはどのような形で表すことができますか？

A _____

専門性を**高く**.....

Q あなたは〈 〉科で、最も高めたことは何ですか？

A _____

Q なぜそれを高めたいと思ったのですか？

A _____

Q それはどのように実現していくのですか？

A _____

専門性を**強く**.....

Q あなたは〈 〉科で、最も自信を持てたことは何ですか？

A _____

Q それはどのようなプロセスで得ることができましたか？

A _____

Q それはどのような言葉で人に伝えますか？

A _____

Q₅ あなたが5年後、社会や仕事で実現したいことは何ですか？

A

Q₆ そのためにあなたが今からすべきことは何ですか？

A

就職スキルを 身につける

今のあなたは、就職活動をするにはとても無防備。
働くと言っても、その言葉の中にはあなた独自の希望
や、こだわりがあるはず。
どのような職種で働きたいのですか？
どのように働きたいのですか？

誰のために働きたいですか？
将来はどのようになりたいですか？
漠然とした「あなたの働くイメージ」をもっと具体的なもの
にしていきましょう。

そのポイントをしっかりと押さえて、納得のいく就職を実現しましょう。

業界・企業をリサーチする

就職したい職種の基準（就職軸）を定めよう

外的条件 **Q** 選んだ職種に対する親からの影響度はどのくらいありますか？

A

Q

選んだ職種のどこが外的条件で良かったと考えますか？

A

Q

選んだ職種の給与や福利厚生はどのようになっていますか？

A

内的条件 **Q** 誰に対して働きかける仕事ですか？

A

Q

どのようなところに手応えを感じる仕事ですか？

A

Q

どのような達成感がありますか？

A

Q

その仕事の今後の展望は？

A

自己紹介と 自己PR

あなたの特徴と長所を他の人に伝えられますか？
今までの学生生活を通してあなたの中には
たくさんの引き出しが作られてきたはず。
大きな引き出し、小さな引き出し、深い引き出し、浅い引き出し等々……
いろいろな引き出しからどのような要素を取り出して
どのように他の人に見せることができるでしょう？

就職するために避けて通れない面接では
自己紹介と自己PRは欠かせません。
自分らしさを十分に伝えられる、
あなたならではの自己紹介と自己PRをできるようにしましょう。

自分についてわからなくなったら、
これまでのワークや下記のチェック表、
周りの人から受けた評価も参考にしましょう。

自己紹介 (1分半でできるボリュームで)

自己PR (1分半でできるボリュームで)

自己PR チェック表

- 明るく見える
 - 話しかけづらい
 - 一緒にいて楽しい
 - やさしそうに見える
 - 真面目そうに見える
 - 自己中心的そう
 - 暗そうに見える
 - キツそうに見える
 - おとなしそうに見える
 - 怖そう
-
- チャレンジ精神がある
 - 部活動をしている
 - 情報収集ができる
 - 留学したことがある
 - 責任感がある
 - 資格をもっている
 - ボランティア活動をしている
 - アルバイトをしている
 - 独創的なアイデアを考えられる
 - 嫌なことでも前向きに対処できる
-
- 聞き上手である
 - 読書
 - 意見調整ができる
 - 音楽鑑賞・楽器演奏
 - 自分のことが言える
 - スポーツをする(または観戦)
 - 信頼関係を築ける
 - 料理・お菓子作り
 - 絵を描くこと
 - わかりやすく物事を説明できる
 - 映画鑑賞
 - 旅行をすること
 - 公平なものを見方ができる
 - 向上心をもっている
 - 物事を多面的に見ることができる

志望動機を 考える

世の中のいろいろな職種の中で
あなたが実際に就職するのは一カ所だけ。
数多くある就職先の中からその職種をなぜ選んだのか、
それなりの理由があるはずです。
あなただけの理由を明確にできれば、
あなたの働きたい熱意も伝わります。

オンリーワンの理由を見つけましょう。

しかし、その理由を見つけるのは簡単ではありません。
あなたの強みや興味、関心、将来のビジョンなどと、
志望する職種との接点はあるかどうかを意識しながら、
考えてみましょう。

志望する職種	
自分との接点 (強みや興味、関心、 将来のビジョンから)	
あなたと志望先との接点	
上記を他の人に話すことを 意識してまとめてみる	

私のキャリアビジョン

就職活動を行うに当たって、
自分の目標を再認識しましょう。

自分の考えを言葉として持ち、表現しましょう。

自己理解

- 自分の生き方、働き方、強み・弱み
- 自分はどのようにありたいのか？
- 自分が大切にしたい価値観は？
自分の使命は？ 自分の興味は？

キャリアへの意識

- これから得る能力の質的向上（計画）
- 継続して働く意味と、その意志の言語化（表明）

キャリアの目標

- キャリア開発課題とは？
- これからの方向性と到達点

目標達成のための行動化

- 自己啓発行動、自分への未来投資とは？
- タイムマネジメントを考えていますか？

ネットワークの形成

- 社内・外の人脈づくり
- メンター・モデル

何のために働くのか？具体的なイメージの確立

自立して生活するため

- いつまでに？ どのように？

自己能力を発揮するため

- 何を？ どのように？

自分を向上させるため

- どんなことを？ どのように？

社会貢献のため

- 何のために？ どこで？

自分の人生を表現

- そのために必要なこととは？

人はなぜ働くのでしょうか？

それは自分が生きるため、そして自分を活かすため。
まさに、生活なのです。

自立した人間として“生き生き”する。そのために人は自分を活かせる場所を探し求めているのです。

皆さんは強い専門性というスキルを得ました。このスキルを更に活かすためには、きちんとその専門性の活かし方を自分自身で考え、社会に伝えなければなりません。

学ぶ内容は同じであっても、社会に出てその学びを広げ、深め、専門性をより高めていく過程は人それぞれ違ってくるのです。

その経験の積み重ねが本当の強み＝自信となります。皆さんには無限の自信の種があるのです。さあ、豊かな場所でたくさんの恵みを受けながら、人生のすてきな花を咲かせてください。

文責・監修／小島 貴子



学校法人 高知学園

高知学園短期大学

<http://www.kochi-gc.ac.jp>

学 科

専 攻

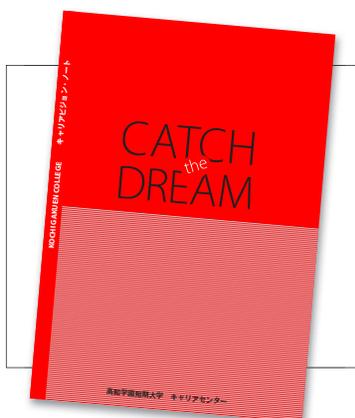
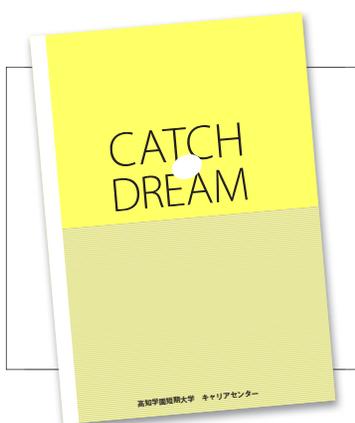
学籍番号

氏 名

CATCH the DREAM

社会人基礎力とキャリア形成力

ガクタン
スタイルで
いこう



すでに取り組んでいる「キャリアデザイン・ノート」、「キャリアビジョン・ノート」を経て、今回の「キャリアチャレンジ・ノート」が社会で活躍できる自分になるための最終章となります。

ピンクの「キャリアデザイン・ノート」は、高校を卒業したあなたが自主的に考え、行動できる専門教育を学ぶ高知学園短期大学生になるためのノートです。高知学園短期大学において密度の濃い学びと実習を経て、高度な専門教育を身につけるための姿勢と意欲を促進し、“自分を知る”ことと“自分の責任で学ぶ”ことを意識できるようにします。このピンクのノートは、あなたの今までとこれからを文字で書き出すことで具体的にしてきました。

ブルーの「キャリアビジョン・ノート」では、学んだことを“伝える”ことができるようになるためのノートです。学んだこと全てが、あなたの土台であり、可能性の糧です。目先の「できる」「できた」だけでなく「わからないこと」に挑み続けた高知学園短期大学での学びの姿勢をあなたの将来へも「伝えられる」ようにします。この問いかけに答えられるのは、あなた以外にいないのです。そして今、改めてこのピンクとブルーのノートと向かい合い、過去の自分を再認識した後に、最終章としてグリーンの「キャリアチャレンジ・ノート」に挑戦してください。

このチャレンジ・ノートの使い方

高知学園短期大学での学びはあなたの大切な礎(いしずえ)です。この素晴らしい礎は色々な形に発展し、可能性を広げるものです。

あなたが生涯にわたっての学習者であり挑戦者となるために、学習以外に1つの基礎を持ちましょう。それが「社会人基礎力」です。

このキャリアチャレンジ・ノートでは、高知学園短期大学が独自に提唱する「4つの基礎力を『キャリア形成基礎力』とし、その活用方法を示しました。

一般的に基礎力は、様々な場面、体験で無意識に使っているのですが、これでは単に基礎力のままです。このノー

トを読み、自分がどのような力を発揮しているのか。どのような力を身につけたいのか？ 身につけたのか？ を理解してください。

また、このノートの社会人基礎力は、これからのあなたの社会人生活の色々なところで役に立つものです。ここに書かれているもの以外にも必要なことがあります。それを探することも大切な基礎力です。言われたこと、書かれていることだけを鵜呑みにするのではなく、まだ見えないもの、知らされていないことも自分自身で探求することが大切です。

まずは、このチャレンジ・ノートであなたの基礎力を再認識してください。

CONTENTS

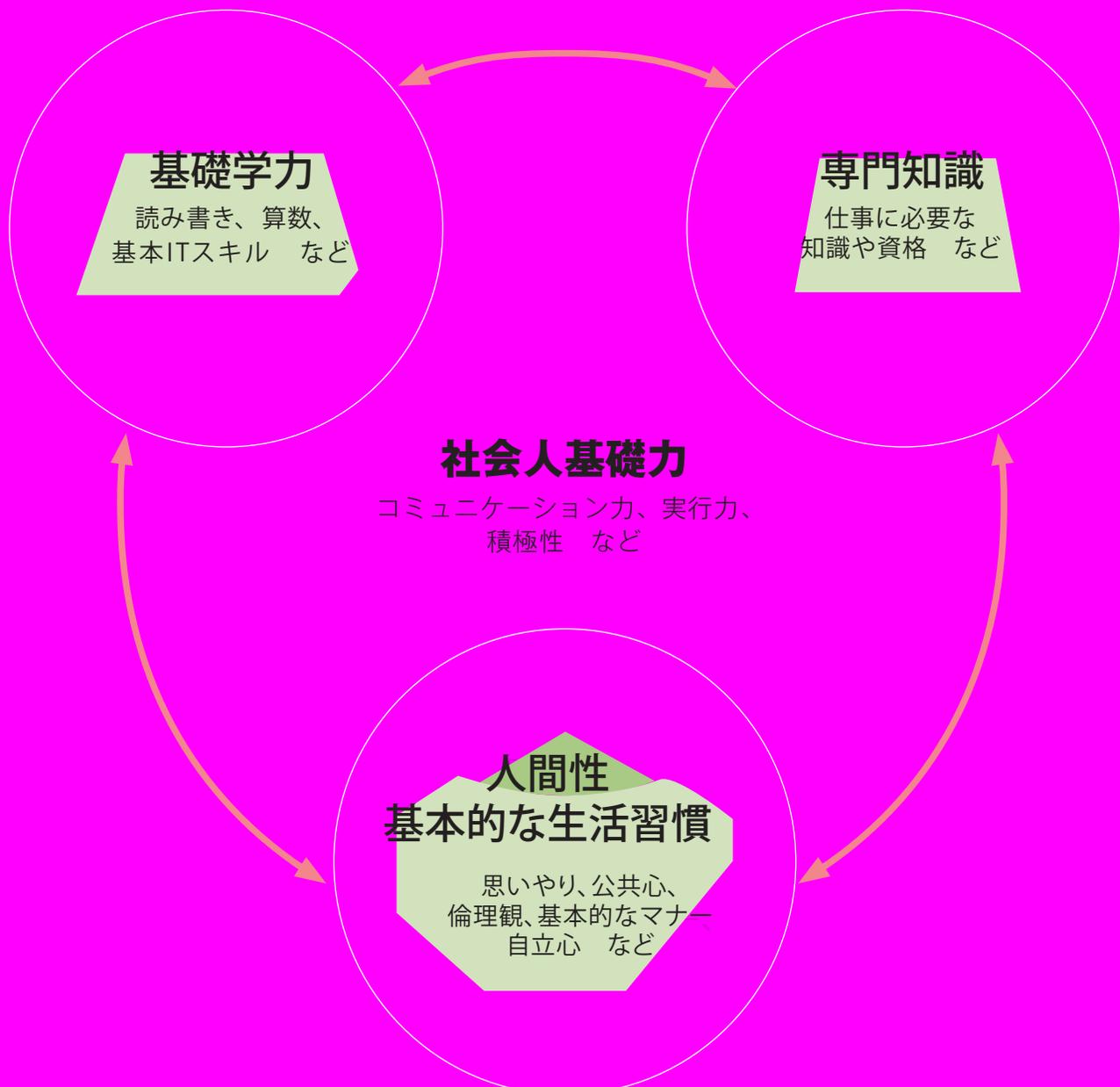
- 04 経済産業省が提唱する「社会人基礎力」とは？
- 05 高知学園短期大学が目指す「社会人基礎力」育成とキャリア目標
- 06 高知学園短期大学の『キャリア形成基礎力』とは？
- 07 emotion — 感じ、広げる力
- 08 action — 前に踏み出す力
- 09 thinking — 考え抜く力
- 10 teamwork — チームで働く力
- 11 『キャリア形成基礎力』は複数の力が重なって活かされる
- 12 伝達力・柔軟性・状況把握力
- 13 ストレスコントロール力・発信力
- 14 主体性・働きかけ力・計画力
- 15 課題発見力・計画力・感じる力（感受性）・広げる力（受容力）
- 16 主体性・実行力・課題発見力
- 18 創造性・計画性
- 19 実行力・主体性・課題発見力

経済産業省が提唱する

とは？

組織や地域社会の中で、多様な人々と共に仕事をしていく上で必要な基礎的能力

「社会人基礎力」は「基礎学力」「専門知識」「人間性、基本的な生活習慣」と相互的に作用しあいながら、様々な体験などを通じて循環（スパイラル）的に成長していくものです。

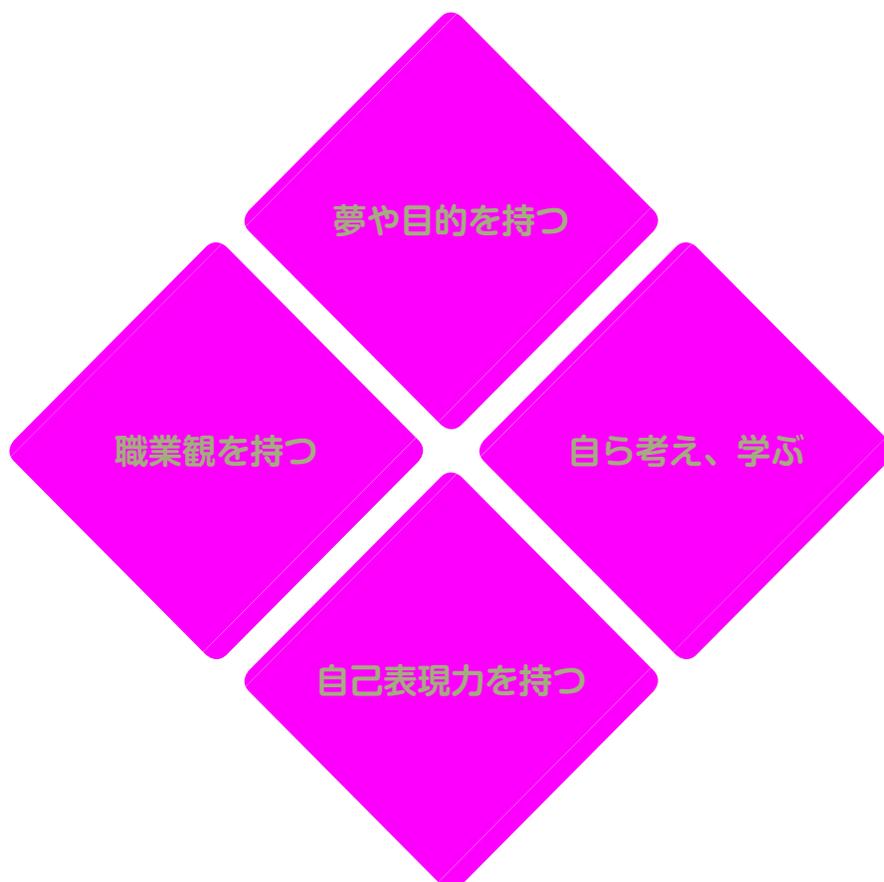


高知学園短期大学が目指す 「社会人基礎力」育成とキャリア目標

- 職場や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきています。
- 「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しています。
- 高知学園短期大学は、この3つの能力にもう1つ「感じ、広げる力」を加え高知学園短期大学『キャリア形成基礎力』として学生が心豊かに学び、専門教育を発揮、活躍できる社会貢献者を育成します。
- 更に、専門教育とキャリア形成力が結びつき、個人のキャリア形成を理解するキャリア目標も明確にします。

この目標とキャリア形成力で自信を持って社会に旅立ってください。

高知学園短期大学のキャリア目標



高知学園短期大学の

とは？

これから、社会で活躍するためには、「社会で求められる能力」についても知っておく必要があります。

基礎学力や専門知識に加え、コミュニケーション能力や実行力、積極性など が必要とされています。

コミュニケーション能力等は、多様な人々との「チームワーク」により新しい価値を創出する際に必要な能力であり、職場等で重視されます。

ビジネス・教育環境の変化を踏まえると、従来、なかば「常識」とされてきた「職場等で求められる能力」を明確にし、育成・評価することが必要と言われ、提唱されたのが「社会人基礎力」です。

高知学園短期大学では、この「社会人基礎力」に「感じ、広げる力=感性」を加えて、心豊かに広がりある高度専門職業人として誇りあるキャリアを形成して欲しいと願っています。

このキャリアチャレンジ・ノートでは、学びの集大成としてキャリア形成に必要な基礎能力を理解し、それを自らの行動で知ることができるようにします。

『キャリア形成基礎力』を構成する4つの基礎力

- 1. emotion** —— 感じ、広げる力
人、モノ、情報を積極的に受け入れる柔軟な感性を持ち、周囲に広げていく力
- 2. action** —— 前に踏み出す力
一歩前に踏み出し、失敗しても諦めないで、粘り強く取り組む力
- 3. thinking** —— 考え抜く力
あらゆることに疑問を持ち、解答を得るために手際よく考え抜く力
- 4. teamwork** —— チームで働く力
多様な人々とともに、お互いを尊重しながら目標達成に向けて協力し合う力

emotion

感じ、広げる力

感じる力（感受性） ～感性のアンテナを働かせる力～

例) 未知の人・モノ・情報に対して、積極的に「おもしろそう」「やってみたい」という好奇心旺盛な感性のアンテナを持つ。

受け止める力（受容力） ～想像力を働かせ、受け入れる力～

例) 自分にとって異質なものでも想像力を働かせて理解を示し、好き嫌いの感覚を超えて自分の中に受け入れる力。

広げる力（発信力） ～自らの考えや発想を伝え、広げていく力～

例) 感性のアンテナで受け止めた様々な情報を自分の言葉で表現し、周囲に発信、伝え合う力。

action

前に踏み出す力

主体性 ～物事に進んで取り組む力～

例) 上司や先輩からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを積極的に見つけて正確な判断で取り組む。

働きかけ力 ～他人に働きかけ巻き込む力～

例) 人が嫌がるような仕事でも周囲に「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって人々を高いモチベーションで動かしていく。

実行力 ～目標を設定し確実に行動する力～

例) 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。失敗しても何度でも挑戦する気持ちを持つ。

thinking

考え抜く力

課題発見力 ～現状を分析し目的や課題を明らかにする力～

例) 仕事の内容を理解し、目標に向うための課題を見つけ、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。

計画力 ～課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する～

例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を比較検討することで、それに向けた準備をする。

創造力 ～新しい価値を生み出す力～

例) アイデアの考察は、既存の発想にとらわれず、広い視野と応用力で課題に対しての新しい解決方法を考える。

teamwork

チームで働く力

発信力 ～自分の意見をわかりやすく伝える力～

例) 自分の考えは、相手の立場にも立って整理した上で、的確に伝える。

傾聴力 ～相手の意見を丁寧に聞く力～

例) 相手の話しやすい環境を考慮し、適切なタイミングで質問するなどして、相手の意見を引き出す。

柔軟性 ～意見の違いや立場の違いを理解する力～

例) 自分の中のルールや、やり方に固執せず相手の意見や立場を尊重し理解する。

状況把握力 ～自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力～

例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割をはたすべきかを客観的に理解する。

規律性 ～社会のルールや人との約束を守る力～

例) 状況に応じて、社会のルールやマナーに則って自らの発言や行動を適切に律する。

ストレスコントロール ～ストレスの発生源に対応する力～

例) ストレスを感じても、自分に成長の機会を与えてくれているとポジティブに捉え、肩の力を抜いて対応する。

キャリア形成基礎力は

複数の力が重なって活かされる

4つの基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」は、それぞれが複数融合して1つの行動になります。

これからは、具体的にどのような事でその力が発揮できるかを解説します。

ぜひ、自分の経験や体験、意見も書き込んで「自分力の記録」を作ってください。



●チームで働く力を考える

発信力・柔軟性・状況把握力

ひと昔前は、仕事のしかたの基本的な姿勢として、「ハウレンソウ」という表現がよく使われていました。これは、新人研修などでも、必ず教えられていたものです。

ハウレンソウとは、「ハウ=報告」「レン=連絡」「ソウ=相談」と、それぞれ頭の文字をとったものです。あなたは日常生活で、どんなハウレンソウをしていますか？どんな仕事でも、報告を忘れず、こまめに連絡をし、困ったことがあったら上司に相談しなさいというのが、このハウレンソウの内容です。

現代に必要なハウレンソウの内容を簡単に紹介します。ただし、今の時代、このハウレンソウだけ

では、仕事がスムーズに進まないことが多くなってきています。ハウレンソウは、もちろん大事なのですが、それにプラスして「5:7の法則」というものが必要になってきているのです。

5:7の法則とは、5割できたところ、7割できたところで、そのつど、ハウレンソウをしなさいというものです。社会が急速に変化しているため、仕事が最後まで終わるのを待ってハウレンソウをしていたのでは、また、最初からやり直しになるということも、少なくないからです。この先、仕事をする際には、ぜひ、経過途中でのハウレンソウも心がけてください。

ハウレンソウを料理しよう！

報告

- ・仕事にとりかかる前に、自分が常に報告すべき要点をつかんでおく
- ・上司の好きな報告の仕方を知っておく
- ・報告のタイミングを計る
- ・報告後の経緯も報告する

連絡

- ・出先からの連絡方法を決めておく
- ・連絡をもらってからの返しは早くする
- ・自分へつながる連絡方法は複数用意しておく
- ・連絡をするから次が生まれると心得る

相談

- ・ときにはプライベートな相談もする（より信頼を得やすくなる）
- ・相談とグチはしっかり分ける
- ・何でも相談できる人をつくっておく
- ・相手の相談も受ける



ストレスコントロール・発信力

社会に出たら、あなたは新入。同期以外はみんな先輩です。

そして、職場では、上司と呼ばれる人がいます。上司はあなたに仕事を教えてくれる人ですが、同時に、あなたの仕事を評価する人でもあります。学校での活動や、サークル、ゼミなどで、先輩後輩関係を経験したことは誰にでもあるはず。そのときを思い出してください。どんな先輩が尊敬できる先輩でしたか？

先輩でも、先輩と呼べないような人はいませんか？

それはどうしてでしょうか？

どんな上司の下で働くかによって、あなたの職場での成長や、周囲との仕事のしやすさ、周囲からの認められ方も変わってきます。特に、新人時代にどんな上司についていたかは、その人の仕事のやり方や職場に対する考え方に大きく影響を与えるといっています。

また、上司と上手な関係を築くためには、あなた自身が「教えたくなる後輩」になることも重要です。目上の人や上司は基本的に「目のつけどころがいい質問」「ポイントをおさえた質問」をしてくると、つつい丁寧になんて教えたくなるものです。ぜひ、上司が自分の引き出しを開けて教えたくなるような質問の仕方をしましょう。

残念なのは、自分で上司を選べないことです。どんなに尊敬できない上司でも、自分と合わない上司でも、うまく付き合っていくしかありません。そこが社会人のつらいところ。まずは、どんな上司やリーダーが理想なのか、友人とロールプレーをしてみましょう。

2人でペアになって、どちらがどちらの役を担当するか決めます。「相談するとき」「トラブルにあったとき」など、状況を設定して、どういう対応をすべきか演じてみます。役を交替してもやってみましょう。



●前に踏み出す力と考え抜く力

主体性・働きかけ力・計画力

ここでは、「働く」ということをより強く意識してもらうために、あなたがどこでどのように働いていきたいのかを、いろいろな面からイメージしましょう。

この先、あなたが働く「場」は1つではないはずです。

同じ会社の中でも、異動をしたり、転勤で勤務地がまったく変わってしまうこともあるでしょう。

会社の吸収・合併、または、あなた自身の転職などで、職場が変わってしまうことも、大いにありえることです。

また、あなた自身のライフスタイルの変化によって、働き方が変わることもあるでしょう。特に、親の介護問題で実家に戻ったり、女性なら、妊娠・

出産・育児などで、働く場が変わっていくことはよくあることです。

自分はどのように働いていきたいのか？

自分が目指す方向はどこにあるのか？

ということを、常に忘れずに働いていきましょう。いざ働きだしたときに、「理想と違った!」「こんなはずではなかった!」と思うことを、リアリティショックを受けるといいます。このリアリティショックを受けないためにも、理想と現実のギャップを今からできるだけ埋めておくことが必要です。現実はおそらくあなたが思っているようなイメージではないと心得ていたほうがいいでしょう。でも、自分の手でつかみとった仕事、その仕事で働く人の姿は、生きいきと輝いて美しいものです。



●考え抜く力と感じ、広げる力

課題発見力・計画力・ 感じる力(感受性)・広げる力(受容力)

あなたは、1日に、どれくらいのニュースを自分の中に取り入れる時間を持っていますか？

インターネットの普及で、世界中の情報がリアルタイムで手に入るようになった今、自分の身近なことにしか興味のない人が増えてきたように思います。その世相が、ブログやツイッターの流行にも現れています。

若者の活字離れとともに、新聞やテレビのニュースを見る人もどんどん減っています。インターネットのニュースは、正しいかどうかもわからない情報も多く、情報の取捨選択も偏っているものだと

思っておいたほうがいいでしょう。もっと広く、政治経済から文化的なことまで世の中全体の動きを知るためには、やはり、今のところ、新聞が一番だといえます。

また、新聞は、情報の宝庫です。自分に関係のない職業のことを知ることで、ビジネスチャンスの種を拾うことになる可能性もあるのです。年上の人と話をするときには、「そういえば、今朝の朝刊に〇〇のことが出ていましたね」といった話題で盛り上がることも重要なことです。ぜひ、新聞を読むようにしましょう。



●考え抜く力と前に踏み出す力

主体性・実行力・課題発見力

ここでは、実際の学生が1年間新聞の切り抜きを自分の力にする為にファイリングしたものを紹介します。

新聞をファイルするだけでなく、その記事から知らない事象・言葉・会社等様々なことを発見し、毎月自分で「今月の知らない単語リスト」も作りました。

誰もやらないから、やらない。やっても結果が出ない事をやらない。という主体性の無い行動では、新しいことと出会う事ができません。このファイリングを参考に、自分自身の学びと社会をつなげて、新しい課題を発見していくことで“力”がついていき“自信”となります。

課題発見力



事実の要約

医療機器断層撮影装置（CT）など画像診断機器で、患者の負担軽減に焦点を当てた製品の開発・販売を加速する。東芝子会社は診断時に受ける放射線量の量を抑える技術を確認。日立制作所子会社などは画像撮影時に患者に与える圧迫感などを減らす機器を発売した。東芝子会社の東芝メディカルシステムは検査時に放射線を発するCTで、従来機器の約4分の1の放射線量で同程度の画質を得られる技術を開発した。

理由

従来機器の放射線量でも問題はないが、患者の中には放射線に不安感を持つ人もいとされているから。医師が放射線量が一段と低くなったことを患者に説明できるようになれば、受信を進めやすくなる。さらに、複数回にわたって画像診断する場合でも、患者が受ける放射線量の総量が従来機器より小さくなれば不安も軽減できるから。

継続力

今月の知らない単語リスト

フライトシステムコンサルティング (会社)

東京都渋谷区に本社を置く、映像・音楽などのデジタルコンテンツの管理、システムサービスを中心としたコンサルティング会社。iPhone用のソフトウェアの開発もしてる。設立：1988年・従業員：75名・資本金：約800万円・社長：片山圭一郎さん

今後の予想・未来

高齢者やがん患者の増加などに伴い、画像診断機器の重要性は一段と高まっている。各社の開発競争は今後、病気の早期発見などにつながる画像精度だけでなく、患者サイドに立った「使い勝手」向上面でも激しくなりそうだ。

自分の意見

率直に、東日本大震災の影響による原発のせい、放射線量を抑える製品の開発を進め始めたのかな？ と思いました。医療機器の国内市場は成熟しているので、ニーズに合わせた放射線量を抑えた製品の開発は、需要喚起のポイントになると感じました。また、日本のCTの普及度は人工100万人あたり976台と米国の約3倍、フランスの9倍もあるので、患者目線に合わせた製品の開発は、シェア拡大に繋がるのではないかと思います。

**ロイヤルゲート (会社)**

東京都港区六本木に本社を置く、IT、ソーシャルコマース、スマートフォンソリューション事業を行っている。設立：2007年・従業員：150名・本金：2,500万円・社長：梅村圭司さん

有機ELパネル

エレクトロ・ルミネッセンスの略。映像のもとになる画素に、自ら発光する有機材料を使う。パネルの後方に光源を置いて、動画象を映し出す液晶テレビより薄く、消費電力も抑制できる。

プライベートブランド

小売業や卸業が企画し、独自の商標で販売する商品

医療クラウド

電子カルテや、投薬履歴、CTスキャン画像など、医療に関する様々な情報。メリットは、必要な情報をどこでも共有できる。災害時でも医療情報を保護できること。

GMS

ゼネラルマーチャンダイズストアの略。総合スーパーの意味。スーパーマーケットではなく、家具や寝具など、生活に必要なものすべてがそろったイオンのような大型店。

EV車

電気自動車 (Electric Vehicle) の略。電気モーターを動力源とする電気輸送機器。

白物家電

炊飯器・ドライヤー・シェーバーなどの生活家電。電子レンジやエアコンなども含む

黒物家電

オーディオ機器のこと。(テレビやプレイヤー)

棚卸資産回転数

棚卸資産が効率的に回転できているかを表す指数。

●考え抜く力

創造性・計画性

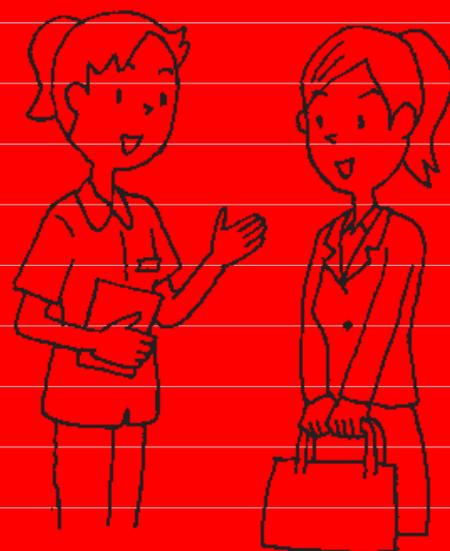
就職活動をするにあたって、まずはどんな会社があるのかを調べることも、大事な作業の1つです。キャリアセンターなどを利用するのが簡単ですが、会社の情報を得る方法は、それ以外にもいろいろあります。

就職活動専用のwebサイトをチェックしたり、行きたい会社のホームページをチェックするのも手っ取り早い方法でしょう。ただし、ホームページなどは、注意も必要です（詳細は次ページを見てください）。

本格的に就職活動が始まったら、会社が合同で開催する会社説明会などでも、採用担当者と直接話をするすることができます。また、OB訪問をしたり、興味のある会社に勤めている人を紹介してもらい、話を聞くという方法もあります。

興味のある業種があったら、その業種のトップから10位ぐらいまでの会社を調べて、売り上げの規模や働いている人の数、社風などを比較してみましょう。そうすることで、その職場への理解が深まるだけでなく、会社間の違いもより深く知ることができます。

会社のホームページや入社案内のパンフレット、会社説明会などで、マイナスポイントをわざわざ掲載している会社は少ないものです。しかし、どんな会社も、課題や問題を抱えています。それを見抜く努力をしましょう。見える事実だけを見ていては、その会社の本質は見えてきません。そして、会社は、そんな課題や問題を解決してくれる人を求めているのです。





学校法人 高知学園
高知学園短期大学
<http://www.kochi-gc.ac.jp>

学 科

専 攻

学籍番号

氏 名
